Canon

EOS D60
DIGITAL

使用説明書



ご使用前に必ずこの使用説明書をお読みください。将来いつでも使用できるよう大切に保管してください。

Exif Print　DPOF™

J
日本語版

Canon EOS D60 DIGITAL 使用説明書 J

キャノン製品のお買い上げありがとうございます。

EOS D60は、優れた機動性を備えた高性能デジタルAF一眼レフカメラです。本機は、有効画素数約630万・高精細CMOSセンサー搭載、全EFレンズ群対応、いつでもすぐに撮影できる画期的な機動性、全自動撮影から高度な応用撮影にまで最適対応する豊富な撮影機能など、さまざまな特長を備えています。
なお、記録媒体には、コンパクトフラッシュカード（CFカード Type I, II）を使用します。

ご使用になる前に、カメラを手にとりながら、この使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

＊ CFカードは、キヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。

妨害電波自主規制について

このカメラ（本機）は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準にもとづくクラスB情報技術装置です。このカメラ（本機）は、家庭環境で使用することを目的としていますが、このカメラ（本機）をラジオやテレビジョン受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

試し撮りと撮影内容の補償について

必ず事前に試し撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。
万一、カメラ（本機）や記録媒体（CFカード）の不具合により撮影画像の記録やコンピューターへの読み込みがされなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

- CanonおよびEOSは、キヤノン株式会社の商標です。
- Adobe、およびPhotoshopは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
- IBM PC/ATシリーズ、およびMicrodriveは、米国International Business Machines社の商標または登録商標です。
- Macintoshは、米国および他の国で登録された米国アップルコンピュータ社の商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、現在、商標登録出願中です。
- DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

＊ DCFは、主としてデジタルカメラの画像ファイルを関連機器間で簡便に利用し合うことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

同梱品の確認

初めてご使用になる前に、以下のものが全てそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

- □ EOS D60／カメラ本体（ボディキャップ付き、日付／時計機能用リチウム電池内蔵）
- □ **アイカップ Eb**
- □ **バッテリーパック BP-511**
- □ **コンパクトパワーアダプター CA-PS400**
- □ **DCカプラー DR-400**
- □ **インターフェースケーブル IFC-200PCU**
- □ **ビデオケーブル VC-100**
- □ **ネックストラップ EW-100DB**（アイピースカバー付き）

デジタル ソリューション ディスク
- □ EOS Digital Solution Disk

アドビ フォトショップ エルイーディスク
- □ Adobe Photoshop LE Disk

- □ **EOS D60 使用説明書**（本書）
- □ **EOS D60 ソフトウェア使用説明書**
  ソフトウェアのインストール方法や、EOS D60で撮影した画像のコンピューターへの取り込み、RAW画像の現像処理・画像処理の方法について説明しています。
- □ **バッテリーパック BP-511使用説明書**

- □ **お客様ご相談窓口一覧**
- □ **保証書**
- □ **クイックオペレーションガイド**

アクセサリーズ
- □ **EOS D60 Accessories**
  EOS D60の主要アクセサリーを紹介しています。

※ 撮影画像を記録するCFカードは同梱されていませんので、別途ご購入ください。
なお、CFカードはキヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。

※ マイクロドライブは、ハードディスクを使用した記録媒体であり、大容量な上に、1MBあたりの単価が安いという利点があります。しかし、フラッシュメモリーを搭載したCFカードに比べると振動や衝撃に弱いので、マイクロドライブをお使いになるとき、特に記録や再生中は、カメラに振動や衝撃を加えないよう、十分にご注意ください。

このデジタルカメラは、Exif 2.2（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいなプリント出力結果を得ることができます。

目次

はじめに

1 撮影前の準備と基本操作 17

2 簡単な撮影 31

3 撮影目的に合わせた応用撮影 ...43

4 ストロボを使った撮影 79

5 撮影画像の再生操作 91

6 メニューによる機能設定 113

7 資料 124

1
2
3
4
5
6
7

取り扱い上のご注意

カメラについて

（1）カメラは精密機器です。落としたりショックを与えたりしないでください。

（2）このカメラは防水構造になっていませんので、雨天下や水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。また、水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。

（3）カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。

（4）直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。

（5）カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。

（6）レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミがついているときは、市販のブロアーブラシで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。

（7）カメラの電子接点は手で触らないでください。腐食の原因となることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。

（8）カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは結露の発生をふせぐために、カメラをビニール袋に入れ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。

（9）結露が発生したときは、故障の原因となりますので、カメラをお使いにならないでください。CFカード、バッテリーをカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラをお使いください。

（10）カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り外し、風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。

（11）カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。

（12）長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかった後や海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのキヤノンサービスセンター、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルと液晶モニターについて

（1）液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られています。使用中に黒、赤、緑のわずかな点が現われ、消えないことがありますが、これは有効画素99.98%の範囲内で、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。

(2) 強く押さえたり、衝撃を与えないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
(3) 汚れたときは、市販のブロワーブラシで吹き払ったり、傷が付かないよう、やわらかい布で軽くふいてください。特に汚れがひどいときは、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。
(4) 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

日付／時計機能用リチウム電池について

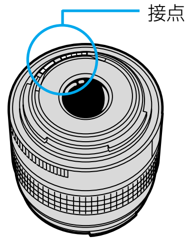
(1) リチウム電池はお子様の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと大変危険です。万一お子様が飲み込んだ場合、化学物質による被害を受ける危険性があります。ただちに医師に相談してください。
(2) 金属製のピンセットなどでつかまないでください。ショートするおそれがあり危険です。
(3) 分解や加熱をしないでください。破裂する危険があります。

CFカードについて

(1) CFカードは精密にできています。落としたり振動を与えたりしないようにしてください。CFカードに記録されている画像が壊れる原因となります。
(2) テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや静電気の発生しやすい所で保管、使用しないでください。CFカードに記録されている画像データが消えてしまうことがあります。
(3) 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。CFカードが変形して使用できなくなります。
(4) CFカードに液体をこぼさないでください。
(5) 大切な画像データを守るため、CFカードは必ずケースなどに入れて保管してください。
(6) 指定外のCFカードを使用すると、画像の記録・再生ができないものがあります。このような場合は、指定のCFカードをご使用ください。
(7) 曲げたり、強い力や衝撃を加えないでください。
(8) 温度の高い所、ほこりや湿気の多い所、静電気や電磁波が発生している所に保管しないでください。

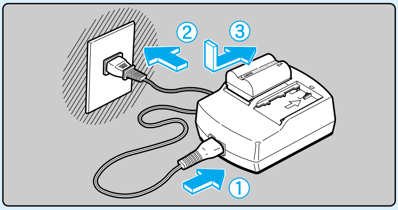
レンズの接点について

レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。



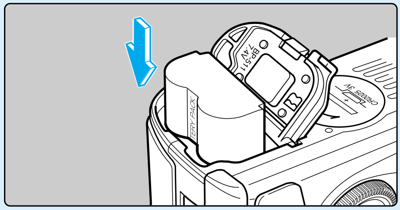
すぐ撮影したいかたのために

(→＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。



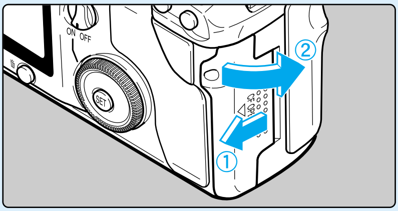
1 **バッテリーパックを充電する**

アダプターに電源コードを接続し、バッテリーを取り付けます。充電ランプが点滅から点灯に変わったら、充電完了です。充電時間は約90分です。（→18）



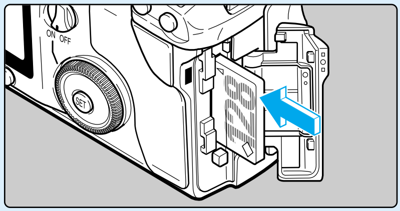
2 **バッテリーパックを入れる**

バッテリー室ふたを開けて、充電済みのバッテリーをロック位置までしっかりと入れます。
「カチッ」と音がするまでふたを閉じます。（→20）



5 **CFカードスロットカバーを開ける**

カバーを矢印方向にずらしてから、開きます。（→24）



6 **CFカード（別売）を入れる**

CFカードを入れ、カバーを閉じます。（→24）

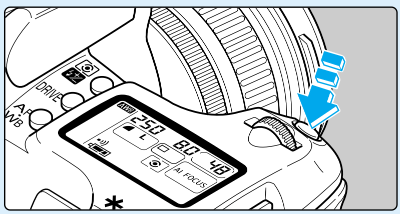
- キヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。



9 **ピントを合わせる**

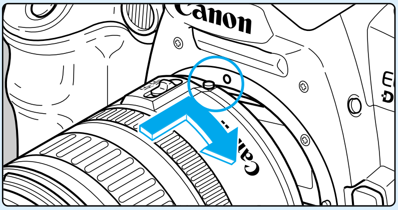
写したいもの（被写体）にAFフレームを合わせ、軽くシャッターボタンを押して、ピントを合わせます。（→25）

- ピントが合ったAFフレームが一瞬赤く光ります。
- 暗いときや日中逆光時には、内蔵ストロボが自動的に上がります。（→80）



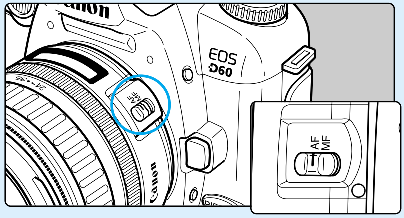
10 **撮影する**

さらにシャッターボタンを押して撮影します。（→25）



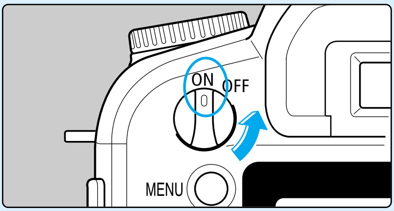
3 レンズを取り付ける

レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。(→23)



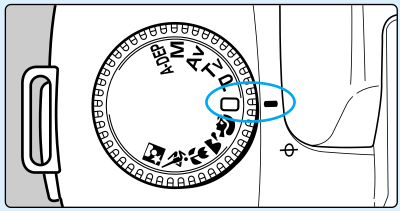
4 レンズのフォーカスモードスイッチをAFにする

(→23)



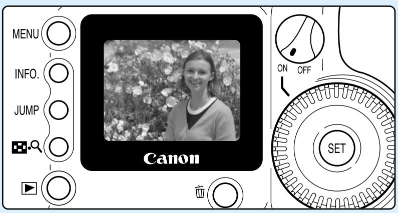
7 電源を入れる

メインスイッチを〈ON〉にします。(→25)



8 モードダイヤルを〈□〉(全自動)にする

(→32)

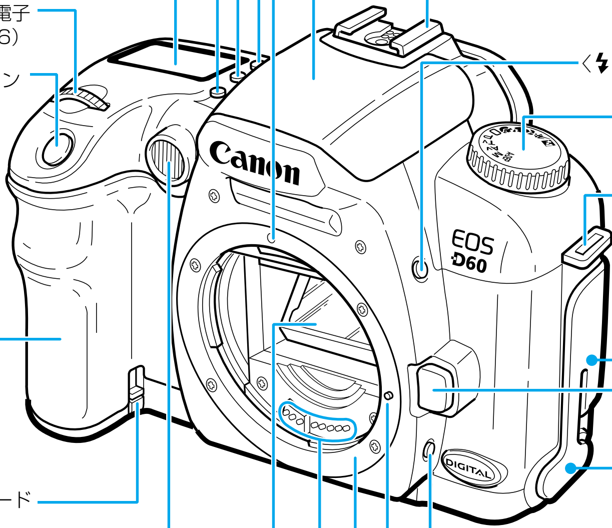


11 撮影した画像を確認する

撮影した画像が約2秒間表示されます。(→34)

- 今までに撮影した画像を確認したい場合は、「撮影画像を見る」(→34)「撮影した画像を見る」(→92)を参照してください。
- 撮影した画像を消去したい場合は、「撮影画像を消去する(1コマ消去)」(→37)を参照してください。

各部の名称



〈DRIVE〉ドライブモード選択ボタン（→57）

〈⊡/⚡±〉測光モード選択／ストロボ調光補正ボタン（→55、85）

表示パネル（→12）

〈 〉メイン電子ダイヤル（→26）

シャッターボタン（→25）

グリップ（バッテリー室）

DCカプラーコード通し部（→22）

赤目緩和／セルフタイマーランプ（→83、75）
AF補助光投光部（→33）

ミラー（→78、111）

〈AF・WB〉AFモード選択／ホワイトバランス選択ボタン（→48、58）

レンズ取り付け指標（→23）

内蔵ストロボ（→80）

アクセサリーシュー（→86）

〈⚡〉ストロボボタン（→80）

モードダイヤル（→14）

ストラップ取り付け部（→17）

レンズロック解除ボタン（→23）

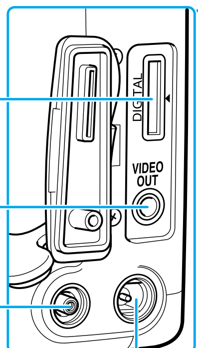
絞り込みボタン（→67、89）

レンズロックピン

レンズマウント

接点（→7）

カバー内



DIGITAL（デジタル）端子（→ソフトウェア使用説明書参照）

VIDEO OUT（ビデオ出力）端子（→106）

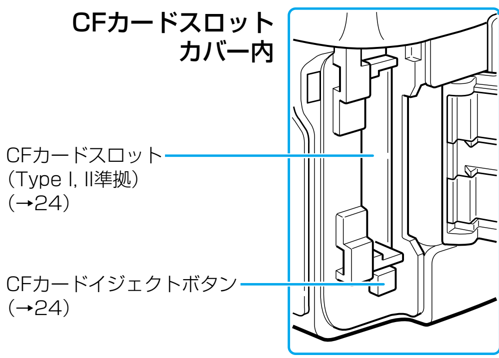
シンクロ端子（→90）

リモコン端子

（→＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。



CFカードスロットカバー内



表示パネル

シャッター速度「4000～30''、buLb」
データ処理中「buSY」
日付／時計機能用電池警告「C bC」
クリーニング警告「AC」
現像パラメーター「PA-1～PA-3」
ISO感度「100～1000」

CF未装填警告「no CF」
CFフル警告「FuLL CF」
CFエラー警告「Err CF」
測距点「o o o」
エラーコード「Err 01～99」
クリーニング「CLEAn」

絞り数値「00～91」

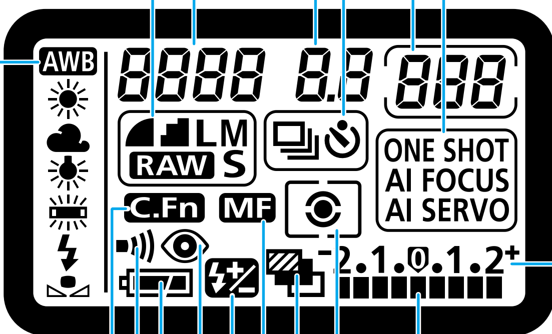
ドライブモード
- 1コマ撮影
- 連続撮影
- セルフタイマー

撮影可能残りコマ数「999～0」
セルフタイマー作動「10～1」
バルブ露光時間「0～999」
ISO感度「150」

記録画素／圧縮率
- Large/Fine
- Large/Normal
- Middle/Fine
- Middle/Normal
- Small/Fine
- Small/Normal
- RAW RAW

AFモード
- ONE SHOT AF
- AI FOCUS AF
- AI SERVO AF

ホワイトバランス
- AWB オート
- 太陽光
- くもり
- 電球
- 蛍光灯
- ストロボ
- マニュアル



露出段数目盛

C.Fn カスタム機能

電子音

バッテリーチェック

赤目緩和

ストロボ調光補正

露出レベル
- 露出補正量
- AEBレベル
- ストロボ調光補正量

CFカード書き込み経過

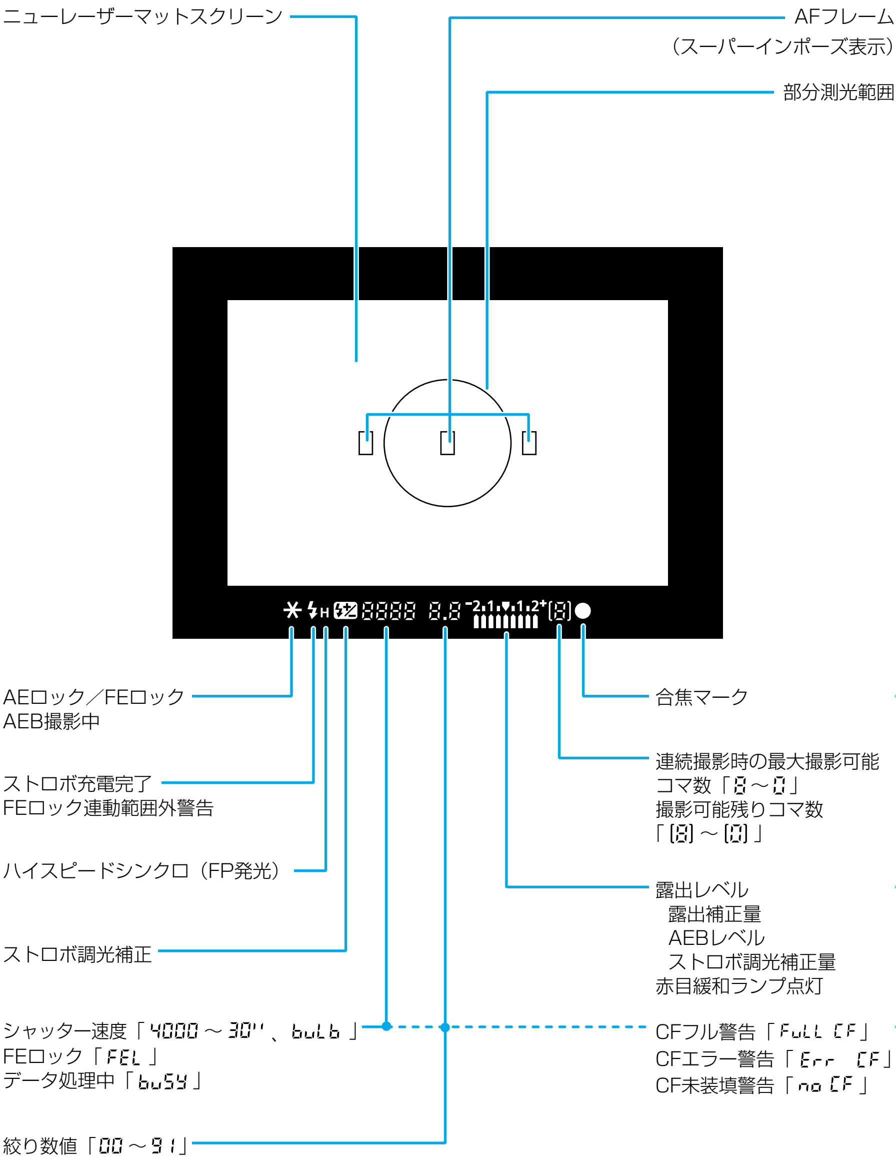
測光モード
- 評価測光
- 部分測光
- 中央部重点平均測光

AEB

MF 手動フォーカス

上の図はすべてを表示したものです。実際には状況に応じた部分のみ表示されます。

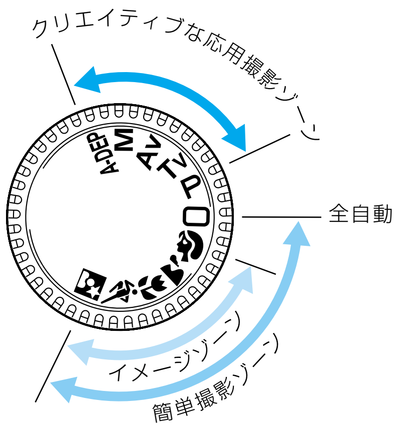
ファインダー内表示



上の図はすべてを表示したものです。実際には状況に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤルについて

モードダイヤルは2つの機能ゾーンに分けられています。



① 簡単撮影ゾーン

- 基本操作はシャッターボタンを押すだけです。

▢ ：**全自動**（→32）
カメラまかせの全自動撮影ができます。

イメージゾーン

被写体別にカメラまかせの全自動撮影ができます。

：ポートレート（→38）
：風景（→39）
：クローズアップ（→40）
：スポーツ（→41）
：夜景ポートレート（→42）

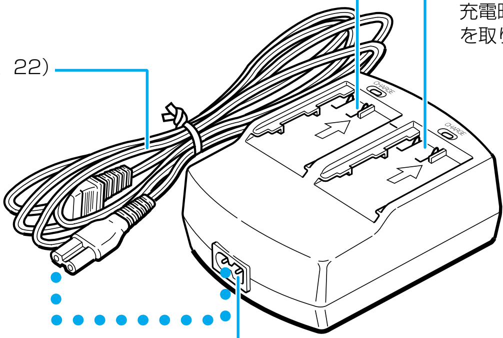
② クリエイティブな応用撮影ゾーン

思いどおりのさまざまな撮影ができます。

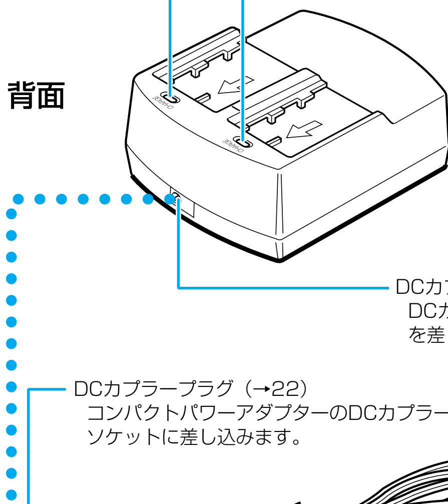
P ：プログラムAE（→62）
Tv ：シャッター優先AE（→64）
Av ：絞り優先AE（→66）
M ：マニュアル露出（→68）
A-DEP ：自動深度優先AE（→70）

（→＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。

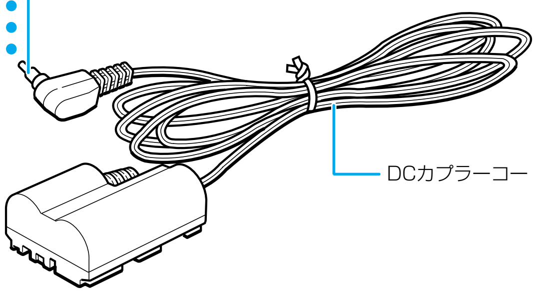
コンパクトパワーアダプター CA-PS400



背面

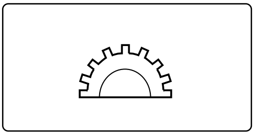


DCカプラー DR-400

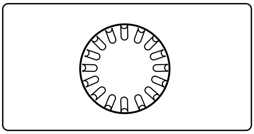


本書の操作説明上のお断り

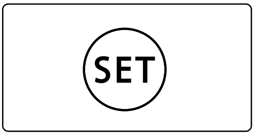
- 電源が入っていることを前提に操作方法を説明しています。各操作をする前に、まず最初にメインスイッチを〈ON〉にしてください。



- 本文中の〈 〉はメイン電子ダイヤルを示しています。



- 本文中の〈 〉はサブ電子ダイヤルを示しています。



- 本文中の〈SET〉は設定ボタンを示しています。メニュー機能、カスタム機能の設定に使用します。

- 本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやダイヤル、マークなど、カメラに表示されている絵文字を使用しています。「各部の名称」（→10）を参照してください。
- （→＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。
- 本書では、EF24-85mm F3.5-4.5 USMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- メニュー機能およびカスタム機能は、初期状態を前提に説明しています。
- （ 4 ）／（ 6 ）／（ 16 ）はボタンから指を離しても、その状態がタイマーによりそれぞれ4秒間／6秒間／16秒間保持されることを示しています。
- 作例写真は、原則として35mmフィルム使用の一眼レフカメラで撮影したものを使用しています。

■ **本文中の以下のマークがついた欄は、それぞれ次のような内容になっています。**

：撮影に不都合が生じるおそれのある注意事項が書かれています。

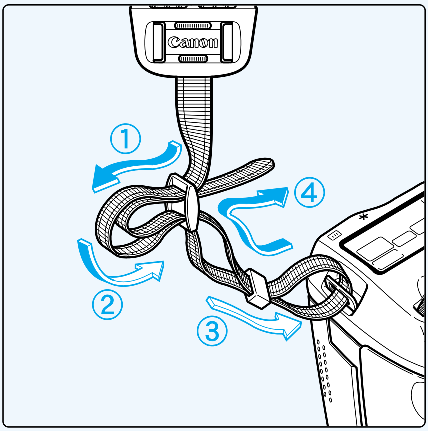
：基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。

：カメラ操作上あるいは撮影時のヒントが書かれています。

C.Fn：それぞれの機能に関するカスタム機能の簡単なガイドが書かれています。詳細については『カスタム機能で変更できる内容』（→118）を参照してください。

撮影前の準備と基本操作 1

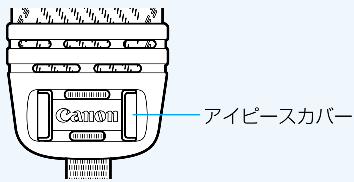
撮影の前にしておかなければならない準備や設定、シャッターボタンの働きについて説明します。



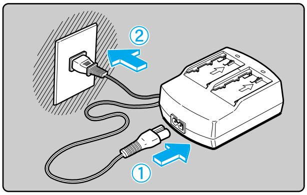
ストラップ（吊りひも）の取り付け方

ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップについている止め具の内側を通します。ストラップを引っ張っても止め具の部分でゆるまないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーがついています。（→76）

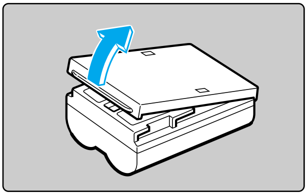


バッテリーパックを充電する



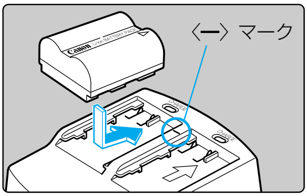
1 電源コードを接続する

- 電源コードをアダプターに接続します。
- プラグをコンセントに差し込みます。



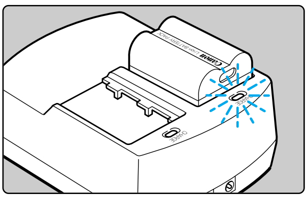
2 カバーを外す

- 外したカバーはなくさないように保管してください。
- バッテリーをカメラから取り外したときは、ショート防止のため必ずカバーを取り付けてください。



3 バッテリーパックを取り付ける

- 〈—〉 マークにバッテリーの先端を合わせ、押し付けながら、スライドさせて取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。
- 左右どちらのバッテリー取り付け部に取り付けても充電できます。



バッテリー残量	CHARGEランプ
0～50%	1回／秒：点滅
50～75%	2回／秒：点滅
75%以上	3回／秒：点滅
充電完了	点灯

4 充電する

➡ バッテリーを取り付けると自動的に充電が始まり、CHARGEランプが点滅します。
➡ 充電が完了すると点灯に変わります。
➡ **使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、バッテリー1本あたり約90分です。**

- CHARGEランプの点滅／点灯で、バッテリーの充電具合や残量を確認することができます。

➡ 充電が完了するとCHARGEランプが点灯します。続けて約1時間充電を続けると、フル充電にすることができます。

- 充電が終わったら、バッテリーを外し、電源コードをコンセントから抜いてください。

- **コンパクトパワーアダプターに付属のDCカプラーを接続しているときは、バッテリーを充電することができません。**
- バッテリーパックBP-511以外は充電しないでください。
- バッテリーをカメラに入れたままにしておくと、ご使用にならなくても微少の電流が流れて過放電になり、寿命短縮の原因となります。
  ご使用にならないときは、バッテリーをカメラから取り出し、ショート防止用カバーを取り付けて保管してください。再びご使用になるときには、必ず充電してからご使用ください。
- 過放電したバッテリーを充電すると、CHARGEランプが点滅するまでに数十分かかる場合があります。
- バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。
- 規定の充電をしたにもかかわらず、著しく使用できる時間が低下したときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーをお求めください。

- バッテリーは、2個までアダプターに取り付けて充電することができます。充電は先に取り付けたバッテリーから行われ、充電が完了するとCHARGEランプが点灯し、次に取り付けたバッテリーの充電が開始されます。
  2個のバッテリーの充電が完了（2個のCHARGEランプが点灯）してから、続けて約2時間（バッテリー1個あたり約1時間）充電を続けると、フル充電にすることができます。
- 充電時間は、周囲の温度やバッテリーの充電状態によって異なります。
- バッテリーの残量がなくなると、表示パネルの〈 〉が点滅します。バッテリーをカメラから取り出し、充電してください。
- バッテリーは0℃～40℃の範囲で使用できますが、性能を十分に発揮させるためには10℃～30℃の範囲で使用することをおすすめします。スキー場などの低温下ではバッテリーの性能が一時的に低下し、使用時間が短くなる場合があります。

Li-ion

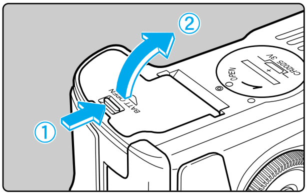
使用後はリサイクルへ

リチウムイオン電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。
リサイクルについては、ご購入販売店にお問い合わせください。

バッテリーパックを入れる

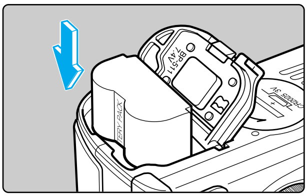
バッテリーパックの入れ方

充電したバッテリーパックBP-511をカメラに入れます。



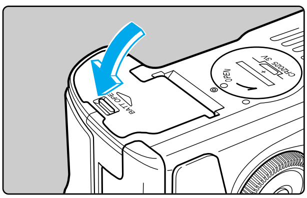
1 ふたを開ける

- レバーを矢印方向にスライドさせて、ふたを開けます。



2 バッテリーを入れる

- バッテリーの向きに注意して入れてください。
- ロック位置までしっかりと入れてください。



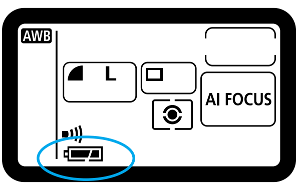
3 ふたを閉じる

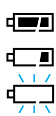
- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

バッテリーパックBP-512は使用できません。

バッテリーチェックについて

バッテリーの残量は、メインスイッチを〈ON〉にしたときに（→25）3段階で表示されます。





：バッテリーの容量は十分です。
：残量が少なくなっています。
：バッテリーを充電してください。

メニュー画面や撮影画像を再生しているときにバッテリーの残量がなくなると、液晶モニター上に［電池無し］の警告表示がでます。その際は、バッテリーを取り出して充電してください。

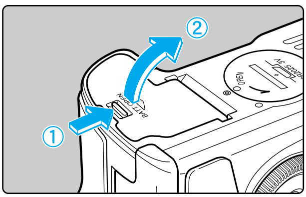
撮影コマ数について

温　度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（+20℃）	約620コマ	約490コマ
低温（0℃）	約480コマ	約400コマ

- 撮影コマ数は、当社試験基準によります。
  (フル充電のバッテリーパック、EF50mm F1.4 USM、撮影画像の確認［入］、撮影画像確認時間［2秒］、記録画素／圧縮率［Large ◢］で撮影・記録)

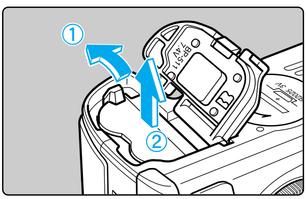
- 実際の撮影条件との違いにより、撮影コマ数は表記数値よりも少なくなる場合があります。
- 液晶モニターを頻繁に使用すると、撮影コマ数は少なくなります。
- シャッターボタン半押し状態を長く続けたり、AFのみ行って撮影しないという操作を頻繁に行なうと、撮影コマ数が少なくなります。
- 低温下（0℃）での撮影コマ数は、表記数値よりも少なくなる場合があります。
- バッテリーグリップBG-ED3（別売）使用時の撮影コマ数については、BG-ED3の使用説明書を参照してください。

取り出し方



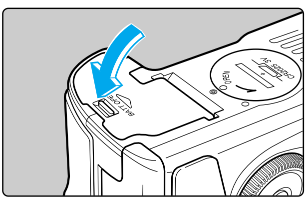
1 ふたを開ける

- レバーを矢印方向にスライドさせて、ふたを開けます。



2 バッテリーを取り出す

- バッテリーロックレバーを矢印方向にスライドさせて、ロックを外し、バッテリーを取り出します。

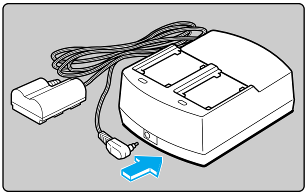


3 ふたを閉じる

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

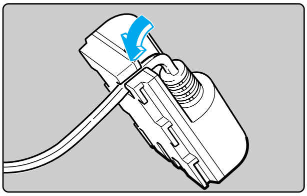
家庭用電源を使用する

DCカプラーを使うと、バッテリーの残量を気にせずに撮影することができます。



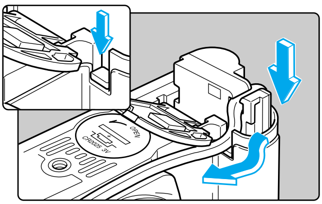
1 DCカプラーを接続する

- DCカプラーのプラグをアダプターに接続します。



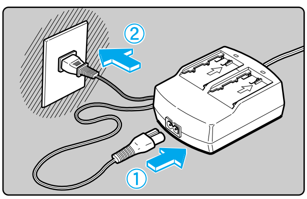
2 みぞにコードをはめ込む

- コードを傷つけないように、ていねいにはめ込んでください。



3 DCカプラーを入れる

- ふたを開け（→20）、DCカプラーコード通し部のカバーを押し下げます。
- DCカプラーを入れ、コードを通し部に入れます。
- コードが通し部にしっかりと入っていることを確認し、カプラーをロック位置までしっかりと入れてください。
- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押し、閉じます。



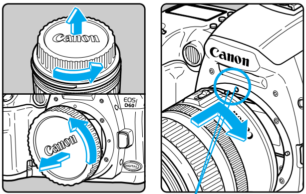
4 電源コードを接続する

- 電源コードをアダプターに接続します。
- プラグをコンセントに差し込みます。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

- 付属のDCカプラー以外は使用しないでください。
- DCカプラーは、EOS D30、D60以外で使用しないでください。

レンズを取り付ける・取り外す

レンズの取り付け方



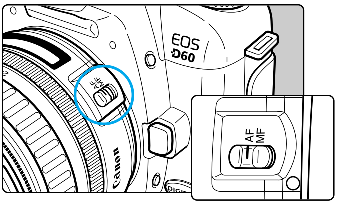
レンズ取り付け指標

1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

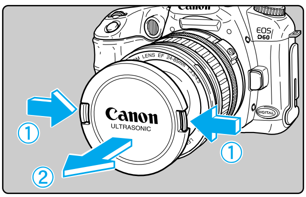
2 レンズを取り付ける

- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。



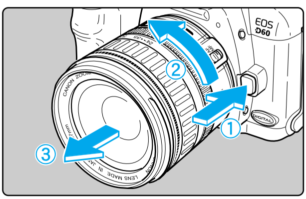
3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈MF〉（あるいは〈M〉）になっているとオートフォーカスできません。そのときは表示パネルに〈MF〉が表示されます。



4 レンズキャップを外す

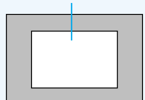
レンズの取り外し方



レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印方向に回す

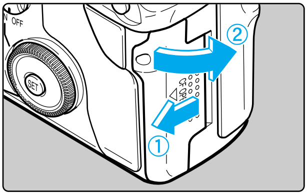
- レンズ取り付け指標が真上になるまで回してから、外してください。

- EOS D60の撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さい（右図）ため、EOS D60に装着したEFレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。
- AFはAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動焦点のことです。
- MF、MはManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動焦点のことです。
- 外したダストキャップ、ボディキャップ、レンズキャップはなくさないように保管してください。



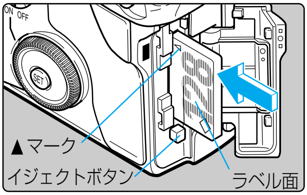
CFカード（別売）を入れる

撮影した画像は、CFカードに保存されます。
本機で使用できるCFカードは、タイプ I，II のCFカードです。



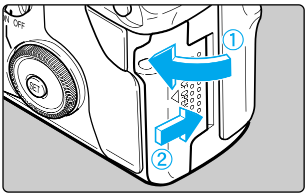
1 カバーを開く

- カバーを矢印方向にスライドさせてから、開きます。



2 CFカードを入れる

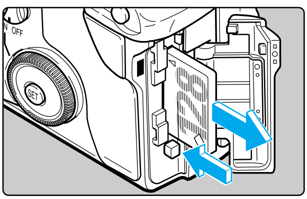
- キヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。
- CFカードのラベル面（▲マーク印刷側）を手前にして、▲マークの矢印の向きにしっかりと奥まで差し込みます。
- ➡ イジェクトボタンが飛び出します。



3 カバーを閉じる

- カバーを閉じてから、矢印方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。

CFカードを取り出す



1 カバーを開く

- メインスイッチを〈OFF〉にします。
- 表示パネルに「buSY」が表示されていないことを確認します。
- アクセスランプ（→11）が消えていることを確認して、カバーを開きます。

2 CFカードを取り出す

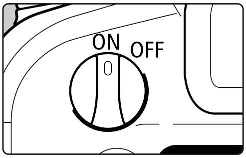
- イジェクトボタンを押し込みます。
- ➡ CFカードが出てきます。
- カバーを閉じます。

- **アクセスランプ点滅中は、絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れることがあります。また、場合によってはカメラ本体が破損する原因となります。**
  ・カメラ本体に振動や衝撃を与える　・CFカードスロットカバーを開ける
  ・バッテリー室ふたを開ける
- CFカードへ記録画像が書き込まれているとき（アクセスランプ点滅中→11）は、メニュー機能の表示や記録画像の再生はできません。このとき〈MENU〉や〈▶〉ボタンを押すと、液晶モニターに［処理中...］（→131）の警告が表示されます。
- 初めて使用されるCFカードや、表示パネルに「Err　CF」が表示された場合は、「CFカードを初期化する」（→99）を参照してフォーマットしてください。

操作の基本

メインスイッチ

このカメラはメインスイッチを〈ON〉にして初めて作動します。

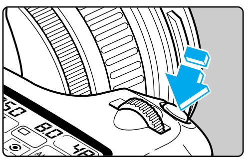


〈ON〉　：カメラを作動させるときはこの位置にします。
〈OFF〉：カメラは作動しません。
　　　　カメラを使用しないときはこの位置にします。

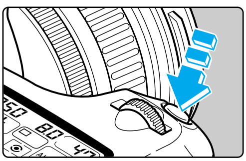
- バッテリーの消耗を防ぐため、約1分間、何も操作しないと自動的に電源が切れます。（オートパワーオフ機能）再度、カメラを使用するには、シャッターボタンを半押しするか、メインスイッチを〈OFF〉にして、再度〈ON〉にしてください。設定できる時間は、[1分] [2分] [4分] [8分] [15分] [30分] および [切] の中から選ぶことができます。（→116）
- 撮影直後にメインスイッチを〈OFF〉にすると、CFカードへの画像記録を行うため、数秒間アクセスランプが点滅する場合があります。
  CFカードへの画像記録が終了すればアクセスランプは消え、自動的に電源が切れます。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。



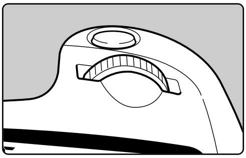
(1) 半押し（⏱4 ）
AF（オートフォーカス）によるピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。
露出値（シャッター速度と絞り数値）は表示パネルとファインダー内に表示されます。



(2) 全押し
シャッターが切れて撮影されます。

- 本機は、撮影最優先で設計されています。内部メモリーがフル状態でない限り、シャッターボタンを押せば、いつでもすぐに撮影することができます。
- カメラがどんな状態（画像再生中、メニュー選択中、画像記録中など）にあっても、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

電子ダイヤルによる機能の選択と設定

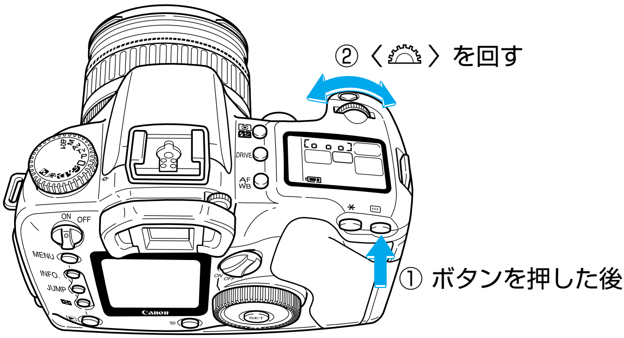


〈 〉による基本操作

〈 〉は撮影に関する設定にのみ使用します。基本操作には、次の2通りがあります。

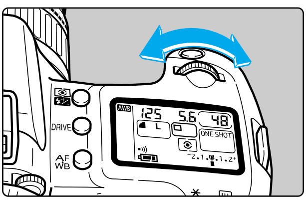
(1) ボタンを押した後、〈 〉を回す

ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（6）で保持されます。その間に表示パネルを見ながら〈 〉を回します。タイマーが終了するかシャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。



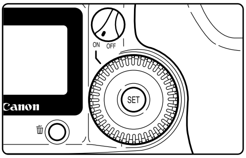
AFモード、AFフレーム、測光モード、ドライブモードの設定に使用します。

(2) 〈 〉のみを回す



表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

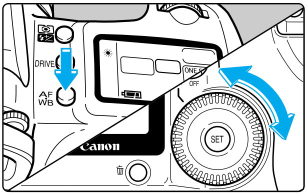
シャッター速度、絞り数値の設定に使用します。



〈◎〉による基本操作

〈◎〉は、サブ電子ダイヤルスイッチが〈**ON**〉になっているときのみ働きます。撮影準備操作と液晶モニター内容の選択・設定に使用します。
〈◎〉による基本操作には、次の2通りがあります。

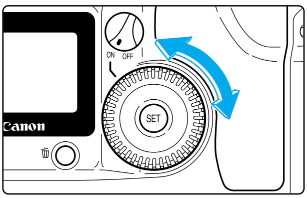
(1) ボタンを押した後、〈◎〉を回す



ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6 ）で保持されます。その間に表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。
タイマー機能や撮影準備状態への復帰は〈シャッターボタン〉操作に準じます。

ホワイトバランス、ドライブモード、ストロボ調光補正の設定に使用します。

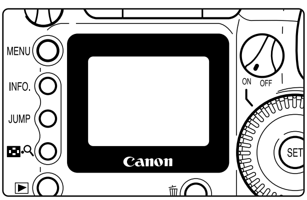
(2) 〈◎〉のみを回す



撮影時は、ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。
液晶モニター内容の選択・設定時は、液晶モニターを見ながら回します。

- 撮影時は、露出補正やマニュアル絞り数値の設定に使用します。
- 液晶モニター使用時は、記録画像の確認や選択、メニュー機能の選択などに使用します。

液晶モニターについて



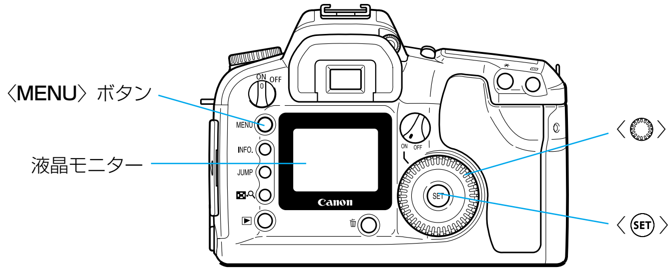
背面の液晶モニターは、記録画像の確認や選択、メニュー機能の選択・設定に使用します。

液晶モニターをファインダーとして見ながら撮影することはできません。

液晶モニター使用時は、サブ電子ダイヤルスイッチが〈**OFF**〉でも〈◎〉を使用することができます。

メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、記録画素／圧縮率や日付時刻、カスタム機能など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。基本操作は、液晶モニターを見ながら、〈MENU〉ボタン、〈 〉、〈SET〉を使って、次の手順で行います。





1．メニュー項目を表示する

〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。もう一度押すと、表示が消えます。



2．メニュー項目を選ぶ

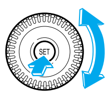
〈 〉を回し、目的の項目を選びます。





3．メニュー内容を表示し選択する

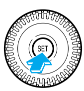
〈SET〉を押してメニュー内容を表示し、〈 〉で目的の内容を選びます。





4．選んだ内容を設定する

〈SET〉を押すと設定されます。



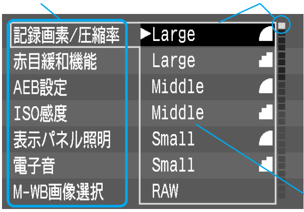
5．終了する

〈MENU〉ボタンを押して終了します。

- メニュー画面を表示している状態でも、シャッターボタンを押すとすぐに撮影ができます。
- 設定の終了は、シャッターボタン半押しでも行えます。
- メニュー項目とメニュー内容は、循環式になっています。
- 日本語以外の表示言語を3種類選ぶことができます。（→117）
- メニュー画面を表示している状態で〈JUMP〉ボタンを押すと、押すごとに撮影系、再生系、セットアップ系の順に各系の最上部項目に移動することができます。

メニュー設定項目と初期設定状態

メニュー画面は、項目とその内容によって色分けされています。選択している項目の枠に色がつきます。



色	設定の内容	説　明
赤	撮影系	撮影に関するメニュー項目です。
青	再生系	撮影した画像の再生操作に関するメニュー項目です。
黄	セットアップ系	カメラの基本機能に関するメニュー項目です。

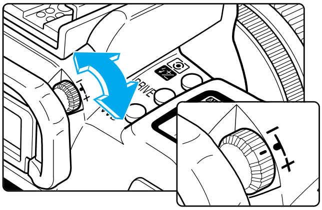
（網掛け）：初期設定状態

	メニュー項目	設定項目・内容／情報				参照ページ
撮影系（赤）	記録画素／圧縮率	Large	Large	Middle	Middle	44
		Small	Small	RAW		
	赤目緩和機能 *2	切	入			83
	AEB設定 *1	−2.1.0.1.2+	−2.1.0.1.2+	−2.1.0.1.2+		72
		−2.1.0.1.2+	−2.1.0.1.2+			
	ISO感度	100	200	400		45
		800	1000			
	表示パネル照明	切	入			61
	電子音	入	切			114
	M-WB画像選択 *1	マニュアルホワイトバランスを設定します。				60
	現像パラメーター *1	標準	セット1	セット2		46
		セット3	設定			
再生系（青）	画像プロテクト	撮影画像にプロテクト（保護）をかけます。				97
	画像回転	撮影画像を回転します。				96
	プリント指定	撮影画像をプリント指定します。				100
	オートプレイ	撮影画像を自動再生します。				95
セットアップ系（黄）	オートパワーオフ	1分	2分	4分		116
		8分	15分	30分		
		切				
	撮影画像の確認	切	入	入（Info）		35
	撮影画像確認時間	2秒	4秒			36
		8秒	ホールド			
	液晶の明るさ	標準	明るく			116
	日付／時刻	月／日／年	日／月／年	年／月／日		107
	ファイル番号	通し番号	オートリセット			110
	言語	English	Deutsch			117
		Français	日本語			
	ビデオ出力	NTSC	PAL			117
	カード初期化	CFカードを初期化（フォーマット）します。				99
	C.Fn *1	カスタム機能を設定します。				118
	C.Fn設定解除 *1	カスタム機能の全項目を初期設定状態にします。				117
	ファームウェア ver.	カメラのファームウェアのバージョン情報です。				117

*1　簡単撮影ゾーン（→14）では、メニュー画面に表示されません。
*2　〈 〉、〈 〉では、メニュー画面に表示されません。

鮮明なファインダーに調整する

ファインダーが鮮明に見えるように調整します。視度調整することによって、メガネを使用しているかたでも、メガネをかけずにファインダー内をはっきり見ることができます。調整は、−3〜＋1dptの範囲で行うことができます。



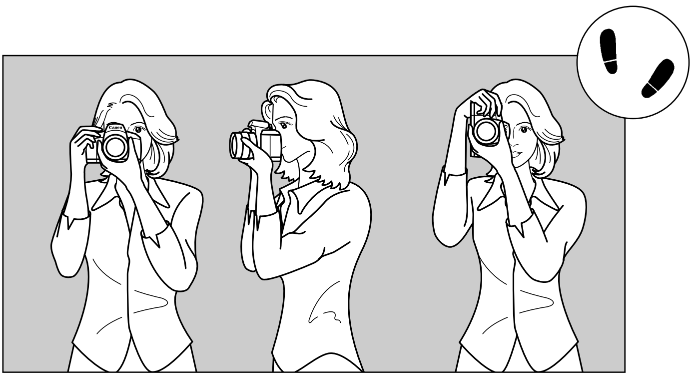
視度調整つまみを回す

- ファインダー内のAFフレーム、または部分測光範囲がもっとも鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- 図の位置が標準（−1dpt）の位置です。

視度調整してもファインダーが鮮明に見えないかたは、別売の視度補正レンズ（Eシリーズ）を使用してください。（→134）

カメラの構え方

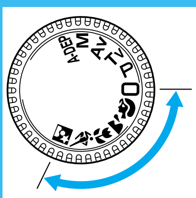
鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようしっかりと構えて撮影します。



横位置　　縦位置

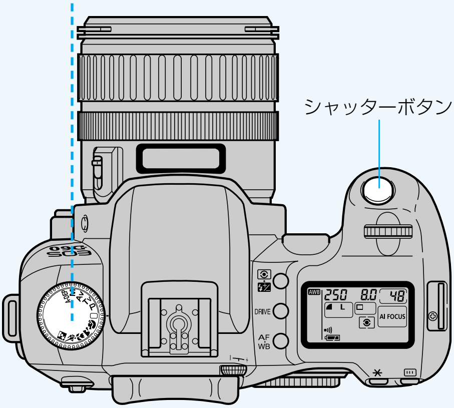
- カメラのグリップを右手で包むようにしっかりと握り、ひじを軽く体につけます。
- 左手でレンズ部を下から支えるように持ちます。
- カメラを額につけるようにして、ファインダーをのぞきます。
- 両足はそろえずに、片足を軽く踏み出して、体を安定させます。

2 簡単な撮影



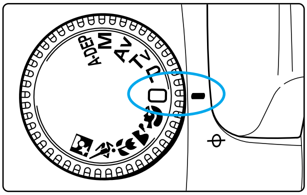
この章ではモードダイヤルの簡単撮影ゾーンにある〈□〉、〈 〉、〈 〉、〈 〉、〈 〉、〈 〉を使って簡単に撮影する方法を説明しています。このゾーンでは、シャッターボタンを押せば誰でもカメラまかせで撮影できます。

また、誤操作による失敗を防ぐため、〈 〉や〈 〉、〈AF WB〉、〈 〉、〈✱〉の操作はできないようにしてありますので、安心して撮影してください。



□ 全自動で撮る

シャッターボタン以外の操作をする必要がなく、どんな被写体でも安心して気軽に撮ることができます。3つのAFフレームで被写体をとらえますので、誰でも簡単にきれいな画像が撮れます。



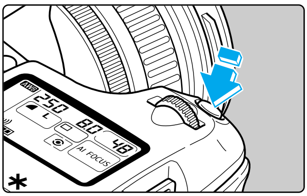
1 モードダイヤルを〈□〉にする

➡ AFモードは〈AI FOCUS〉（➞50）、ドライブモードは〈□〉（1コマ撮影）、測光モードは〈◉〉に自動設定されます。



2 被写体にAFフレームを合わせる

- カメラが主被写体と判断したAFフレームでピントを合わせます。
- 3つのAFフレームから外れている被写体にピントを合わせるときは、「AFフレームから外れた被写体にピントを合わせる」（➞52）を参照してください。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

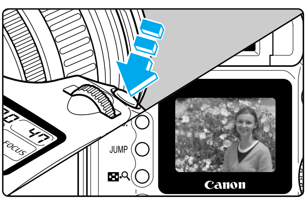
➡ ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが一瞬赤く光ると同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します。



4 表示を確認する

➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

- 合焦マーク〈●〉の左側に表示される数字が8～0のときは、連続撮影時に最大何コマ撮影できるかを示しています。
  ＣＦカードの空き容量が少なくなり、撮影できる残りコマ数が8コマ以下になったときは、[8]～[0]が表示されます。



5 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。

- CFカードの残量がなくなると、表示パネルとファインダー内にCFフル警告の「FuLL CF」が表示され、撮影できなくなりますので、残量のあるCFカードに入れ換えてください。
- 合焦マーク〈●〉が点滅するときは、撮影できません。(→53、133)

- AFでピントが合うと同時に、ピントと露出がロックされます。
- 3つのAFフレームでとらえた被写体のうち、もっとも近距離にある被写体に、自動的にピントが合います。
- 記録画素／圧縮率を任意に設定することができます。(→44、114)
- ピントが合ったときの電子音やセルフタイマー撮影時の作動音の［入］／［切］を設定することができます。(→29、114)
- ファインダー内に [8] ～ [0] が表示された状態で記録画素／圧縮率を変更すると、撮影できる残りコマ数が変化します。
- 表示パネルを照明することができます。(→61、114)

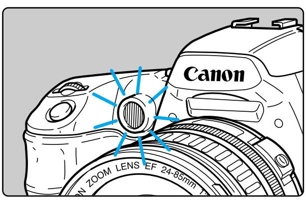
内蔵ストロボの自動発光について

簡単撮影ゾーン(〈風景〉、〈スポーツ〉を除く)では、暗いときや、日中逆光時には、内蔵ストロボが自動的に上がって発光します。収納するときは、手で押し下げます。

誤ってストロボの自動ポップアップを阻害した場合は、表示パネルにエラーコード〈Err 05〉(→131)が表示されます。そのときは、メインスイッチを〈**OFF**〉にして、再度〈**ON**〉にしてください。

- ストロボ撮影が禁止されている場所や、室内の照明を利用して撮影するときは、〈 **P** 〉(→62)をおすすめします。
- 夜や暗い室内などで人物をストロボ撮影するときは、「赤目緩和機能」(→83)を使って撮影することをおすすめします。

AF補助光について

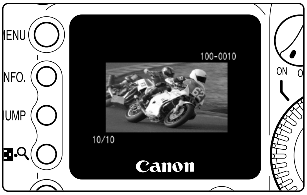


- 暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、AF補助光投光部が光ることがあります。これは、AFでピントを合わせやすくするため(AF補助光)です。

- カメラ内蔵AF補助光によってピントの合う範囲は約3.8mまでです。
- 別売のEOS専用EXシリーズスピードライトを使用すると、撮影状況に応じてカメラまたはスピードライトに内蔵されたAF補助光が光ります。
- 〈風景〉、〈スポーツ〉ではAF補助光は投光されません。

撮影画像を見る

撮影した画像は、カメラ背面の液晶モニターで、すぐに確認することができます。



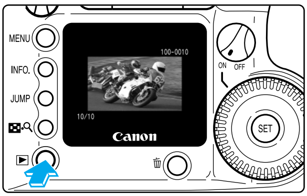
1 撮影する

➡ 撮影後、液晶モニターに撮影された画像が表示されます。
連続撮影時は、最後に撮影した画像が表示されます。

● 撮影画像は約2秒間表示されます。

● 撮影画像確認の有無、画像情報表示に変更することができます。（→35）
● 撮影画像の確認時間を変更することができます。（→36）
● 液晶モニターの明るさを変更することができます。（→116）
● 撮影画像が表示されている間に〈🗑〉ボタンを押すと、表示中の画像を消去することができます。（→37）ただし、消去できるのは、液晶モニターに表示している1コマのみの消去となります。

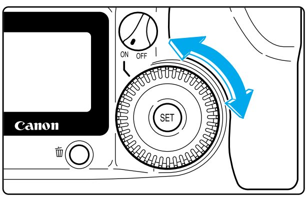
▶ 撮影後の画像確認



1 画像を確認する

● 〈▶〉ボタンを押します。
➡ 最後に撮影された画像が表示されます。

● 再度〈▶〉ボタンを押すと、液晶モニターが消え、再生が終了します。



2 表示画像を切り換える

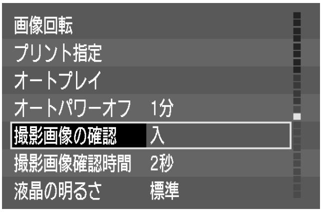
● 〈◎〉を左に回すと、最後に撮影された画像から新しい順に画像が切り換わります。
● 〈◎〉を右に回すと、古い画像から順番に新しい画像が表示されます。

CFカードへ記録画像が書き込まれているとき（アクセスランプ点滅中→11）は、メニュー機能の表示や記録画像の再生はできません。このとき〈MENU〉や〈▶〉ボタンを押すと、液晶モニターに［処理中...］（→131）の警告が表示されます。

撮影した画像は、インデックス表示（→92）や拡大表示（→93）することができます。

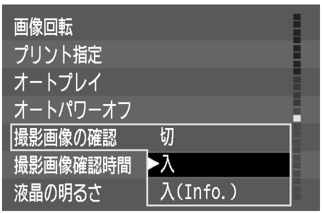
MENU 撮影画像の確認

撮影後の画像を、すぐにカメラ背面の液晶モニターに表示させることができます。表示の方法は、撮影画像がそのまま表示される［入］と、撮影画像と撮影情報を表示する［入（Info.)］（→94）と、撮影画像を表示しない［切］の3種類があります。初期状態では［入］に設定されています。



1 メニューから［撮影画像の確認］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［撮影画像の確認］を選び〈SET〉を押します。



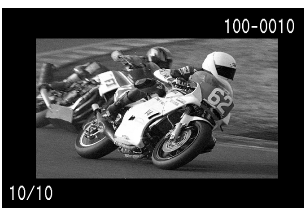
2 撮影画像の確認を設定する

- 〈◎〉を回して希望する項目を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと画面が消え、メニューが終了します。

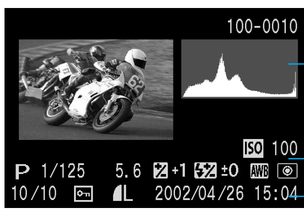
3 撮影する

- ➡ 撮影後、液晶モニターに撮影された画像が表示されます。
- 表示される時間は、撮影画像の確認時間の設定時間です。（→36）
- ［入］に設定した場合と、［入（Info.)］に設定した場合では表示が異なります。

［入］の場合



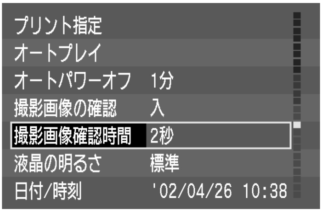
［入（Info.)］の場合（→94）



撮影画像の確認時間を変更することができます。（→36）

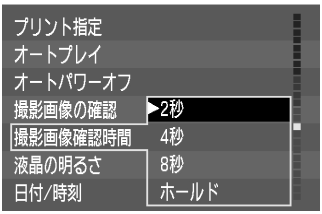
MENU 撮影画像確認時間

撮影画像を表示する時間を設定することができます。設定できる時間は［2秒］［4秒］［8秒］と、撮影画像を表示したままにする［ホールド］の4種類があります。初期状態では［2秒］に設定されています。



1 メニューから［撮影画像確認時間］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［撮影画像確認時間］を選び〈SET〉を押します。

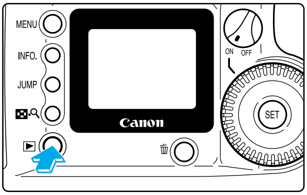


2 撮影画像確認時間を設定する

- 〈◎〉を回して希望する確認時間を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと画面が消え、メニューが終了します。

- ［ホールド］に設定した場合、撮影画像はシャッターボタンを半押しするまで表示されます。ただし、オートパワーオフ設定時（→25、116）は、設定時間になると自動的に電源OFFとなります。
- 確認時間の設定内容は［撮影画像の確認］で［入］または［入（Info.）］に設定した場合に有効です。

撮影画像を消去する（1コマ消去）



1 再生する

- 〈▶〉ボタンを押して撮影した画像を再生します。

➡ 最後に撮影された画像が表示されます。

2 消去する画像を選ぶ

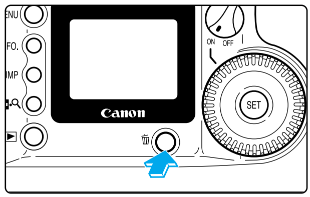
- 〈◎〉を回して消去したい画像を選びます。



3 消去選択メニューにする

- 〈🗑〉ボタンを押します。

➡ 液晶モニター下部に消去選択メニューが表示されます。





4 消去する

- 〈◎〉を回して［消去］を選び、〈SET〉を押します。

➡ アクセスランプが点滅して画像が消去されます。

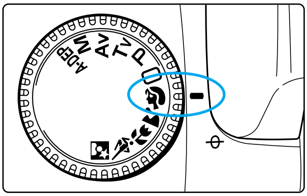
消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

- 撮影画像にプロテクト（→97）をかけると、誤って大切な画像を消去することを防止できます。
- CFカードに記録されているすべての画像を消去するには「撮影画像を消去する（全コマ消去）」（→98）を参照してください。

ポートレートで撮る



背景をぼかし人物を浮き立たせて撮るようなときに使用します。



モードダイヤルを〈 〉にする

- 操作の手順は「□（全自動）で撮る」（→32）と同じです。
- ➡ AFモードは〈ONE SHOT〉、ドライブモードは〈 〉、測光モードは〈 〉に自動設定されます。

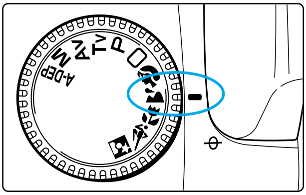
記録画素／圧縮率を任意に設定することができます。（→44、114）

- 被写体の上半身がファインダーいっぱいになるくらいにすると、背景を効果的にぼかすことができます。また被写体をできるだけ背景から離すとより効果的です。
- 望遠系のレンズを使用すると、背景をさらにぼかすことができます。ズームレンズをお使いのかたはレンズを望遠側（24-85mmのレンズなら85mm）にすると効果的です。

風景で撮る



広がりのある風景や夜景などを撮るようなときに使用します。



モードダイヤルを〈風景〉にする

- 操作の手順は「□（全自動）で撮る」（→32）と同じです。
- ➡ AFモードは〈ONE SHOT〉、ドライブモードは〈□〉（1コマ撮影）、測光モードは〈◉〉に自動設定されます。

シャッター速度が点滅したときは、シャッター速度が遅くなり手ブレが起きやすくなります。三脚を使用して撮影することをおすすめします（三脚を使用してもシャッター速度の点滅は消えません）。

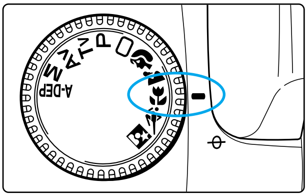
- 内蔵ストロボが上がった状態で撮影してもストロボは光りません。
- 記録画素／圧縮率を任意に設定することができます。（→44、114）

広角系レンズを使用すると、近くから遠くまでの奥行きに加えて、横の広がりも表現することができます。ズームレンズをお使いのかたは、レンズを広角側（24-85mmのレンズなら24mm）にすると効果的です。

クローズアップで撮る



草花や昆虫などを大きく撮るようなときに使用します。



モードダイヤルを〈 〉にする

- 操作の手順は「 （全自動）で撮る」（→32）と同じです。
- AFモードは〈ONE SHOT〉、ドライブモードは〈 〉（1コマ撮影）、測光モードは〈 〉に自動設定されます。

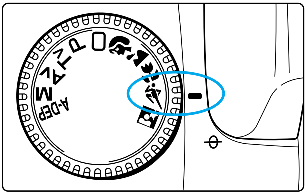
記録画素／圧縮率を任意に設定することができます。（→44、114）

- できるだけ使用レンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影すると効果的です。
- ズームレンズの場合は、望遠側にすると被写体をさらに大きく撮影することができます。
- 本格的なクローズアップ撮影には、EOS専用マクロレンズとマクロリングライトMR-14EX、マクロツインライトMT-24EXの使用をおすすめします。

スポーツで撮る



スポーツや運動会などで、動きの速い被写体の瞬間を撮るようなときに使用します。



モードダイヤルを〈スポーツ〉にする

- 操作の手順は「□（全自動）で撮る」（→32）と同じです。
- ➡ AFモードは〈AI SERVO〉、ドライブモードは〈連続撮影〉、測光モードは〈評価測光〉に自動設定されます。

シャッター速度が点滅したときは、シャッター速度が遅くなり手ブレが起きやすくなります。カメラの構え方とシャッターボタンの押し方に十分注意するか、三脚を使用して撮影することをおすすめします（三脚を使用してもシャッター速度の点滅は消えません）。

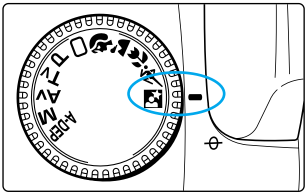
- 内蔵ストロボが上がった状態で撮影してもストロボは光りません。
- 記録画素／圧縮率を任意に設定することができます。（→44、114）

- ISO感度を400以上に設定することをおすすめします。（→45、114）
- スポーツ撮影には、200mm～300mm程度の望遠レンズをおすすめします。

夜景ポートレートで撮る



夕暮れや夜景を背景にした人物を撮影するときに使用します。人物にはストロボ光があたり、背景は遅いシャッター速度でそれぞれをきれいに撮影することができます。



モードダイヤルを〈 〉にする

- 操作の手順は「 （全自動）で撮る」（→32）と同じです。
- ➡ AFモードは〈ONE SHOT〉、ドライブモードは〈 〉（1コマ撮影）、測光モードは〈 〉に自動設定されます。

手ブレを防ぐために必ず三脚をお使いください。

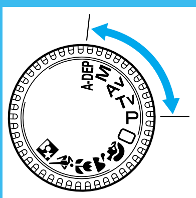
- 人物が入らない夜景のみを撮影するときは〈 〉で撮影してください。
- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- EXシリーズスピードライト使用時も〈 〉で撮影できます。
- 〈 〉で日中に撮影すると、〈 〉（全自動）と同じ撮影結果になります。
- 記録画素／圧縮率を任意に設定することができます。（→44、114）

ISO感度を400以上に設定することをおすすめします。（→45、114）

撮影目的に合わせた応用撮影

3

クリエイティブな応用撮影ゾーン



応用撮影ゾーンではシャッター速度や絞り数値を選択して露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影をすることができます。ここでは、各機能の効果的な使い方について説明します。

- 本文中の〈 〉はメイン電子ダイヤルを、〈 〉はサブ電子ダイヤルを表しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、表示パネルとファインダー内の露出は約4秒間表示されています。
- AFモード、AFフレーム、測光モード、ドライブモード、ホワイトバランスは、応用撮影ゾーンでのみ任意に設定することができます。
- AEロック、露出補正、AEB、バルブ、被写界深度確認は、応用撮影ゾーンでのみ使用できます。
- メニュー機能のAEB設定、M-WB画像選択、現像パラメーター、C.Fn、C.Fn設定解除は、応用撮影ゾーンのみ表示されます。

MENU 記録画素／圧縮率の選択

撮影する画像の「記録画素／圧縮率」はメニュー機能により、以下の7種類から選ぶことができます。

記録画素／圧縮率	記録画素数	記録形式	圧縮率	1コマのサイズ	記録コマ数
L Large/Fine	3072×2048	JPEG	低圧縮	約2.5MB	約48コマ
L Large/Normal			高圧縮	約1.3MB	約92コマ
M Middle/Fine	2048×1360		低圧縮	約1.4MB	約89コマ
M Middle/Normal			高圧縮	約0.7MB	約172コマ
S Small/Fine	1536×1024		低圧縮	約0.9MB	約138コマ
S Small/Normal			高圧縮	約0.5MB	約255コマ
RAW RAW	3072×2048	ロスレス圧縮RAW	－	約7.4MB	約15コマ

- 簡単撮影ゾーンでも記録画素／圧縮率の設定をすることができます。
- 記録コマ数は、当社試験基準によります。（ISO100設定時）
- 記録コマ数はCFカード128MB使用時のコマ数です。
- 1コマのサイズ、記録コマ数は被写体やISO感度により異なります。
- ご使用になるCFカードの撮影可能残りコマ数は、表示パネルで確認することができます。



1 メニューから［記録画素／圧縮率］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［記録画素／圧縮率］を選び、〈SET〉を押します。



2 記録画素／圧縮率を設定する

- 〈◎〉を回して希望する記録画素／圧縮率を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 選んだ記録画素／圧縮率が設定され、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと画面が消え、メニューが終了します。

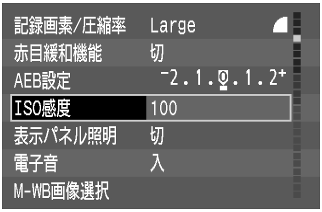
RAW形式で記録した画像をコンピューターで開くには、付属のソフトウェアが必要です。詳しくは、付属のソフトウェア使用説明書を参照してください。

付属の専用ソフトウェアを使用して、RAW形式の画像からMiddle/FineのJPEGファイルを作成することもできます。詳しくは、付属のソフトウェア使用説明書を参照してください。

C.Fn 〈SET〉を押して、表示パネルを見ながら〈◎〉または〈◎〉を回して、記録画素／圧縮率を設定することができます。（C.Fn-12-1→122）

MENU ISO感度について

ISO感度とは、撮影時の光に対する敏感度を数値化したものです。（→124）
数値が大きくなるほど感度が高く、暗い場所での撮影や動きのある被写体の撮影に向いていますが、撮影画像にノイズが入るなど、画像が粗くなる場合があります。逆に感度が低い場合は、暗い場所での撮影や動きのある被写体の撮影には向いていませんが、きめ細やかな画像が撮影できます。
このカメラでは、ISO感度を［100］［200］［400］［800］［1000］の中から選択することができます。初期状態では、ISO100に設定されています。



1 メニューから［ISO感度］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［ISO感度］を選び、〈SET〉を押します。



2 ISO感度を設定する

- 〈◎〉を回して希望するISO感度を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 選んだISO感度が設定され、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと画面が消え、メニューが終了します。

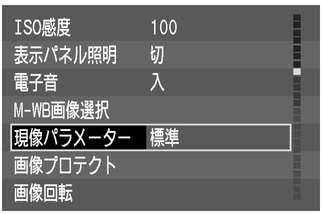
- ISO感度を高くすると画像に含まれるノイズ成分がやや多くなります。また、1コマのサイズが大きくなり、撮影可能残りコマ数が減少します。撮影可能残りコマ数は、表示パネルで確認することができます。（→12）
- 高温・高ISO感度・長時間露光の条件で撮影を行うと、撮影画像に色ムラが発生することがあります。

C.Fn 〈SET〉を押して、表示パネルを見ながら〈⌂〉または〈◎〉を回して、ISO感度を設定することができます。（C.Fn-12-2→122）

MENU 現像パラメーターを設定する

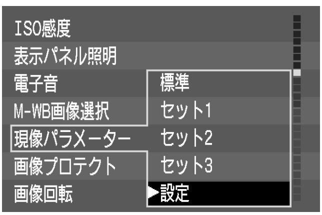
撮影した画像の現像処理の内容（パラメーター：[コントラスト][シャープネス][色の濃さ][色あい]）を、カメラで任意に設定して、3つまで登録・設定することができます。
なお、初期状態では標準（全てのパラメーターが0）に設定されています。

パラメーター	設定内容	設定項目	設定効果
コントラスト	コントラストの強さを調整	−（弱く）	コントラストが弱めに画像処理されます。
		0（標準）	標準的なコントラストで画像処理されます。
		＋（強く）	コントラストが強めに画像処理されます。
シャープネス（エッジの強調）	シャープネスの強さを調整	−（弱く）	シャープネスが弱めに画像処理されます。
		0（標準）	標準的なシャープネスで画像処理されます。
		＋（強く）	シャープネスが強めに画像処理されます。
色の濃さ	色の濃さを調整	−（薄く）	色が薄めに画像処理されます。
		0（標準）	標準的な色の濃さで画像処理されます。
		＋（濃く）	色が濃いめに画像処理されます。
色あい	色みの調整	−（赤く）	肌色が赤めに画像処理されます。
		0（標準）	標準的な色みで画像処理されます。
		＋（黄色く）	肌色が黄色めに画像処理されます。



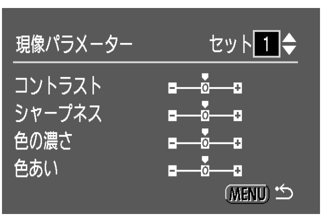
1 メニューから［現像パラメーター］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［現像パラメーター］を選び、〈SET〉を押します。



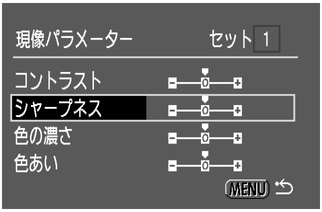
2 ［設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［設定］を選び、〈SET〉を押します。
- セット1〜3の初期設定状態は、全てのパラメーターが0（標準）に設定されています。



3 設定するセット番号を選ぶ

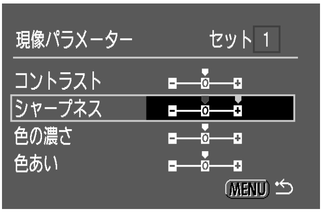
- 〈◎〉を回してセット［1］〜［3］のいずれかを選び、〈SET〉を押します。



4 設定するパラメーターを選ぶ

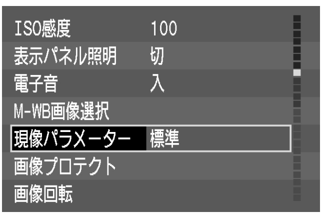
- 〈◎〉を回してパラメーターを選び、〈SET〉を押します。
- パラメーターは次のように循環します。

[コントラスト]
↕
[シャープネス]
↕
[色の濃さ]
↕
[色あい]



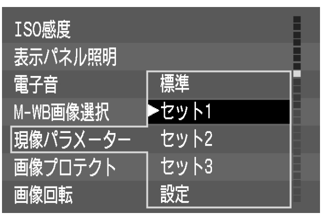
5 パラメーターの内容を設定する

- 〈◎〉を回して［−］［0］［+］のいずれかを設定し、〈SET〉を押します。



6 手順1に戻る

- 〈MENU〉ボタンを2回押して手順1の状態に戻り、〈SET〉を押します。



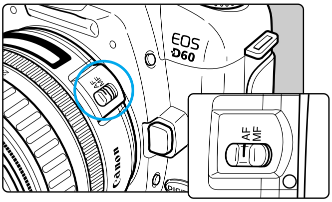
7 設定したセット番号を選ぶ

- 〈◎〉を回して、設定したセット番号（［セット1］～［セット3］）を選び、〈SET〉を押します。

C.Fn 〈SET〉を押して、表示パネルを見ながら〈⌂〉または〈◎〉を回して、現像パラメーターを設定することができます。（C.Fn-12-3→122）

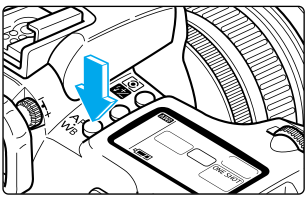
AF AFモードの選択

AFモードとはAFの作動特性のことをいいます。止まっている被写体の撮影に適しているONE SHOT AF（ワンショットオートフォーカス）と、動いている被写体の撮影に適しているAI SERVO AF（エーアイサーボオートフォーカス）の2つの方式があります。
AFモードは〈A-DEP〉を除く応用撮影ゾーンで選ぶことができます。

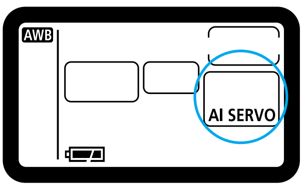


1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

2 モードダイヤルを〈A-DEP〉以外の応用撮影ゾーンにする

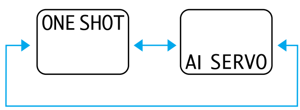


3 〈AF·WB〉ボタンを押す（⏱6）



4 AFモードを選ぶ

- 〈⚙〉を回します。



- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- AFモードには上記の2つの方式の他に、被写体の状態によりONE SHOT AFとAI SERVO AFをカメラが自動的に切り換えるAI FOCUS AF（エーアイフォーカスオートフォーカス）があります。なお、AI FOCUS AFは〈□〉（全自動）で自動設定されます。
- 〈◎〉を回すと、ホワイトバランス（→58）の選択になります。

止まっている被写体を撮るときはONE SHOT AF





シャッターボタンを半押しするとAFが作動し、1回だけピントを合わせせる

➡ ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが一瞬赤く光ると同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します。

● 評価測光では、合焦と同時に露出が決まります。そのままシャッターボタン半押しの状態を保つと、露出が固定されたままになり、ピントを合わせたあとに構図を変えて撮影するフォーカスロック撮影（→52）ができます。

ピントが合わないとファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影はできません。構図を変えてもう一度ピント合わせを行うか、「手動ピント合わせ」（→53）を行ってください。

C.Fn ファインダー内の合焦AFフレームの点灯（スーパーインポーズ表示）を禁止することができます。（C.Fn-14-1→122）

動いている被写体を撮るときはAI SERVO AF



シャッターボタン半押しの状態を保っている間、被写体にピントを合わせ続ける

- 撮影距離がたえず変わる（移動している）被写体の撮影に適しています。
- 動体予測機能で、カメラに向かってくる、または遠ざかる被写体にピントを合わせ続けます。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。

- ピントが合っても合焦マーク〈●〉は点灯せず、電子音も鳴りません。
- 合焦マーク〈●〉が点滅するときはピントが合っていません。
- フォーカスロック撮影（→52）はできません。

C.Fn AI SERVO AF作動中に、〈✱〉ボタンを押すと、押している間AFの作動を一時停止することができます。（C.Fn-2-2→118）

動体予測機能について

被写体がほぼ等速度でカメラに近づいてくる場合、または遠ざかっていく場合に、シャッターが切れる直前に正しいピントが得られるよう、その被写体の位置を予測してピントを合わせ続ける機能です。

- AFフレームが自動選択のときは、3つのAFフレームのいずれかで被写体をとらえます。動体予測はカメラが選択したAFフレームで行います。
- 任意のAFフレームを選択（→51）しているときは、選択したAFフレームで動体予測を行います。

AI FOCUS AFについて

AI FOCUS AFは〈□〉（全自動）で自動設定されます。撮影時の被写体の状態により、カメラが自動的にONE SHOT AFとAI SERVO AFを切り換えます。

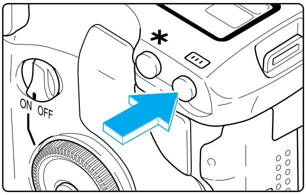
ONE SHOT AFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAI SERVO AFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

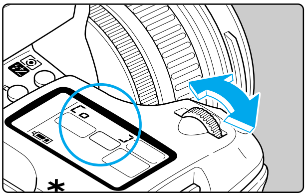
AFフレームの選択

AFフレームとはピントを合わせる枠のことをいいます。AFフレームの選択方式には自動選択と任意選択があります。簡単撮影ゾーンおよび〈A-DEP〉では自動選択になりますが、〈P〉、〈Tv〉、〈Av〉、〈M〉の各撮影モードでは、自動選択と任意選択を切り換えることができます。

自動選択： 撮影状況に応じてカメラが自動的にAFフレームを選択してピントを合わせます。

任意選択： 3つのAFフレームから、任意の一点を手動で選択します。狙った被写体に確実にピントを合わせたい場合や、より構図優先の迅速なAF撮影を行いたい場合に便利な機能です。





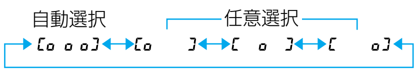
1 〈AFフレーム選択〉ボタンを押す（⏱6）

2 AFフレームを選ぶ

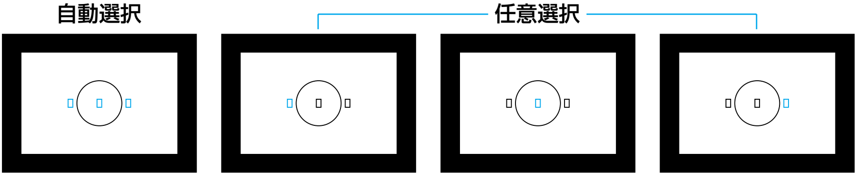
➡ 表示パネルあるいはファインダー内表示を見ながら〈メイン電子ダイヤル〉または〈サブ電子ダイヤル〉を回します。

● シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

表示パネル



ファインダー内



● 自動選択：全てのAFフレームを赤く点灯させる

● 任意選択：希望する1点のAFフレームを赤く点灯させる

3 撮影目的に合わせた応用撮影

AFフレームから外れた被写体にピントを合わせる

3つのAFフレームに入らないような、画面の端の被写体にピントを合わせて撮影するときは、次のようにします。この方法をフォーカスロック撮影といいます。
フォーカスロック撮影は、AFモードがONE SHOT AFに設定されているときに有効です。

1 AFフレームを選ぶ

（→51）



2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。



3 シャッターボタンを半押ししたまま構図を変える

4 撮影する

簡単撮影ゾーン（〈 〉を除く）でもフォーカスロック撮影ができます。そのときは、手順2から行います。

ピントが合うと同時にAFフレームに連動してAEロックがかかる、ONE SHOT AFと評価測光の組み合わせをおすすめします。

AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ）

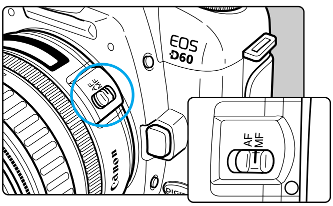
このカメラは精度の高いAFシステムを搭載し、ほとんどの被写体にピントを合わせることができます。ただし、次のような特殊な被写体に対してはピントを合わせることができない（合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

- コントラスト（明暗差）が極端に低い被写体　例：青空、単色の平面
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態で、かつ光の反射が強い被写体　例：反射光の強い車のボディ
- 被写体が遠くと近くに共存する状態　例：おりの中の動物

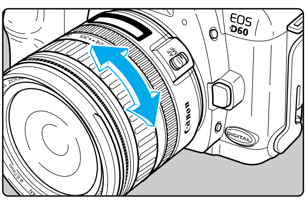
これらの被写体を撮影する場合は、次のいずれかの方法でピントを合わせます。
（1）被写体とほぼ同じ距離にあるものでフォーカスロックし、構図を決めなおして撮影する。
（2）レンズのフォーカスモードスイッチをMF（またはM ）にして手動ピント合わせを行う。

MF 手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉（または〈M〉）にする

➡ 表示パネルに〈MF〉が表示されます。



2 ピントを合わせる

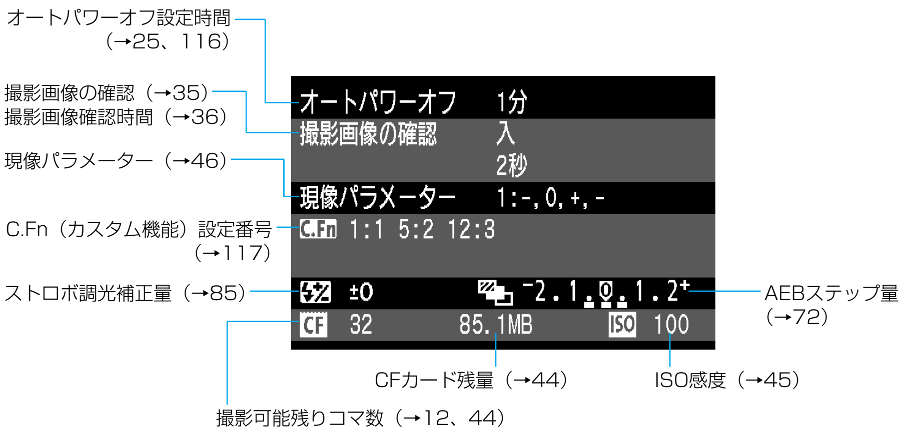
- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズの手動フォーカスリングを回します。

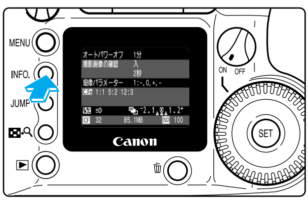
- シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ファインダー内にピントが合ったAFフレームと合焦マーク〈●〉が点灯します。
- マニュアルフォーカスではピントが合っても電子音は鳴りません。

INFO. カメラの設定内容を確認する

撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、現在カメラに設定されている内容が液晶モニターに表示されます。

設定内容表示





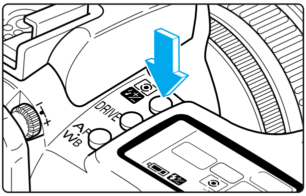
1 設定内容を表示する

- 〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターにカメラの設定内容が表示されます。
- 再度〈INFO.〉ボタンを押すと液晶モニターが消えます。

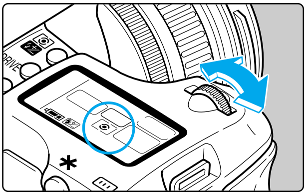
再生時の画像情報表示については、「撮影画像の情報表示を入／切する」（→94）を参照してください。

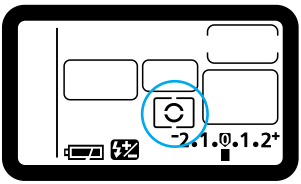
測光モードの選択

測光方式には、評価測光、部分測光、中央部重点平均測光の3つの方式があります。
簡単撮影ゾーンでは評価測光に自動設定されますが、応用撮影ゾーンでは測光モードを選ぶことができます。



1 〈測光モード／ストロボ調光補正〉ボタンを押す（⏱6）





2 測光モードを選ぶ

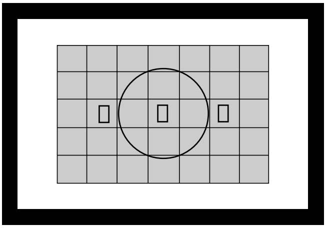
➡ 表示パネルを見ながら〈メイン電子ダイヤル〉を回します。

- ：評価測光
- ：部分測光
- ：中央部重点平均則光

● シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

〈サブ電子ダイヤル〉を回すと、内蔵／外部ストロボの調光補正（→85）の設定になります。

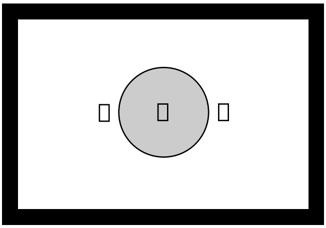
測光モードの種類



◉：評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。ファインダー視野を35分割して、3つのAFフレームそれぞれに連動した評価測光を行います。ファインダー内に占める被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出にします。

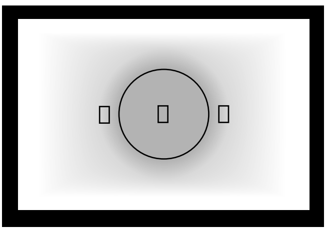
- 手動ピント合わせ時は常に中央のAFフレームを基準とした評価測光になります。



◯：部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。ファインダー中央部の約9.5%の範囲を測光します。

- 部分測光の測光範囲はほぼ左図の範囲となります。



[ ]：中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて画面全体を平均的に測光します。

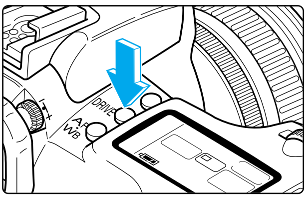
ドライブモードの選択

ドライブモードには以下の3つの方式があります。

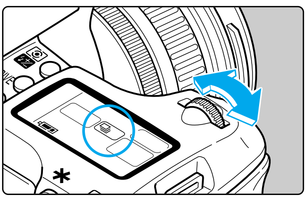
□ 1コマ撮影　：シャッターボタンを押すと1コマ撮影します。
⧉ 連続撮影　：シャッターボタンを押しつづけている間、連続撮影ができます。
セルフタイマー撮影　：シャッターボタンを押すと約10秒後に撮影されます。（→75）

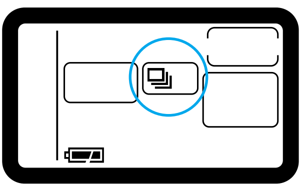
記録画素／圧縮率	連続撮影コマ数 約（コマ／秒）		連続撮影時の最大撮影可能コマ数 約（コマ）	
	ONE SHOT	AI SERVO	ONE SHOT	AI SERVO
L Large/Fine				
L Large/Normal				
M Middle/Fine				
M Middle/Normal	3	2.5	8	
S Small/Fine				
S Small/Normal				
RAW RAW				

● 連続撮影コマ数は、当社試験基準によります。（1/250秒以上、ISO100設定時）



1 〈DRIVE〉ボタンを押す（⏱6）





2 ドライブモードを選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈 〉または〈 〉を回します。

□ ：1コマ撮影
⧉ ：連続撮影
 ：セルフタイマー撮影

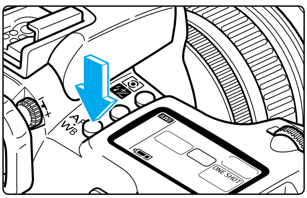
● シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

CFカードの空き容量が少なくなり、撮影できる残りコマ数が8コマ以下になったときは、連続撮影できないことがあります。

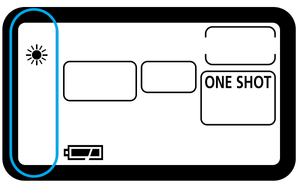
- 連続撮影した画像は、一度カメラの内部メモリーに保存してから、順次CFカードに記録するため、連続撮影で内部メモリーがいっぱいになると、表示パネルとファインダー内に「buSY」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。CFカードの記録経過にともない、次の撮影ができるようになりますので、シャッターボタン半押しでファインダー内に表示される「連続撮影時の最大撮影可能コマ数」（8～0）で、そのとき撮影できるコマ数を確認してください。なお、「連続撮影時の最大撮影可能コマ数」は、CFカードを入れていないときにも表示されますので、CFカードが入っていることを確認してから撮影してください。
- 内部メモリーから全ての撮影画像がCFカードへ保存される前（アクセスランプ点滅中）にシャッターボタンを半押しすると、CFカードへの保存が一時的に中止されます。
- ファインダー内と表示パネルに「FuLL CF」が表示されたときは、必ずアクセスランプの点滅が消えてから、CFカードを交換してください。

WB ホワイトバランスの選択

ホワイトバランスには、オート、太陽光、くもり、電球、蛍光灯、ストロボ、マニュアルの7種類があります。簡単撮影ゾーンではオートに自動設定されますが、応用撮影ゾーンでは7種類のホワイトバランスの中から選ぶことができます。



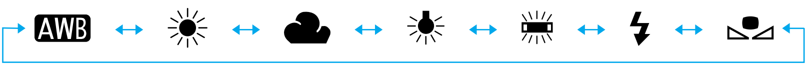
1 〈AF/WB〉ボタンを押す（⏱6）



2 ホワイトバランスを選ぶ

- サブ電子ダイヤルスイッチを〈ON〉にします。
- 表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

オート　太陽光　くもり　電球　蛍光灯　ストロボ　マニュアル



〈AF〉を回すと、AFモード（→48）の選択になります。

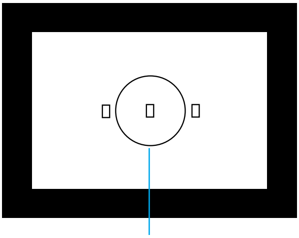
ホワイトバランスの種類

光源中に含まれるRGB3原色（赤・緑・青）の構成比は、色温度によって変化します。色温度が高い場合は、青の要素が強くなり、色温度が低い場合は、赤の要素が強くなり、赤→オレンジ→黄→白→青白と変化していきます。例えば、白熱電球下で白い被写体を撮影すると赤みを帯びた画像になり、蛍光灯下では緑っぽい画像になります。
人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。フィルムを使用するカメラでは、色補正のフィルターをつけたり、フィルムを交換して調整しますが、デジタルカメラの場合は、ソフトウェア的に色温度を調整して、被写体に含まれる色の基準となる白を決め、白を基準に色を補正して自然な色合いで撮影することができます。
〈AWB〉は、撮影する場所の光源にあわせて自動的にホワイトバランスを調整しますが、希望どおりの画像が撮影できないときは、〈AWB〉以外に設定して撮影してください。

マーク	設定条件	色温度／K（ケルビン）
AWB	カメラの設定にまかせて撮影するときに選びます。	約3000～7000
	晴天の屋外で撮影するときに選びます。	約5200
	曇天や日陰、薄暮、夕焼け空などで撮影するときに選びます。	約6000
	白熱電球の照明で撮影するときに選びます。	約3200
	白色蛍光灯の照明で撮影するときに選びます。	約4000
	ストロボを使用して撮影するときに選びます。	約6000
	基準となる白い被写体を撮影し、この画像からホワイトバランスデータを取り込むことで、その場の撮影環境に最適なホワイトバランスを設定することができます。(→60)	約2000～10000

MENU マニュアルホワイトバランスの設定

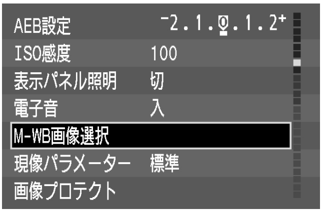
マニュアルホワイトバランスは、ホワイトバランスの基準となる白い被写体を撮影し、その画像を選ぶことでホワイトバランスデータを取り込み、ホワイトバランスを設定します。



部分測光範囲マーク

1 白い被写体を撮影する

- 実際の撮影と同じように、白い被写体を撮影します。
- 部分測光範囲マークの領域全体に、白い被写体がくるように撮影します。
- 撮影モード（→14）はどのモードでもかまいません。
- 白い被写体が標準露出なるように撮影します。露出がアンダー、またはオーバーになると正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。



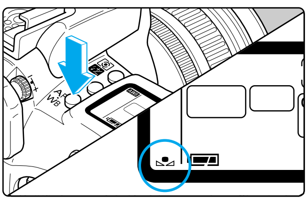
2 メニューから［M-WB画像選択］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［M-WB画像選択］を選び、〈SET〉を押します。



3 画像を選択する

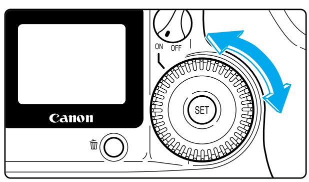
- 〈◎〉を回して手順1で撮影した画像を選び〈SET〉を押します。
- 設定が終了すると、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと画面が消え、メニューが終了します。



4 〈AF・WB〉ボタンを押す（⏱6）

5 マニュアルホワイトバランスを選ぶ

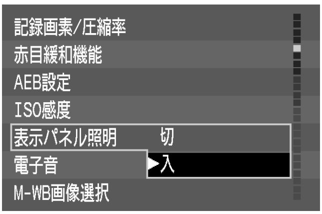
- 〈◎〉を回して［ ］を選びます。
- ➡ マニュアルホワイトバランスが設定されます。



- 基準となる白い被写体には、無地の白い紙などをおすすめします。
- ホワイトバランスデータとして取り込まれるのは、部分測光範囲マーク（→13）の領域です。
- 各撮影環境で撮影した白い被写体の画像をCFカード内に記録しておき、撮影の際に、この撮影画像を［M-WB画像選択］で選ぶことで各撮影環境に最適なホワイトバランスを簡単に設定することができます。
- 工場出荷時の〈 〉は、〈☀〉と同じホワイトバランスデータが設定されています。

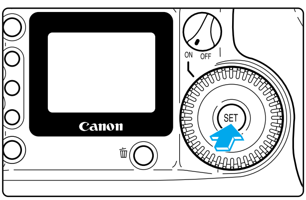
表示パネル照明

表示パネルには照明機能が付いています。〈SET〉を押すたびに照明が点いたり（約4秒間）消えたりします。暗い場所で表示パネルが見にくいときにご利用ください。
表示パネルの照明は撮影終了後、約2秒で自動的に消えます。



メニューから［表示パネル照明］を選び、表示パネル照明を設定する

- <MENU>ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［表示パネル照明］を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して［入］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示パネル照明が設定され、メニューに戻ります。
- <MENU>ボタンを押すと画面が消え、メニューが終了します。



表示パネルを照明する

- 〈SET〉を押します。
- 再度〈SET〉を押すと消灯します。
- 表示パネルが照明されている間に撮影系のボタン・ダイヤルを操作すると、照明時間が延長されます。メニュー・再生系のボタンを押すと消灯します。

- C.Fn-12-1～3を設定しているときは、〈SET〉で消灯はできません（自動消灯）。
- 表示パネルを照明した状態で撮影すると、撮影時間中は照明が点いたままになります。
- 全ての撮影モードで機能します。

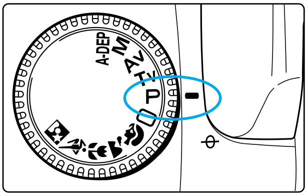
P プログラムAEで撮る



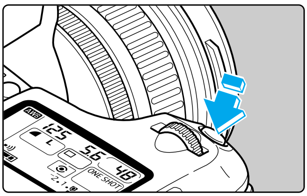
〈□〉と同じように気軽に撮影することができます。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動設定します。これをプログラムAEといいます。

＊ P は、Program（プログラム）の略です。

＊AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。



1 モードダイヤルを〈 P 〉にする



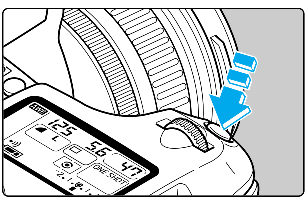
2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが一瞬赤く光ると同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します。



3 表示を確認する

- ➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。
- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。
- 点滅したときは「露出警告表示一覧」（→128）を参照してください。



4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

Pと□（全自動）の違い

- 〈P〉と〈□〉は自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせは同じです。
- 〈P〉では次の機能を使用できますが、〈□〉ではできません。

- AFモードの選択
- AFフレームの任意選択
- 測光モードの選択
- ドライブモードの選択
- プログラムシフト
- 〈✱〉ボタンによるAEロック
- 露出補正
- AEB
- 被写界深度確認
- カスタム機能
- 内蔵ストロボの強制発光／発光禁止
- 調光補正
- EXシリーズスピードライト使用
  - ・ハイスピードシンクロ
  - ・FEロック
  - ・光量比制御
  - ・FEB
  - ・後幕シンクロ
  - ・モデリング発光

プログラムシフトについて

プログラムAEは自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。

プログラムシフトはシャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度または絞り数値になるまで〈⚙〉を回して行います。

- プログラムシフトは撮影後、自動的に解除され元のプログラムに戻ります。
- ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。

Tvシャッター速度を決めて撮る

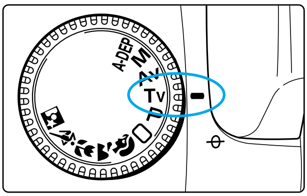
シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出になる絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。
シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッター速度を遅くすると、流動感を表現することができます。
＊ **Tv** は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。



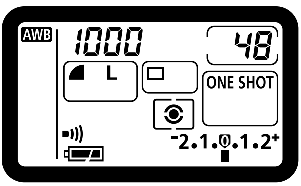
速いシャッター速度



遅いシャッター速度



1 モードダイヤルを〈 **Tv** 〉にする



2 シャッター速度を設定する

- 〈 〉を回します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 絞り数値が自動的に決まります。



4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。
- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。





- 使用レンズの一番小さな絞り数値（最大口径／開放絞り）が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を遅くしてください。
- 使用レンズの一番大きな絞り数値（最小口径／最小絞り）が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を速くしてください。

シャッター速度の表示

シャッター速度は1/2段ステップに設定することができます。表示されたシャッター速度の4000から4までは分数の分母を表しています。例えば125は1/125秒を表しています。また、0”7は0.7秒を、15”は15秒を表しています。

4000　3000　2000　1500　1000　750　500　350　250　180
125　90　60　45　30　20　15　10　8　6　4　0”3　0”5　0”7
1”　1”5　2”　3”　4”　6”　8”　10”　15”　20”　30”

テレビ画面をきれいに写すには、シャッター速度を1/15秒にします。このときは三脚を使用してください。

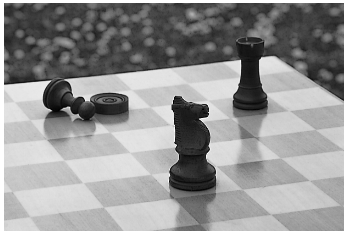
C.Fn シャッター速度の設定を1/3段ステップに変更することができます。（C.Fn-4-1→118）

Av絞りを決めて撮る

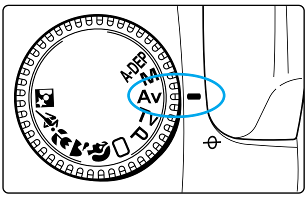
絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出になるシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。
絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。絞り数値を小さくするほど背景はぼけます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど鮮明に写る範囲が広くなります。
＊ **Av** は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略で開口量のことです。



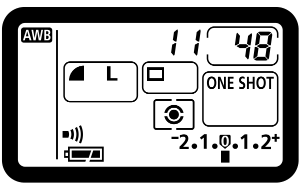
小さい絞り数値



大きい絞り数値



1 モードダイヤルを〈**Av**〉にする



2 絞り数値を選ぶ

- 〈 〉を回します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ シャッター速度が自動的に決まります。



4 表示を確認して撮影する

- シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。
- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。



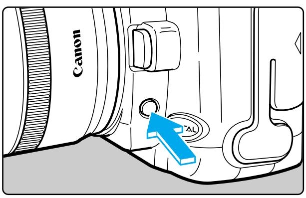


- シャッター速度の30"が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を小さくしてください。
- シャッター速度の4000が点滅しているときは、露出オーバー（露出過度）です。点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を大きくしてください。

絞り数値の表示
絞り数値は1/2段ステップで設定することができます。数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。
1.0　1.2　1.4　1.8　2.0　2.5　2.8　3.5　4.0　4.5　5.6　6.7　8.0
9.5　11　13　16　19　22　27　32　38　45　54　64　76　91
カメラにレンズが付いていないときは「00」を表示します。

C.Fn
- 絞り数値の設定を1/3段ステップに変更することができます。（C.Fn-4-1→118）
- ストロボ撮影時のシャッター速度を1/200秒に固定することができます。（C.Fn-6-1→120）

被写界深度を確認する



絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値まで絞り込み、ピントの合っている範囲をファインダーで確認することができます。

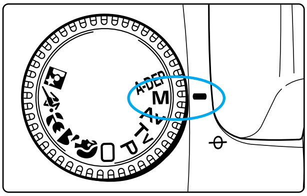
- 応用撮影ゾーンで使用できます。
- 〈A-DEP〉では、シャッターボタンを半押しした後で有効になります。
- 絞り込みボタンを押すと、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M 自分で露出を決めて撮る

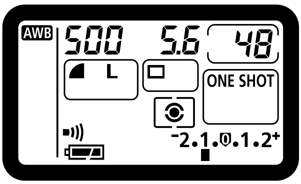


カメラまかせではなく自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影をするときに設定します。シャッター速度と絞り数値の適切な組み合わせは、露出レベルで確認します。

＊ **M** は、Manual（マニュアル）の略です。

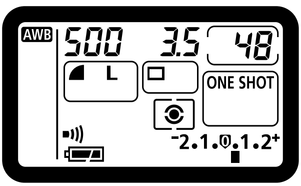


1 モードダイヤルを〈**M**〉にする



2 シャッター速度を設定する

- 〈 〉を回します。



3 絞り数値を設定する

- サブ電子ダイヤルスイッチを〈**ON**〉にして〈 〉を回します。

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。（4）

➡ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。

- 露出レベルマーク〈 〉で標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。

5 露出を決める

- 任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。

標準露出	⁻2.1.0.1.2⁺（レベルマーク：0）	：露出を決めるときの基準です。
露出アンダー	⁻2.1.0.1.2⁺（レベルマーク：⁻1）	：シャッター速度を遅くするか、絞り数値を小さくします。
露出オーバー	⁻2.1.0.1.2⁺（レベルマーク：1）	：シャッター速度を速くするか、絞り数値を大きくします。

- 露出レベルマーク〈■〉が〈2⁺〉または〈⁻2〉の位置で点滅しているときは、露出が〈2⁺〉または〈⁻2〉を超えていることを示しています。

6 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

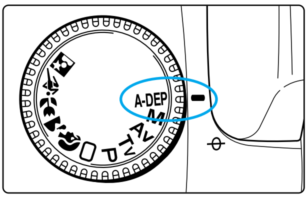
C.Fn シャッター速度、絞り数値の設定を1/3段ステップに変更することができます。（C.Fn-4-1→118）

A-DEP 近くから遠くまでピントが合った画像を撮る

たくさんの人で記念撮影をしたり風景を撮るとき、自動的に近くから遠くまでピントを合わせて鮮明な画像を撮ることができます。3つのAFフレームでとらえた被写体のうち、近いところから遠いところまで鮮明に写ります。

- シャッター速度や絞り数値を任意に変更することはできません。遅いシャッター速度が設定されることもありますので、三脚の使用をおすすめします。
- レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉（または〈M〉）になっていると〈A-DEP〉撮影はできません。フォーカスモードスイッチを〈AF〉にしてください。

＊ A-DEP は、Auto-Depth of field（オートデプスオブフィールド）の略で自動被写界深度のことです。



1 モードダイヤルを〈A-DEP〉にする



2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせてシャッターボタンを半押しします。（⏱4）
- 一瞬赤く光ったAFフレームに重なっている被写体から被写体までの間がピントが合う範囲です。
- 露出が表示されている状態でピントの合う範囲を事前に確認することができます。（→67）
- 左の作例写真の場合、左手前の被写体から、右奥の被写体までが鮮明に写ります。



3 表示を確認して撮影する

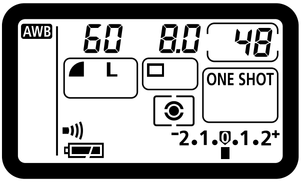
- 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。
- シャッターボタンを全押しします。

絞り数値が点滅するときは、露出は合っていますが、希望したピントの深さが得られません。レンズを広角にするか、被写体から離れてやりなおしてください。

- AFモードの設定にかかわらず、ONE SHOT AFでの撮影になります。
- ストロボを使用したときは〈P〉のストロボ撮影と同じ結果になります。

自分の好みに露出を補正する

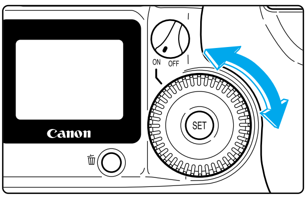
カメラが決めた標準的な露出を意図的に変えることを露出補正といいます。明るめ（プラス補正）に撮影したり、暗め（マイナス補正）に撮影するときに行います。補正量は1/2段ステップ±2段の範囲です。

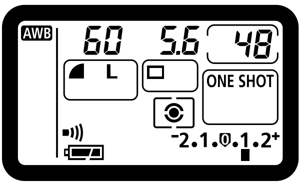


1 サブ電子ダイヤルスイッチを〈ON〉にする

2 ピントを合わせ、露出表示を確認する

- シャッターボタンを半押しして、表示を確認します。（⏱4）







3 補正量を設定する

- 表示パネル、またはファインダー内表示を見ながら〈◎〉を回します。
- 〈◎〉の操作はシャッターボタン半押し中か、シャッターボタン半押し後（⏱4）作動中のみ有効です。
- 「＋」はプラス補正を、「－」はマイナス補正を示します。



- 設定した補正量はメインスイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- 露出補正を解除するときは、補正量を標準露出指標〈0〉の位置に戻します。

4 撮影する

- 補正量を設定したあと、サブ電子ダイヤルスイッチを〈OFF〉にすると、〈◎〉が不用意に動いて補正量が狂うのを防ぐことができます。
- 撮影モードが〈**M**〉のときは、自分で露出（シャッター速度と絞り数値の組み合わせ）を決めるため、露出補正はできません。

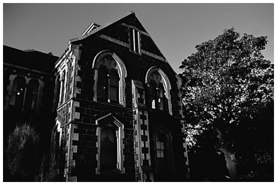
C.Fn 露出補正量の設定を1/3段ステップに変更することができます。
（C.Fn-4-1→118）

MENU 露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影

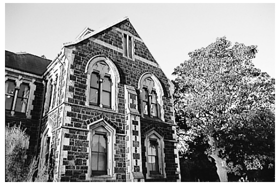
1/2段ステップ±2段の範囲で、自動的に露出を変えながら3コマの画像を撮影することができます。これをAEB（Auto Exposure Bracketing）撮影といいます。



標準露出（0）



マイナス補正（−1.0）



プラス補正（+1.0）



1 メニューから［AEB設定］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈 〉を回して［AEB設定］を選び、〈SET〉を押します。



2 AEBステップ量を設定する

- 〈 〉を回してAEBレベルを設定し、〈SET〉を押します。
- AEBが設定され、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと画面が消え、メニューが終了します。

⁻2.1.0.1.2⁺ ：標準露出

⁻2.1.0.1.2⁺ ：マイナス補正

⁻2.1.0.1.2⁺ ：プラス補正

3 撮影する

➡ 標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

➡ 設定しているドライブモード（→57）に従って撮影されます。

- 連続撮影でシャッターボタンを全押しし続けると、3コマ連続撮影して自動停止します。
- セルフタイマーを併用したときは、10秒後に自動的に3コマ連続撮影されます。

AEB撮影の解除



- 手順1と2の操作でAEBステップ量を〈0〉にします。
- メインスイッチ〈OFF〉、レンズ交換、ストロボ充電完了、バッテリーやCFカードの入れ換えで自動解除されます。

- ストロボ撮影およびバルブ撮影との併用はできません。
- カスタム機能C.Fn-3-1でミラーアップを設定した状態でAEB撮影する場合、ドライブモードを連続撮影にしても1コマ撮影となります。

- 3コマの連続撮影が終わるまで表示パネルの〈 〉マークとファインダー内の〈✱〉が点滅してAEB撮影中であることを知らせます。
- ドライブモードが1コマ撮影の場合は、シャッターボタンを3回押して撮影してください。
- 連続撮影中にファインダー内情報は表示されません。
- マニュアル露出のAEB撮影では、シャッター速度が変化します。
- AEBと露出補正を組み合わせて使用することができます。そのとき、露出レベルの表示範囲を超える露出補正をすると、ファインダー内の表示は次のようになりますが、撮影は設定どおりに行われます。

〈P〉、〈Tv〉、〈Av〉、〈A-DEP〉の場合



：±1段のAEBを設定した状態



：－1段の露出補正をした状態



：－1.5段の露出補正をした状態

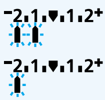


：－2段の露出補正をした状態

〈M〉の場合



：中心の露出が適正露出に対して－2段の状態



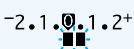
：中心の露出が適正露出に対して－2段を超える状態

C.Fn
- AEBの設定を1/3段ステップに変更することができます。（C.Fn-4→118）
そのときの表示パネルのAEB表示は次のようになります。

・1/3段のAEBを設定した場合



：－1/3



：＋1/3

・2/3段のAEBを設定した場合



：－2/3



：＋2/3

- 撮影順序をマイナス補正→標準露出→プラス補正の順に変更することができます。（C.Fn-7→120）

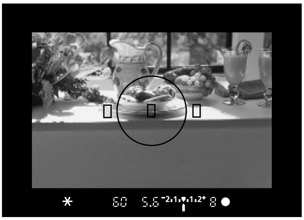
✱ 露出を固定して撮る／AEロックで撮る

選択したAFフレームで露出とピントを別々に決めることができます。これをAEロック撮影といいます。最初に露出を決めたあとで構図を変える必要がある撮影にご利用ください。逆光下での撮影などに有効です。

- AFフレームの選択と測光方式の組み合わせによりAEロックの効果は変わります。（→129）

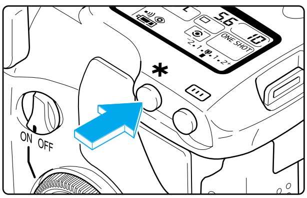
1 露出を合わせたい被写体にピントを合わせる

➡ ファインダー内に露出値が表示されます。



2 〈✱〉ボタンを押す

- ファインダー内に〈✱〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。（⏱4）
- 〈✱〉ボタンを押し直すたびに、その時の露出値をAEロックします。



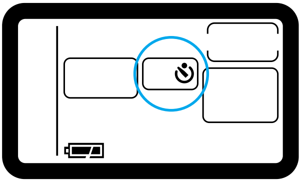


3 構図を決めて、撮影する

C.Fn 〈✱〉ボタンの代わりにシャッターボタン半押しでAEロックを行い、〈✱〉ボタンでピントを合わせることができます。（C.Fn-2-1→118）

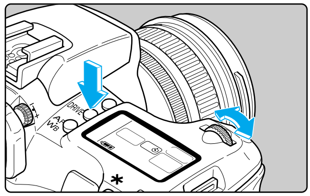
セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。簡単撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも使えます。セルフタイマー撮影をするときは三脚をお使いください。



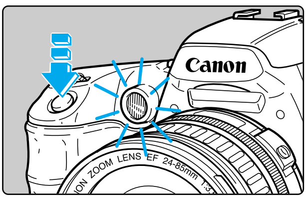
1 セルフタイマーを選択する

- 〈DRIVE〉ボタンを押し（6）、〈 〉を回して〈 〉を選択します。



2 ピントを合わせる

- 合焦マーク〈●〉の点灯と露出表示を確認します。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 電子音が鳴り、同時に赤目緩和ランプが光り、約10秒後に撮影されます。

  始めの8秒間：ゆっくりピッ、ピッ音／ランプ点滅
  最後の2秒間：早くピピピ音／ランプ点灯

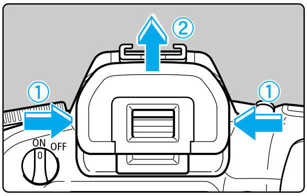
- ➡ セルフタイマー作動中は、表示パネルに撮影されるまでの秒数が減算で表示されます。
- 途中で中止するときは、〈DRIVE〉ボタンを押します。

レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、ねらった被写体にピントが合わなくなります。

- ピントが合ったときの電子音やセルフタイマー撮影時の作動音の［入］／［切］を設定することができます。（→114）
- 自分一人だけをセルフタイマーで撮るときは、自分が入る位置とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロック（→52）して撮影します。
- リモートスイッチRS-80N3（別売）、タイマーリモートコントローラーTC-80N3（別売）を利用するとカメラから離れたところから撮影することができます。

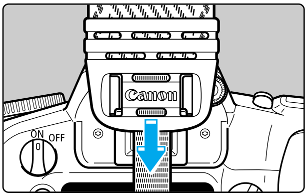
アイピースカバーを使う

セルフタイマーやリモートスイッチ（別売）を使うときなど、ファインダーから目を離した状態で撮影すると、ファインダーから入った光で露出が狂うことがあります。そのようなときは、ファインダー接眼部にアイピースカバーを取り付けてください。



1 アイカップを外す

- アイカップの両脇をつまんだまま引き上げて取り外します。



2 アイピースカバーを接眼部に取り付ける

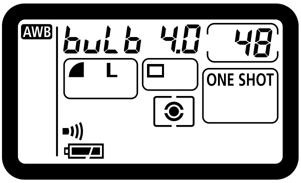
- アイピースカバーはストラップのベルト部分の端にあります。

長時間露光（バルブ）撮影

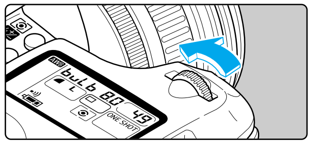
シャッターボタンを押している間、シャッターは開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火など長時間の露光が必要なときに設定します。

1 モードダイヤルを〈M〉にする

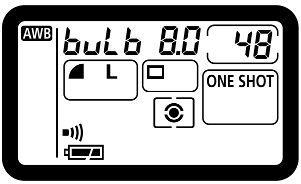
2 シャッター速度を「bulb」にする



- 表示パネルを見ながら〈 〉を回して「bulb」を選びます。
- 「30"」の次が「bulb」です。



3 絞り数値を設定する



- 〈 〉を回します。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影中は表示パネルに露光経過時間が表示されます。（1～999秒まで表示）
- 露光はシャッターボタンを押している間だけ行われます。

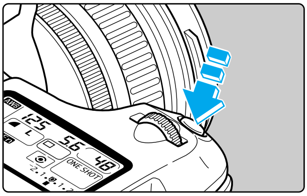
表示パネルの露光経過時間は、最大999（秒）までしか表示されません。正確な露光時間は、撮影画像の情報表示で確認してください。（→94）

リモートスイッチRS-80N3（別売）、タイマーリモートコントローラーTC-80N3（別売）を使用すると、シャッターボタンを押し続ける必要はありません。

ミラーアップ撮影

カスタム機能C.Fn-3-1（→118）を利用して、ミラーアップと露光を別々に行う、ミラーアップ撮影ができます。ミラーショックが気になる近接撮影や超望遠レンズを使用するときに活用してください。

- ミラーアップ撮影にはリモートスイッチRS-80N3（別売）の併用をおすすめします。



1 シャッターボタンを全押しする

➡ ミラーアップします。

- ミラーアップしてから約30秒経過すると、ミラーは自動的に下がります。30秒以内に撮影してください。

2 再度シャッターボタンを全押しする

- 撮影が行われ、ミラーが下がります。
- もう一度撮影するときは、手順1から行います。

- ミラーアップ撮影ではレンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影するとき、セルフタイマー作動中にシャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが実際は撮影されていませんのでご注意ください。

- ミラーアップ撮影は、ドライブモード（→57）の設定にかかわらず1コマ撮影になります。
- セルフタイマーとミラーアップ撮影を併用すると、はじめのシャッターボタン全押しでミラーが上がり、2秒後に撮影されます。

ストロボを使った撮影

4

内蔵ストロボ、またはEOS専用EXシリーズスピードライトを使用すると、E-TTL自動調光（プリ発光・記憶式評価調光）により、通常のAE撮影と同じ感覚で、主被写体重視の自然で雰囲気のあるストロボ撮影を簡単に行うことができます。

この章では内蔵ストロボ、EOS専用スピードライト550EX、および汎用ストロボを使用した撮影のそれぞれについて説明しています。

内蔵ストロボ撮影

内蔵ストロボを使用すると、通常のAE撮影と同じ感覚で、次のストロボ撮影を簡単に行うことができます。

● E-TTL自動調光撮影

E-TTL自動調光（プリ発光・記憶式評価調光）により、AFでピントを合わせた被写体に最適なストロボ光を与えます。

● FE（Flash Exposure）ロック撮影 （→84）

被写体の任意の部分のストロボ露出を適正にする、FEロック撮影ができます。このFEロックは、ストロボ光のAEロック機能です。

● ストロボ調光補正 （→85）

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を補正することができます。補正できる補正量は1/2段ステップ±2段の範囲です。

簡単撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

簡単撮影ゾーン（〈風景〉、〈スポーツ〉を除く）では、暗いときや日中逆光中には必要に応じてストロボが自動的に上がって発光します。

応用撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

応用撮影ゾーンでは、明るさに関係なく、必要なときに〈ストロボ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げるだけでストロボ撮影ができます。

P ：カメラまかせのストロボ撮影を行いたいときに選びます。
シャッター速度と絞り数値は〈□〉（全自動）と同様、自動的に決まります。

Tv ：1/200秒以下の任意のシャッター速度を設定したいときに選択します。
設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で適正露出となる絞り数値が自動設定されます。

Av ：任意の絞り数値を設定したいときに選択します。
夜景などを背景にした暗い場所では、主被写体も背景も適正露出となる、自動スローシンクロ撮影ができます。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長秒時露光で適正露出になります。
- 自動スローシンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなりますので、必ず三脚を使用してください。

M ：シャッター速度も絞り数値も任意に設定したいときに選択します。
主被写体は、ストロボ光で適正露出となります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。

A-DEP ：〈 P 〉と同じストロボ撮影結果になります。

内蔵ストロボの届く距離

（EF24-85mm F3.5-4.5 USM使用時）

ISO	WIDE : 24mm	TELE : 85mm
100	約1～3.4m	約1～2.6m
200	約1～4.8m	約1～3.7m
400	約1～6.8m	約1～5.3m
800	約1～9.6m	約1～7.5m
1000	約1～10.8m	約1～8.4m

ストロボ同調シャッター速度と絞り数値

撮影モード	同調シャッター速度	絞り数値
P	1/200～1/60秒に自動設定されます。	E-TTLプログラムにより自動設定されます。
Tv	1/200秒以下の任意の値を手動で設定します。	設定したシャッター速度に対し、明るさに応じた値が自動設定されます。
Av	設定した絞り数値に対し、明るさに応じた値（1/200～30秒）が自動設定されます。	任意の値を手動設定します。
M	1/200秒以下の任意の値を手動で設定します。	

- EXシリーズスピードライトを使用する（→86）ときは、内蔵ストロボを収納してから取り付けてください。
- 被写体との距離が1m以内で内蔵ストロボ撮影すると、画面の一部が欠け（ケラレ）て暗い画像になります。1m以上離れて撮影してください。
- レンズフードを付けたまま内蔵ストロボを使用すると、フードでストロボの光がケラレてしまいます。内蔵ストロボを使用するときは、必ずフードを外してください。
- 次のレンズを使用すると内蔵ストロボの光がケラレることがあります。
  これらのレンズでストロボを使用するときはEOS専用外部ストロボをおすすめします。
  EF16-35mm F2.8L USM, EF28-70mm F2.8L USM などの大口径レンズ
  EF300mm F2.8L IS USM, EF600mm F4L IS USM などの超望遠レンズ
- 内蔵ストロボ照射角の広角側限界は焦点距離18mmまでです。18mm未満の広角レンズを使用すると、撮影した画像の周囲が暗くなります。

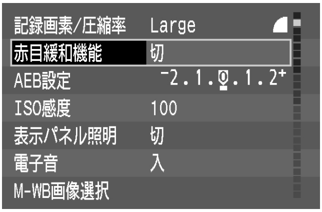
- E-TTLのEは、Evaluative（エバリュエイティブ）の略で評価のことです。
- 内蔵ストロボを収納するときは、指で押し下げます。
- 内蔵ストロボを使用してハイスピードシンクロ（FP発光）撮影をすることはできません。
- 〈**Tv**〉、〈**M**〉で1/200秒より速いシャッター速度を設定しても、自動的に1/200秒に設定されます。
- AF撮影のストロボ露出は、常に撮影時の絞り数値を基準に、AFフレーム連動・主被写体重視のE-TTL自動調光で制御されます。
- 内蔵ストロボとEXシリーズスピードライトを同時に使用することはできません。
- ピントが合わせにくい状況では、AF補助光（→33）が被写体に向けて自動投光されます（〈 〉、〈 〉を除く）。

C.Fn

- AF補助光の投光/内蔵ストロボの発光を禁止することができます。（C.Fn-5→118）
- 内蔵ストロボのシンクロタイミングを後幕シンクロにすることができます。（C.Fn-8-1→120）
- 絞り優先AEでストロボ撮影するとき、シャッター速度を1/200秒に固定することができます。（C.Fn-6-1→120）

MENU 赤目緩和機能を使う

夜や暗い室内などで人物をストロボ撮影したときに目が赤く写ることがあります。これを「赤目現象」といい、ストロボの光が目の網膜に反射しておこります。赤目緩和機能を使うと、ストロボ撮影するときに目にやさしい赤目緩和ランプが点灯し、写る人の瞳孔を小さくして赤目現象を出にくくします。赤目緩和機能は〈 〉、〈 〉以外の撮影モードで機能します。



1 メニューから［赤目緩和機能］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈 〉を回して［赤目緩和機能］を選び、〈SET〉を押します。

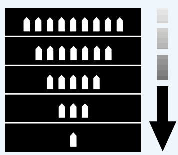


2 赤目緩和機能を設定する

- 〈 〉を回して［入］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 赤目緩和機能が設定され、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと画面が消え、メニューが終了します。

4 ストロボを使った撮影

- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に赤目緩和ランプ点灯表示が行われます。
- この機能は、写される人がランプを注視していないと効果がありませんので、写される人がランプを見るように声をかけてください。
- 効果的な赤目緩和撮影のためには、約1.5秒間の赤目緩和ランプ点灯表示が消えてからシャッターボタンを全押ししてください。
- 赤目緩和ランプ点灯中でも、シャッターボタンを全押しすると撮影できます。
- 赤目緩和機能はEXシリーズスピードライト使用時も機能します。
- 赤目緩和効果の度合いには個人差があります。

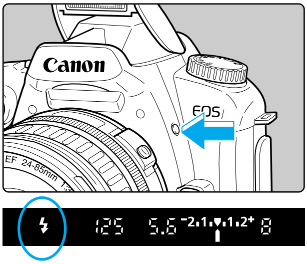


赤目緩和ランプ
点灯表示

室内を明るくしたり、写したい人に近づくとより効果的です。

✱FEロック撮影

FE（Flash Exposure）ロック撮影は、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。FEロックは応用撮影ゾーンで機能します。

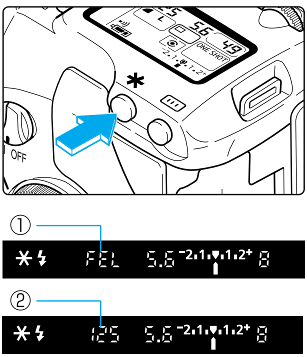


1 ファインダー内で〈⚡〉の点灯を確認する

- 応用撮影ゾーンでは〈⚡〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げます。

2 ピントを合わせる

- 露出を合わせたい被写体にピントを合わせます。



3 被写体を中央のAFフレームに合わせて〈✱〉ボタンを押す （⏱16）

➡ ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露出量を記憶します。

➡ ファインダー内に〈✱〉が点灯します。

➡ 中央のAFフレームが一瞬赤く光ります。

➡ ファインダー内の表示が0.5秒間①のようになり、そのあと②の表示になります。

- 〈✱〉ボタンを押し直すたびにプリ発光し、そのとき必要な露光量をFEロックします。



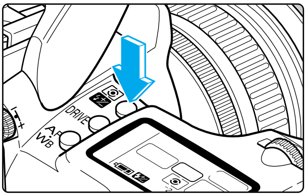
4 撮影する

- 構図を決めて撮影します。

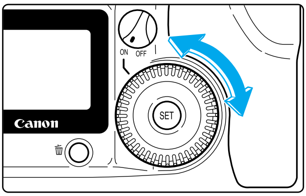
被写体までの距離が遠すぎて露出不足になるときはファインダー内に〈⚡〉が点滅します。被写体に近づいてもう一度手順2～4の操作をします。

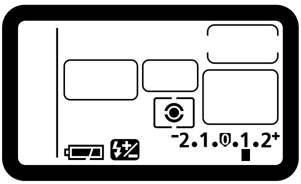
ストロボ調光補正

露出補正と同じ感覚で、内蔵ストロボおよびEXシリーズスピードライトの発光量をカメラで補正することができます。設定できる補正量は1/2段ステップ±2段の範囲です。簡単撮影ゾーンでは、ストロボ調光補正はできません。



1 〈 〉ボタンを押す（⏱6）





2 補正量を設定する

- サブ電子ダイヤルスイッチを〈ON〉にします。
- 表示パネル、またはファインダー内表示を見ながら〈 〉を回します。
- 「＋」はプラス補正、「－」はマイナス補正を示します。



- 設定した調光補正量はメインスイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- 解除するときは、補正量を〈0〉の位置に戻します。

ストロボの調光補正は、EXシリーズスピードライトでも設定することができます。カメラ側とEXシリーズスピードライト側の両方で調光補正を行った場合は、スピードライト側の設定が優先され、カメラ側の設定は機能しません。

C.Fn
- 調光補正量の設定を1/3段ステップに変更することができます。（C.Fn-4-1→118）
- ストロボ露出自動低減制御を解除することができます。（C.Fn-10-1→120）

EOS専用スピードライト550EXを使用した撮影

キヤノンスピードライト550EXを使用すると、内蔵ストロボ撮影と同じ感覚で、より高度なストロボ撮影を簡単に行うことができます。



● E-TTL自動調光撮影

E-TTL自動調光（プリ発光・記憶式評価調光）により、AFでピントを合わせた被写体に最適なストロボ光を与えます。暗いところでは、カメラを絞り優先AEにすると自動スローシンクロになり、主被写体も背景も適正露出の、雰囲気の良い自然な撮影を全自動で行うことができます。

● ハイスピードシンクロ（FP発光）撮影 （→88）

30秒から1/4000秒の全シャッター速度に同調するハイスピードシンクロ（FP発光）撮影ができます。

● FE（Flash Exposure）ロック撮影 （→89）

被写体の任意の部分のストロボ露出を適正にする、FEロック撮影ができます。このFEロックは、ストロボ光のAEロック機能です。

● ストロボ調光補正 （→89）

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を補正することができます。設定できる補正量は1/2段ステップ±2段の範囲です。

● FEB（Flash Exposure Bracketing）撮影 （→88）

ストロボ光のAEBである、FEB撮影を行うことができます。設定できる補正量は、1/2段ステップ±3段の範囲です。

● モデリング発光 （→89）

ストロボ撮影時の影の出かたや、多灯発光によるライティングのバランスを事前に確認することができます。

● ワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影 （→89）

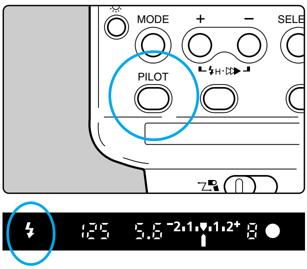
カメラに直接取り付けたときと同じ感覚で、上記のすべての機能を活用したワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影ができます。接続コードが不要なため、自由で高度なライティングが可能です。

EZ/E/EG/ML/TLシリーズスピードライトによる自動調光撮影はできません。

- ピントが合わせにくい状況では、550EXからAF補助光が被写体に向けて自動投光されます。
- 550EX以外のEXシリーズスピードライトも使用できます。使用できる機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

全自動ストロボ撮影

ここでは、〈 P 〉(プログラムAE)と組み合わせたE-TTL自動調光撮影について説明します。550EXの操作については、550EXの使用説明書を参照してください。



1 モードダイヤルを〈 P 〉にする

2 550EXのパイロットランプの点灯を確認する

3 被写体にピントを合わせて撮影する

- ファインダー内の〈 ϟ 〉の点灯とシャッター速度、絞り数値を確認して撮影します。

撮影モード別ストロボ撮影

〈 **Tv** 〉、〈 **Av** 〉、〈 **M** 〉の撮影モードと組み合わせたときも、ストロボを使用しない通常撮影と同じ操作で、E-TTL自動調光撮影を行うことができます。

(1) シャッターボタンを半押しすると、シャッター速度や絞り数値は、通常のストロボを使用しない撮影と同じようにカメラによって設定されます。

撮影モード	シャッター速度の設定	絞り数値（調光絞り値）の設定
Tv（シャッター優先AE）	手動（30〜1/200秒）	自動
Av（絞り優先AE）	自動（30〜1/200秒）	手動
M（マニュアル露出）	手動（30〜1/200秒）	手動

※暗いところで〈 **Av** 〉を設定すると、シャッター速度が遅くなりますので、手ブレ防止のため、三脚をお使いください。

(2) シャッターボタンを全押しすると、(1) で設定された絞り数値を基準にした「プリ発光・記憶式評価調光」により、E-TTL自動調光撮影が行われます。
(3) 背景の露出は、その時のシャッター速度と絞り数値の組み合わせによって決まります。

- 〈 **A-DEP** 〉でストロボ撮影したときは、〈 P 〉と同じ撮影結果になります。
- 撮影モードを簡単撮影ゾーン（→14）にしたときは、内蔵ストロボを使用したときと同じ感覚で、カメラまかせでストロボ撮影ができます。

C.Fn
- EXシリーズスピードライトの発光を禁止することができます。(C.Fn-5-3→118)
- 絞り優先AEでストロボ撮影するとき、シャッター速度を1/200秒に固定することができます。(C.Fn-6→120)

⚡H ハイスピードシンクロ（FP発光）撮影

550EXをハイスピードシンクロモード〈⚡H〉にすると、1/200秒よりも速いシャッター速度が設定されても、自動的に全てのシャッター速度に同調するハイスピードシンクロ（FP発光）撮影が可能になります。ハイスピードシンクロ状態になるとカメラのファインダー内に〈⚡H〉が表示されます。

ハイスピードシンクロ撮影は次のような状況のポートレート撮影などで効果を発揮します。

（1）日中シンクロによるポートレート撮影で絞りを開いて（絞り数値を小さくして）背景をぼかす。

（2）目にキャッチライトを入れる。

（3）シャドー部に補助光を与える。



通常発光



FP発光

FEB撮影

550EXでFEB（Flash Exposure Bracketing）〈FEB〉を設定すると、背景の露出を変えずに1/2段ステップ±3段の範囲で、自動的に発光量を変えながら3コマのストロボ撮影を行うことができます。



標準露出（0）



マイナス補正（−1.0）



プラス補正（+1.0）

- FEBの設定は550EXで行います。詳細は550EXの使用説明書を参照してください。
- ドライブモード（→57）は〈□〉（1コマ撮影）をおすすめします。

C.Fn FEBの設定を1/3段ステップに変更することができます。（C.Fn-4-1→118）

✱FEロック撮影

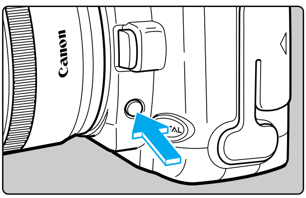
FEロック撮影の操作については、内蔵ストロボの「FEロック撮影」（→84）に準じます。
なお、発光モードは、通常発光／ハイスピードシンクロ（FP発光）のどちらでも構いません。それぞれの発光モードに対応したFEロック撮影ができます。

ストロボ調光補正

ストロボ調光補正の操作については、内蔵ストロボの「ストロボ調光補正」（→85）に準じます。

モデリング発光

ストロボ撮影による被写体の影の出かたや、多灯発光によるライティングのバランスを確認することができます。



1 ストロボ撮影のためのカメラとストロボの設定を確認する

2 カメラの絞り込みボタンを押す

- ストロボが70Hzで約1秒間発光します。

ワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影

マスターストロボ（550EX、ST-E2）とスレーブに設定した550EXを使用して、ワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影を簡単に行うことができます。撮影する被写体に対して、マスターストロボを中心に、スレーブ設定した550EXを配置します。

- このカメラはAタイプカメラです。詳細はマスターストロボの使用説明書を参照してください。

マクロリングライトMR-14EX、マクロツインライトMT-24EXをマスターストロボとして、また、スピードライト420EXをスレーブストロボとして使用することもできます。

汎用ストロボを使用した撮影

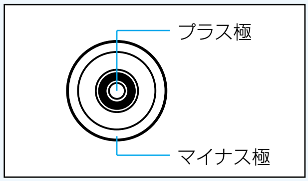
同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/200秒以下のシャッター速度で、スタジオ用の大型ストロボは1/60秒以下のシャッター速度で同調撮影することができます。なお、お使いになるストロボがカメラに正しく同調するかどうか、あらかじめ確認してからお使いください。

シンクロ接点について

シンクロ接点を利用して、シンクロケーブル付きのストロボを使用することができます。シンクロ接点はケーブルの抜け落ちを防止するロックねじ付きです。シンクロ接点はX接点のみで、1/200秒以下のシャッター速度に同調します。

- 他社製の特定のカメラ専用のストロボ（一般にホットシューに複数の接点を持っています）およびストロボ用付属品をお使いになると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因となることがありますのでご注意ください。
- スタジオ用大型ストロボの機種の中には、シンクロコードの極性がこのカメラの極性と逆のものがあります。この場合そのストロボは発光しません。ストロボメーカーに相談されるか、市販の極性変換ケーブルを使用して極性を合わせてください。このカメラの極性は右図のようになっています。



- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

- アクセサリーシューとシンクロ接点にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することができます。
- このカメラにはキヤノンEXシリーズスピードライトをお使いになることをおすすめします。

TTL/A-TTL自動調光スピードライトについて

- EZ/E/EG/ML/TLシリーズスピードライトをTTL／A-TTL自動調光状態で使用すると発光しません。マニュアル発光で撮影してください（マニュアル発光機能を持つスピードライトのみ）。
- 550EXのカスタム機能C.Fn-3-1を設定して、TTL自動調光になっているときは発光しません。

撮影画像の再生操作

5

撮影した画像を見る方法や削除の方法、DPOFに対応したプリンターやラボプリントサービスでプリントするための設定について説明します。
また、テレビなどとの接続、日付・時刻の設定などについてもここで説明します。

他の機器で撮影・記録された画像データについて

このカメラ以外で撮影された画像や、このカメラで撮影した後にコンピューターなどで画像データを加工したりファイル名を変更した画像は、正常に表示できない場合があります。

DPOFについて

DPOF（Digital Print Order Format）は、デジタルカメラで撮影した画像の中からプリントしたい画像や枚数などの指定情報をCFカードなどの記録メディアに記録するための規格です。
DPOF対応のデジタルカメラでプリント指定すると、次のようなことができます。

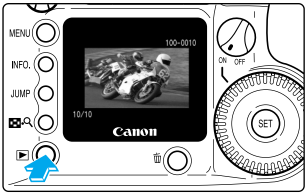
- DPOF対応のプリンターにCFカードを入れるだけで、指定した通りにプリントできます。
- ラボプリントサービスのお店にプリントを注文する際、注文用紙にプリントしたい画像の指定や枚数などの記入が不要となります。

＊ このカメラは、DPOF version 1.1に対応しています。

撮影した画像を見る

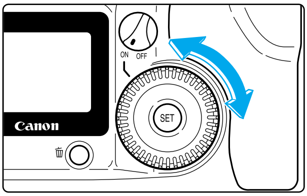
撮影した画像は、液晶モニターで見ることができます。画像を見る方法は、1コマ表示、インデックス表示、拡大表示があり、〈⊞・🔍〉ボタンで切り換えることができます。

▶ 1コマ表示で見る



1 画像を表示する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影された画像が表示されます。
- 再度〈▶〉ボタンを押すと、液晶モニターが消え、再生が終了します。

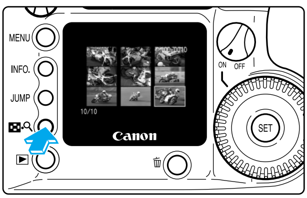


2 表示画像を切り換える

- 〈◎〉を左に回すと、新しい画像から順番に古い画像が選択されます。
- 〈◎〉を右に回すと、古い画像から順番に新しい画像が表示されます。

⊞・🔍 インデックス表示で見る

1画面に9コマの画像を同時に表示します。

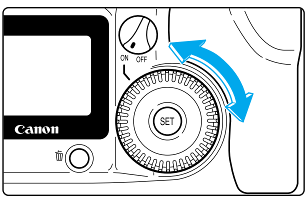


1 〈▶〉ボタンを押す

- ➡ 最後に撮影された画像が1コマ表示されます。

2 インデックス表示にする

- 〈⊞・🔍〉ボタンを押します。
- ➡ インデックス表示になります。

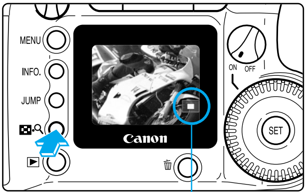


3 選択されている画像を切り換える

- ➡ 選択されている画像に緑色の枠がつきます。
- 〈◎〉を左に回すと、新しい画像から順番に古い画像が選択されます。
- 〈◎〉を右に回すと、古い画像から順番に新しい画像が選択されます。
- 〈⊞・🔍〉ボタンを押すと、選んでいる画像が拡大表示されます。1コマ表示にするには再度〈⊞・🔍〉ボタンを押します。
- 画像を見終わったら〈▶〉ボタンを押して液晶モニターを消します。

⊞·🔍 撮影画像を拡大して見る

撮影した画像を約3倍に拡大して見ることができます。

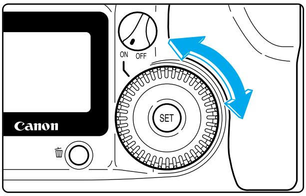


拡大表示位置

1 1コマ表示またはインデックス表示で、拡大したい画像を選択する （→92）

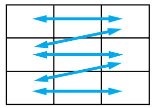
2 画像を拡大する

- 1コマ表示のときは2回、インデックス表示のときは1回、〈⊞·🔍〉ボタンを押します。
- ➡ 選択した画像が約3倍に表示されます。
- ➡ 画像の中央部が最初に表示されます。
- ➡ 画面の右下に、現在の表示位置を示すアイコンが表示されます。



3 表示範囲を変える

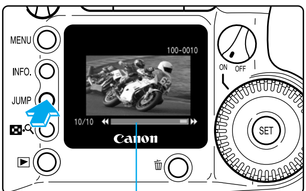
- 〈◎〉を右に回すと、画像の中央から中央右、左下の順に表示範囲が変わり、〈◎〉を左に回すと、画像の中央から中央左、右上の順に表示範囲が変わります。



- 画像を見終わったら〈▶〉ボタンを押して液晶モニターを消します。

JUMP 撮影画像をジャンプする

画像をジャンプして表示します。

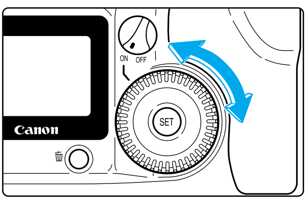


ジャンプバー

1 1コマ表示またはインデックス表示にする （→92）

2 ジャンプ表示にする

- 〈JUMP〉ボタンを押します。
- ➡ ジャンプバーが表示されます。



10コマ前の画像 ⟷ 現在の画像 ⟷ 10コマ後の画像

3 ジャンプする

- 〈◎〉を回します。
- ➡ 1コマ表示の場合、左に回すと前の10コマ目、右に回すと次の10コマ目の画像を表示します。
- ➡ インデックス表示の場合、左に回すと前の9コマ、右に回すと次の9コマを表示します。
- 〈JUMP〉ボタンを押すとジャンプバーが消え、ジャンプが終了します。
- 画像を見終わったら〈▶〉ボタンを押します。

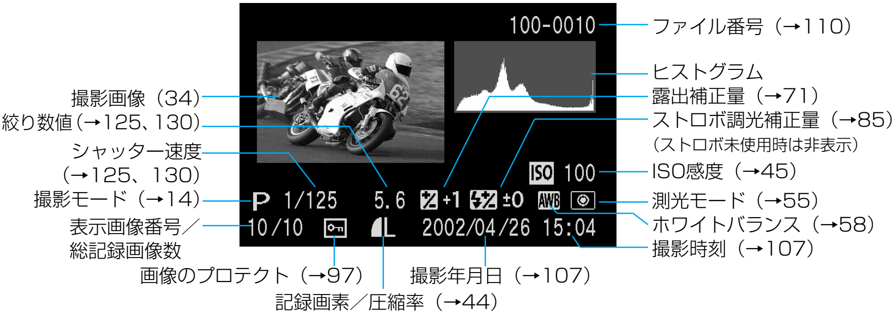
5 撮影画像の再生操作

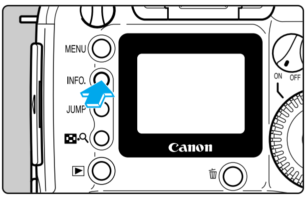
INFO. 撮影画像の情報表示を入／切する

液晶モニターに画像が表示されているときに〈INFO.〉ボタンを押すと、画像の撮影情報が表示されます。画像情報は1コマ表示のときのみ有効です。

再生時の画像情報表示

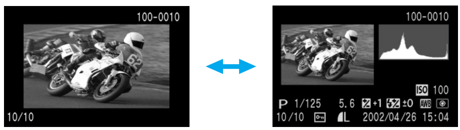
次のような内容の情報が表示されます。





〈INFO.〉ボタンを押す

➡ ボタンを押すたびに、画像情報表示が入／切します。



- 表示画像は、通常の1コマ表示同様、〈◎〉の操作で切り換えられます。

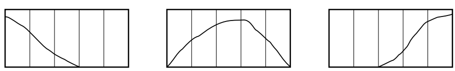
- 撮影準備状態での設定内容表示については、「カメラの設定内容を確認する」（→54）を参照してください。
- 自動再生（→95）、画像回転（→96）、画像プロテクト（→97）中に〈INFO.〉ボタンを押しても、画像の情報表示を入／切することができます。

ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、横軸に明るさ、縦軸にその明るさの画素数を積み上げたグラフです。左によるほど暗い画素になり、右によるほど明るい画素になります。このヒストグラムを見ることにより、撮影した画像がどの程度の明るさか判断することができます。

ヒストグラムを見て、暗いほうに偏っているようであれば、露出補正（→71）をプラス補正し、明るいほうに偏っているようであれば、マイナス補正し、再撮影することで良い結果が得られます。

ヒストグラム例



暗い画像　普通の明るさの画像　明るい画像

高輝度警告について

情報表示にした際、撮影画像に露出オーバー部分があると、その箇所が点滅表示されます。ヒストグラムを参考にマイナス補正（→71）し、再撮影することで良い結果が得られます。

MENU 撮影画像を自動再生する（オートプレイ）

CFカードに記録されたすべての画像を自動的に連続表示します。1画像の表示時間は約3秒です。



1 メニューから［オートプレイ］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［オートプレイ］を選びます。





2 自動再生する

- 〈SET〉を押します。
- ➡ 画像読み込み画面が約2秒間表示されたあと、自動再生が始まります。
- 自動再生を一時停止したいときは、〈SET〉を押します。一時停止中は画像の左上に［❚❚］が表示されます。もう一度、〈SET〉を押すと自動再生が再開されます。
- 自動再生を終了したい場合は、〈MENU〉ボタンを押します。

- 自動再生中は、オートパワーオフ（→25、116）は機能しません。
画像を見終わったら、必ず〈MENU〉ボタンを押して自動再生を終了してください。
- 撮影画像によっては、表示時間が異なる場合があります。

オートプレイを一時停止し、〈◎〉を回すと通常の1コマ表示（→92）と同じように、表示画像が切り換えられます。

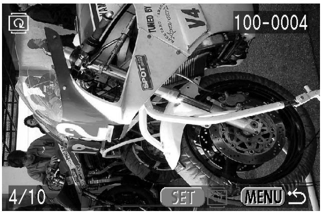
MENU 撮影画像を回転して表示する

撮影画像を時計回りに90度、270度回転することができます。この機能で画像の向きをあらかじめ正しくセットしておくと、再生の際に正しい向きに表示することができます。



1 メニューから［画像回転］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［画像回転］を選びます。



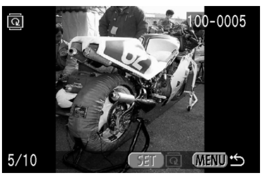
2 画像回転モードにする

- 〈SET〉を押します。
- ➡ 画像回転モードになります。

グリップを下にした縦位置で撮影した画像を90度回転



グリップを上にした縦位置で撮影した画像を270度回転



3 画像を回転させる

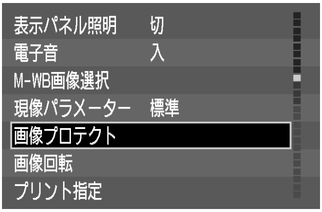
- 〈◎〉を回して回転したい画像を表示させ、〈SET〉を押します。
- ➡ 〈SET〉を押すたびに、時計回りに90度→270度→0度の順に回転します。
- 引き続き回転したい画像がある場合は、この手順を繰り返してください。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像回転モードが終了します。

- 画像回転は、保存されている画像データには影響しません。
- 回転機能を使用した画像をコンピューターに取り込んだ場合、取り込むソフトウェアによっては回転結果が反映されない場合があります。

グリップを下にした縦位置で撮影した画像は、90度回転することで、正位置にすることができ、グリップを上にした縦位置で撮影した画像は、270度回転させることで正位置にすることができます。

MENU 撮影画像にプロテクトをかける

大切な画像を間違って消さないようにプロテクト（保護）をかけることができます。
〈⊞🔍〉ボタンを押すと、1コマ表示とインデックス表示を切り換えてプロテクトをかけることができます。



1 メニューから［画像プロテクト］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［画像プロテクト］を選びます。



2 プロテクト設定画面にする

- 〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクト設定画面になります。
- 〈⊞🔍〉ボタンを押すとインデックス表示でのプロテクト設定画面になり、再度、〈⊞🔍〉ボタンを押すと拡大表示でのプロテクト設定画面となります。



［🔑］マーク

3 プロテクトをかける

- 〈◎〉を回してプロテクトをかけたい画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクトを設定した画像に、［🔑］マークがつきます。
- 再度、〈SET〉を押すとプロテクトが解除され［🔑］マークが消えます。
- 引き続きプロテクトをかけたい画像がある場合は、この手順を繰り返してください。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、プロテクト設定が終了します。

> プロテクトをかけた画像は、このカメラの消去機能で消去できません。消去する場合は、プロテクトを解除してください。

> 必要な画像にプロテクトをかけて全画像消去（→98）を行うと、プロテクトをかけた画像以外は全て消去されます。必要な画像以外を一度にまとめて消去する際に便利です。

5 撮影画像の再生操作

撮影画像を消去する（全コマ消去）

画像を消去する方法には、1コマずつ消去する方法とCFカードに記録されているすべての画像を消去する方法があります。ここでは、CFカード内に記録された全ての画像を一括して消去する方法について説明します。1コマずつ消去する方法については、「撮影画像を消去する（1コマ消去）」（→37）を参照してください。

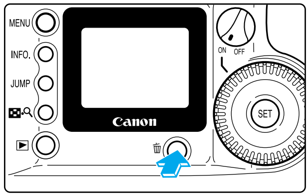
1 再生する（→92）

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影された画像が表示されます。

2 〈🗑〉ボタンを押す

- ➡ 消去選択メニューが表示されます。





3 〈◎〉を回して［全画像...］を選び、〈SET〉を押す

- ➡ 消去確認画面が表示されます。



4 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押す

- ➡ プロテクトをかけていないすべての画像が消去されます。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

プロテクトをかけた画像は、このカメラの消去機能で消去できません。消去する場合は、プロテクトを解除してください。（→97）

必要な画像にプロテクト（→97）をかけて全画像消去を行うと、プロテクトをかけた画像以外は全て消去されます。必要な画像以外を一度にまとめて消去する際に便利です。

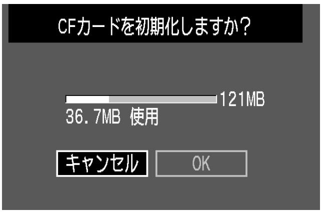
MENU CFカードを初期化する

このカメラで使用できるようにCFカードを初期化します。また、CFカードをカメラに入れたとき、表示パネルに「Err CF」（CFエラー警告）が表示されたときも、CFカードを初期化することで、使用することができる場合があります。



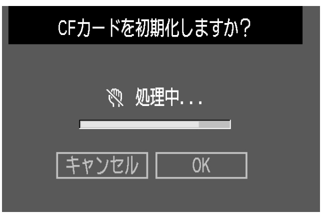
1 メニューから［カード初期化］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［カード初期化］を選びます。



2 〈SET〉を押す

➡ CFカード初期化確認画面が表示されます。



3 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押す

➡ CFカードが初期化されます。

CFカードを初期化すると、CFカード上の記録内容はすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、CFカード上の記録内容を十分に確認してから行ってください。

- キヤノン製以外のCFカードや、他のカメラ、コンピューターで初期化したCFカードを使用すると正しく動作しない場合があります。その際は、必ずこのカメラで初期化してください。初期化することで、使用することができるようになる場合があります。
- 表示パネルに「Err CF」(CFエラー警告)が表示されたときは、スキャンディスクなどのユーティリティーソフトを使って、カードの診断および修復することをおすすめします。
- 初期化や、スキャンディスクなどのユーティリティーソフトを使ってカードの診断および修復作業を行っても、表示パネルに「Err CF（CFエラー警告）が表示されたり、正しく動作しないときは、別のCFカードに交換してください。

MENU 撮影画像をプリント指定する

CFカードに記録されている画像の中から、プリントしたい画像やプリントタイプ、画像情報（日付やファイル番号）を指定することができます。このカメラでのプリント指定機能はDPOFに準拠しています。

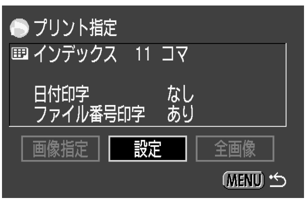
DPOFについて

DPOF（Digital Print Order Format）は、デジタルカメラで撮影した画像の中からプリントしたい画像や枚数などの指定情報をCFカードなどの記録メディアに記録するための規格です。

DPOF対応のデジタルカメラでプリント指定すると、次のようなことができます。

- PCカードスロットを備えたDPOF対応のプリンターにCFカード（別途PCカードアダプターが必要）を入れるだけで、指定した通りにプリントできます。
- ラボプリントサービスのお店にプリントを注文する際、注文用紙にプリントしたい画像の指定や枚数などの記入が不要となります。

1 カメラでプリント指定する



2 プリンターにCFカードを入れるだけで、簡単にプリント



2 ラボプリントサービスのお店で、簡単に注文

DPOF対応機器でのプリント時の注意

DPOF対応機器でプリントするときは次のことに注意してください。

- 他のDPOF対応機器で設定されたプリント指定の内容をこのカメラで変更することはできません。プリント指定をした機器で変更してください。
- 他の機器でプリント指定している画像データがある場合、このカメラで新たにプリント指定をすると、以前にプリント指定した内容が消去されることがあります。
- DPOF対応機器やラボプリントサービスによっては、指定内容が反映されない場合があります。お使いの機器の使用説明書、またはラボプリントサービスにご確認ください。

＊［⚠］が表示された場合、プリント指定操作を行うと、すでに指定されている内容が全て無効になります。

＊ EOS D60にキヤノン カードフォトプリンターCP-10を接続してダイレクトプリントすることはできません。

プリントする画像を選ぶ

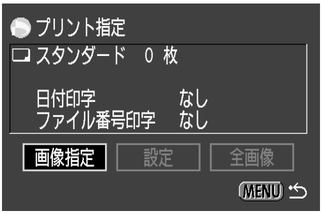
プリントする画像を選びます。画像を1コマずつ選ぶ方法と全画像を選ぶ方法の2つがあります。

1コマずつ選ぶ



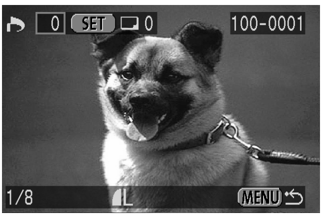
1 メニューから［プリント指定］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［プリント指定］を選びます。



2 〈SET〉を押す

➡ プリント指定画面になります。
➡ ［画像指定］が選ばれます。



3 〈SET〉を押す

➡ 画像指定画面になります。
- 〈⊞・🔍〉ボタンを押すと3コマ表示での画像指定画面となり、再度〈⊞・🔍〉ボタンを押すと拡大表示での画像指定画面になります。



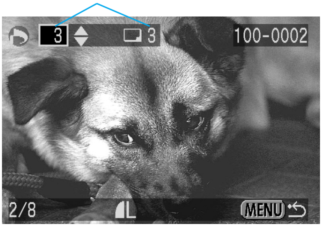
4 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して画像を選び、〈SET〉を押します。

➡ プリントタイプ（→103）に［スタンダード］または［両方］を選んでいる場合は、枚数指定画面になります。
➡ プリントタイプ（→103）に［インデックス］を選んでいる場合は、左上の□の中に〈✓〉マークがつきます。

- RAW形式の画像は指定できません。
- ［インデックス］を選んでいる場合は、もう一度〈SET〉を押すと〈✓〉マークが消え、選択が解除されます。

選んだ画像のプリント枚数



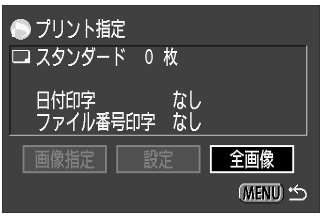
5 プリント枚数を選ぶ

- プリントタイプ（→103）に［インデックス］を選んでいる場合は、枚数を指定することはできません。
- 〈◎〉を回して枚数を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 〈□〉の横に枚数が表示されます。
- 枚数を［0］にすると、選択が解除されます。
- 引き続き画像を選ぶ場合は、手順4～5を繰り返してください。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、プリント指定画面に戻ります。

全画像を選ぶ

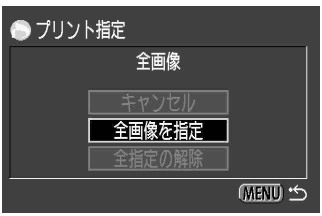
RAW形式の画像を除いた、CFカード内のすべての画像を選びます。

1 「1コマずつ選ぶ」（→101）の手順1～2を行い、プリント指定画面を表示させる



2 〈◎〉を回して［全画像］を選び、〈SET〉を押す

- ➡ 全画像指定メニューが表示されます。



3 ［全画像を指定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［全画像を指定］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ すべての画像が指定され、プリント指定画面に戻ります。
- ここで［全指定の解除］を選ぶと、すでに指定されていた画像がすべて解除されます。
- ［キャンセル］を選ぶと、プリント指定画面に戻ります。

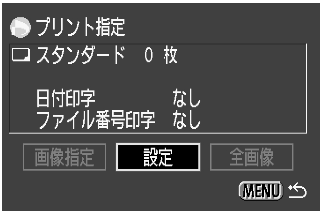
- 撮影日時の古い順から順にプリントされます。
- 最大998画像まで指定できます。
- 「全画像を選ぶ」の方法で画像を選んだ場合、すべて1枚ずつになります。枚数を選びたい場合は、「1コマずつ選ぶ」（→101）の方法で選んでください。

プリントタイプを指定する

次のプリントタイプが指定できます。

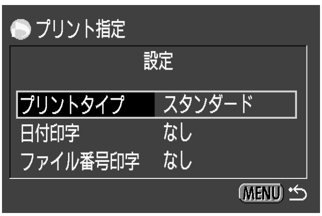
スタンダード： 用紙1枚に1画像プリントします。
インデックス： インデックス形式で画像を縮小してプリントします。
両方： スタンダードとインデックスの両方をプリントします。

1 「1コマずつ選ぶ」（→101）の手順1～2を行い、プリント指定画面を表示させる



2 〈◎〉を回して［設定］を選び、〈SET〉を押す

➡ プリント指定設定画面が表示されます。



3 〈◎〉を回して［プリントタイプ］を選び、〈SET〉を押す



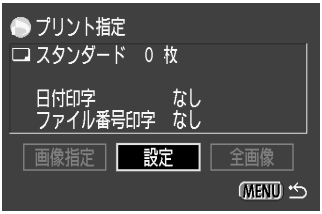
4 プリントタイプを選ぶ

- 〈◎〉を回して希望するプリントタイプを選び、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すとプリント指定画面に戻ります。

日付のプリントを指定する

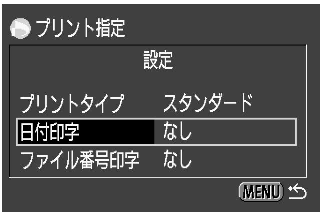
画像に日付情報を付けてプリントするかどうかを設定します。

1 「1コマずつ選ぶ」（→101）の手順1～2を行い、プリント指定画面を表示させる

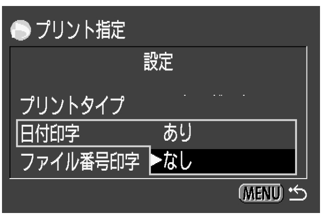


2 〈◎〉を回して［設定］を選び、〈SET〉を押す

➡ プリント指定設定画面が表示されます。



3 〈◎〉を回して［日付印字］を選び、〈SET〉を押す



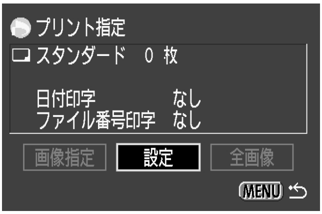
4 日付プリントを指定する

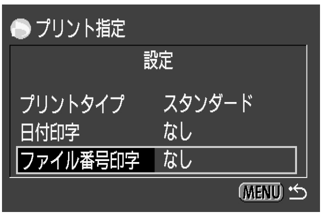
- 〈◎〉を回して［あり］または［なし］を選び、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すとプリント指定画面に戻ります。

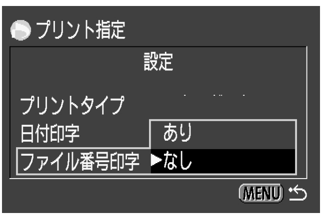
- プリントタイプがインデックスの場合、日付とファイル番号の両方をプリント指定することはできません。どちらか一方を指定してください。
- 日付は、メニュー機能の「日付／時刻」で設定した日付スタイルでプリントされます。（→107）

ファイル番号のプリントを指定する

画像にファイル番号を付けてプリントするかどうかを設定します。







1 「1コマずつ選ぶ」(→101)の手順1～2を行い、プリント指定画面を表示させる

2 〈◎〉を回して［設定］を選び、〈SET〉を押す

➡ プリント指定設定画面が表示されます。

3 〈◎〉を回して［ファイル番号印字］を選び、〈SET〉を押す

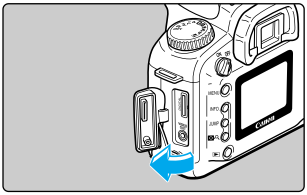
4 ファイル番号プリントを指定する

- 〈◎〉を回して［あり］または［なし］を選び、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すとプリント指定画面に戻ります。

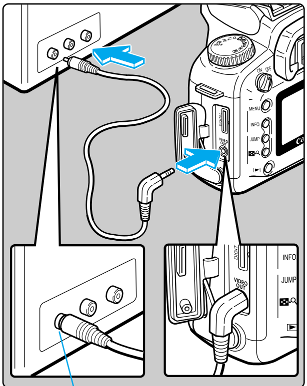
プリントタイプが［インデックス］の場合、日付とファイル番号の両方をプリント指定することはできません。どちらか一方を指定してください。

撮影した画像をテレビで見る

付属のビデオケーブルを使用すると、撮影した画像をテレビなどで確認することができます。接続の際は、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。



1 カバーを開ける



ビデオ入力端子

2 接続する

- カメラのVIDEO OUT端子とテレビのビデオ入力端子をビデオケーブルで接続します。
- ケーブルのプラグは、根元までしっかりと差し込んでください。

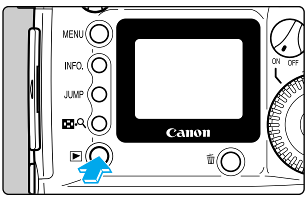
3 テレビの電源をオンにし、入力切り換えをビデオ入力にする

4 メインスイッチを〈ON〉にする

5 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます。

- 液晶モニターと同じように画像を見たり、メニューによる設定を行うことができます。
- 見終わったら、メインスイッチを〈**OFF**〉にし、テレビの電源をオフにしてから、ビデオケーブルを外してください。

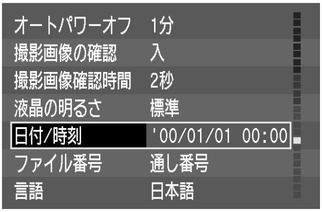


異なるテレビ方式を設定（→117）すると、画像が正しく表示されません。テレビ方式については接続する機器の使用説明書を参照してください。

- DCカプラーの使用をおすすめします。（→22）
- カメラにビデオケーブルを接続すると、液晶モニターに画像やメニューは表示されません。
- テレビ方式を海外の別方式（PAL方式）に切り換えることができます。（→117）初期状態では日本のテレビ方式のNTSC方式に設定されています。

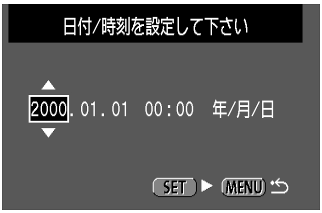
MENU 日付・時刻を設定する

日付や時刻を設定・修正するときは、次の手順で設定します。日付・時刻は撮影した画像に記録されます。



1 メニューから［日付／時刻］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［日付／時刻］を選びます。



2 〈SET〉を押す

➡ 日付／時刻設定画面が表示されます。



3 日付と時刻を設定する

- 〈◎〉で数字を合わせ、〈SET〉で設定します。
- 設定すると、次の項目に移動します。



4 表示順を選ぶ

- 〈◎〉で表示順を選び、〈SET〉で決定します。
- 日付の種類は〈◎〉を回すと以下のように変わります。

年／月／日
↕
月／日／年
↕
日／月／年

5 〈SET〉を押す

➡ 日付、時刻が設定され、メニューに戻ります。

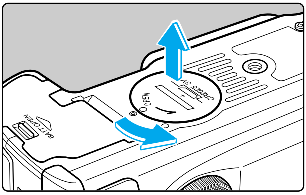
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画面が消え、メニューが終了します。

- 撮影した画像には撮影した日付・時刻が一緒に記録されます。日付・時刻が設定されていないと、撮影した日付・時刻が正しく記録されませんので、必ず正しく設定してください。
- 日付・時刻は日付／時計機能用電池により保持されています。

日付／時計機能用電池を交換する

日付／時計機能用電池（バックアップ電池）の残量がなくなると、表示パネルに「C bC」と表示されます。CR2025リチウム電池 1個をお買い求めになり、次の手順で交換してください。

また、電池残量のあるバッテリーパックやDCカプラーを取り付けた状態で交換すると、設定されている日付・時刻などのメニュー機能の設定はそのまま保持されます。



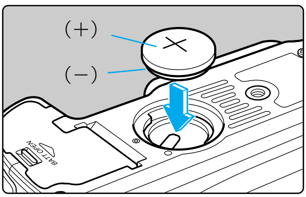
1 メインスイッチを〈OFF〉にする

2 ふたを矢印方向に45度回して取り外す

- 45度以上は回さないでください。

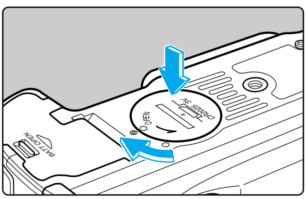
3 古い電池を取り出す

- 電池室を下にし、電池の端を指で押して取り出します。



4 新しい電池を入れる

- （＋）側を上にして入れます。



5 ふたを矢印方向に回して取り付ける

- 日付・時刻がずれてしまった場合は、設定してください。（→107）

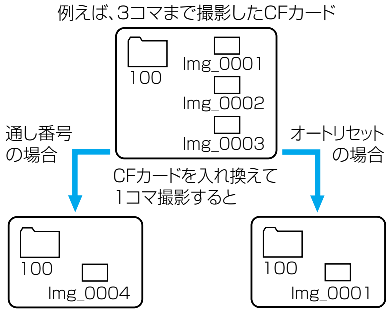
> ❗ 日付／時計機能用電池は、必ずCR2025リチウム電池をお使いください。

MENU ファイル番号の方式設定

撮影した画像は、自動的に0001～9900までのファイル番号が付けられて、ひとつのフォルダに100画像ずつ保存されます。各フォルダには100～998までの番号が付けられ、CFカードに記録されます。自動ファイル番号の付け方としては、通し番号とオートリセットの2種類があります。初期状態では、通し番号に設定されています。

（1）通し番号
別のCFカードに入れ換えても、最後に撮影した画像の続き番号が、次の画像に付けられます。

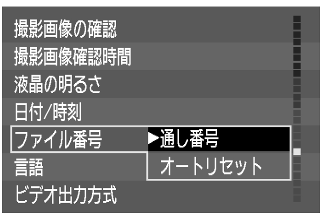
（2）オートリセット
別のCFカードに入れ換えると、ファイル番号が初期値（Img_0001）に戻ります。すでに画像が記録されているCFカードを入れた場合は、その続きのファイル番号となります。





1 メニューから［ファイル番号］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［ファイル番号］を選び、〈SET〉を押します。



2 設定する項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して［通し番号］または［オートリセット］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 選んだ内容が設定され、メニューに戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画面が消え、メニューが終了します。

- ファイル番号は、フィルムカメラのフィルムコマ番号に相当するものです。
- ファイル番号について詳しくは、「デジタルカメラ・写真の基本用語解説」（→125）を参照してください。
- 連続撮影を行うと、1つのフォルダに101画像以上保存される場合があります。

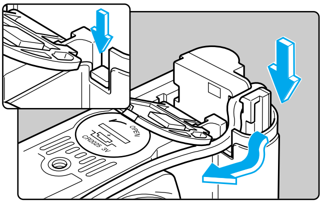
ファイル番号を通し番号にして撮影すると、撮影した画像のファイル番号が重複しないため、画像をコンピューターでまとめて管理するような場合に便利です。

MENU 撮像素子（CMOS）をクリーニングする

撮像素子とは、フィルムカメラでいえばフィルムにあたる部分で、この撮像素子にゴミやほこりなどが付くと、撮影した画像の同じ部分に黒い点などが写り込むことがあります。このような場合は、次の手順で撮像素子をクリーニングしてください。ただし、撮像素子は非常にデリケートな部品ですので、クリーニングが必要なときは、できるだけキヤノンサービスセンターにお申し付けください。

クリーニングを行う際は、必ず付属のDCカプラーを取り付け、家庭用電源を使用してください。バッテリーパックを入れた状態でクリーニングを行うと、表示パネルにクリーニング警告「AC」が点滅表示されクリーニングはできません。

クリーニングを始める前に、レンズを取り外してください。（→23）

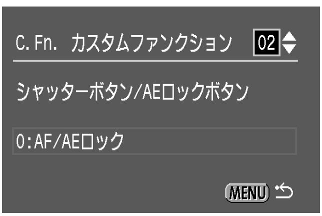


1 DCカプラーを入れて（→22）、メインスイッチを〈ON〉にする（→25）



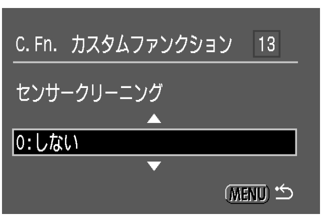
2 メニューから［C.Fn］を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈◎〉を回して［C.Fn］を選びます。



3 〈SET〉を押す

➡ カスタムファンクション設定画面が表示されます。



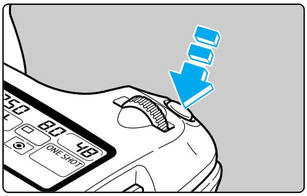
4 ［C.Fn-13］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［C.Fn-13センサークリーニング］を選び、〈SET〉を押します。



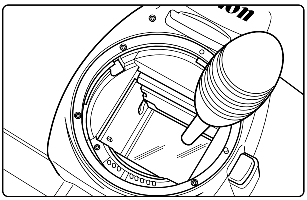
5 ［1：する］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［1：する］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示パネルに「CLEAn」が表示されます。
- 「AC」が点滅表示された場合は、メインスイッチを〈OFF〉にして、バッテリーパックを取り出し、手順1からやり直してください。



6 シャッターボタンを全押しする

- ➡ ミラーが上がり、シャッターが開きます。



7 撮像素子をクリーニングする

- ブロアー（市販品）で慎重に撮像素子表面のほこりを吹き飛ばします。

8 クリーニングを終了する

- メインスイッチを〈OFF〉にします。
- ➡ カメラの電源が切れ、シャッターが閉じ、ミラーが下がります。
- メインスイッチを〈ON〉にすると、通常の撮影準備状態になります。

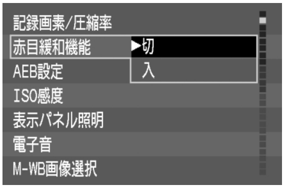
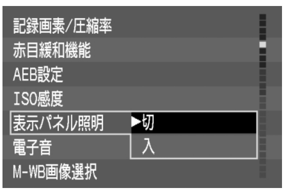
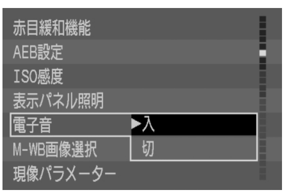
- クリーニング中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕破損の原因となります。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシで撮像素子をふくと、表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。停電などにより電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕破損の原因となります。
- 高圧のエアーやガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により、撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで撮像素子の表面に傷が付くことがあります。

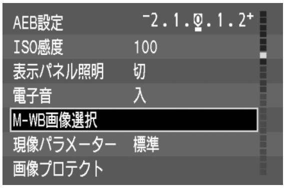
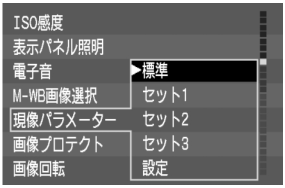
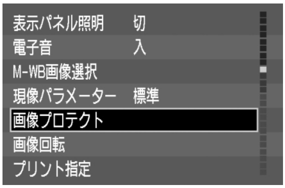
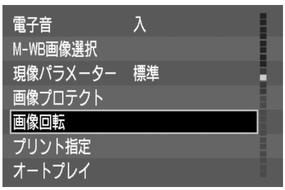
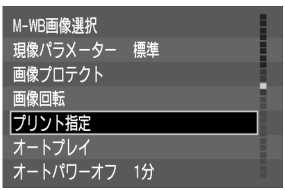
メニューによる機能設定

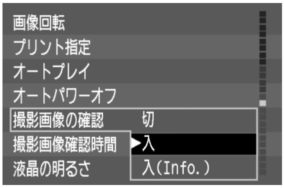
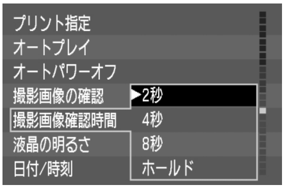
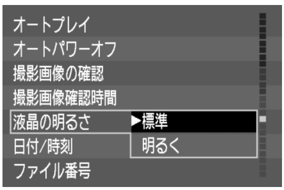
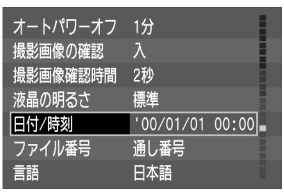
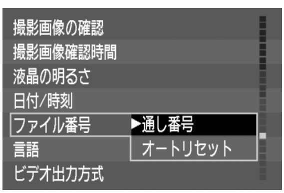
6

このカメラでは、さまざまなカメラの設定をメニューで行います。そのメニューの中で、特に撮影に関する設定のことをカスタム機能と呼んでいます。本文中では C.Fn マークを付けて簡単な説明をしています。
ここでは、メニューの一覧とカスタム機能の活用方法について説明します。メニューの操作方法と初期設定については、（→28、29）を参照してください。

MENU メニュー機能一覧

<table>
<tr><th>項　目</th><th>画　面</th><th>内　容</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td>記録画素／圧縮率の設定</td><td>
</td><td>撮影した画像をCFカードに記録するときの記録画素数と圧縮率を設定します。
Large ◢、Large ▟、Middle ◢、Middle ▟、Small ◢、Small ▟、RAWから選びます。</td><td>44</td></tr>
<tr><td>赤目緩和機能の設定</td><td>
</td><td>夜や暗い室内などで人物をストロボで撮影したとき、目が赤く写る赤目現象を緩和する機能の切／入を設定します。</td><td>83</td></tr>
<tr><td>露出を自動的に変えて撮る、AEB撮影の設定</td><td>
</td><td>AEB撮影のマイナス補正とプラス補正のステップ量を設定します。</td><td>72</td></tr>
<tr><td>ISO感度の設定</td><td>
</td><td>ISO感度を設定します。ISO 100、200、400、800、1000から選びます。</td><td>45</td></tr>
<tr><td>表示パネル照明の設定</td><td>
</td><td>〈SET〉を操作したときに表示パネルを照明するかどうかを設定します。暗い場所で撮影するときに効果的です。</td><td>61</td></tr>
<tr><td>電子音の設定</td><td>
</td><td>ピントが合ったときに電子音を鳴らすかどうかを設定します。また、セルフタイマー撮影時の作動音の設定も兼ねています。</td><td>75</td></tr>
</table>

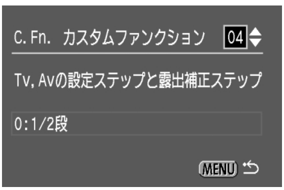
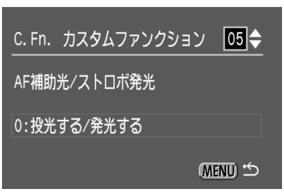
項　目	画　面	内　容	参照ページ
マニュアルホワイトバランスの画像選択		マニュアルホワイトバランスを設定するときの画像を選択します。	60
現像パラメーターの選択		撮影画像の処理を、カメラが自動的に行う標準の他に、任意設定したパラメータを3つまで登録・設定できます。	46
撮影画像のプロテクト（保護）		大切な画像を誤って消去しないように、画像にプロテクトをかけることができます。	97
撮影画像の回転		表示する画像を時計回りに90度、270度回転させることができます。	96
撮影画像のプリント指定		撮影した画像をDPOF対応機器でプリントするためのプリント指定ができます。	100
撮影画像のオートプレイ（自動再生）		撮影した画像を1コマずつ、液晶モニターに自動再生表示します。	95

項　目	画　面	内　容	参照ページ
オートパワーオフの設定		バッテリーの消耗を防ぐため、一定時間操作しないと自動的に電源が切れるオートパワーオフ機能の時間を設定します。1分、2分、4分、8分、15分、30分、切から選びます。	25
撮影後の画像確認の設定		撮影した後に、画像を液晶モニターに表示させるかどうかを設定します。入、入（Info.）、切から選びます。表示時間は、以下に記載している撮影画像確認時間で設定します。	35
撮影後の画像確認時間の設定		撮影後の画像確認を入か入（Info.）にした場合、撮影画像が表示されている時間を設定できます。2秒、4秒、8秒、ホールド（表示したまま）から選びます。	36
液晶モニターの明るさの設定		液晶モニターの明るさを設定します。標準、明るくから選びます。	—
日付／時刻の設定		日付と時刻を設定します。また、年月日の表示順も設定できます。	107
ファイル番号の付け方の設定		撮影した画像に自動的に振られる番号の付け方を設定します。通し番号、オートリセットから選びます。	110

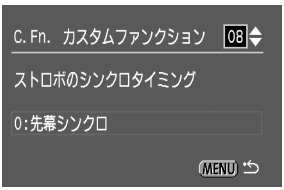
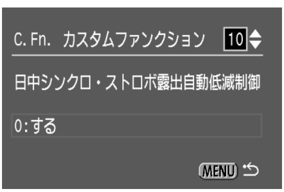
項　目	画　面	内　容	参照ページ
表示言語の設定		メニュー画面に表示される言語を設定します。English（英語）、Deutsch（ドイツ語）、Français（フランス語）、日本語から選びます。	—
ビデオ出力方式の設定		テレビ方式を設定します。NTSC、PALから選びます。	106
CFカードの初期化		このカメラにセットしたCFカードを初期化（フォーマット）します。	99
カスタム機能の設定		撮影スタイルに応じてカメラの機能を細かく変更できるカスタム機能を設定します。	118
カスタム機能の設定解除		カスタム機能の全ての項目を初期設定状態にします。	–
ファームウェアのバージョン情報		現在のカメラのファームウェアのバージョン情報です。（新しいファームウェアのご提供や、アップデート方法につきましては、弊社ホームページなどにて適時ご案内します。）	–

カスタム機能で変更できる内容

このカメラの機能は、さまざまな撮影スタイルに応じて細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。カスタム機能はメニューから［C.Fn］を選んで変更します。

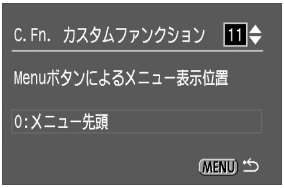
機能番号	項　目	画　面	選択番号	設定・変更内容	
01	欠番				
02	シャッターボタン/AEロックボタン		0 1 2 3	シャッターボタン半押しでAE、AF作動 〈✱〉ボタンでAEロック 〈✱〉ボタンでAE、AF作動 シャッターボタン半押しでAEロック シャッターボタン半押しでAE、AF作動 〈✱〉ボタンでAFロック（AEロックはしない） 〈✱〉ボタンでAE、AF作動（AEロックはしない） シャッターボタン半押しでAE作動	
03	ミラーアップ撮影		0 1	しない（通常撮影） する	
04	Tv、Avの設定ステップと露出補正ステップ		0 1	1/2段ステップ 1/3段ステップ	
05	AF補助光/ストロボ発光		0 1 2 3	投光する／発光する 投光しない／発光する 外部ストロボのみ投光／発光する 投光する／発光しない	

効用・備考	参照ページ
ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。	74
AI SERVO AF中にカメラと主被写体の間を障害物が横切るとき、障害物にピントが合わないよう〈✱〉ボタンでAF作動を一時停止させることができます。露出は撮影の瞬間に決まります。 移動／停止を繰り返す動物撮影などに有効です。AI SERVO AFを設定しておくと、〈✱〉ボタンでAI SERVO AFの作動／停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適状態にしてシャッターチャンスを待つことができます。	50
近接撮影や超望遠レンズによる撮影でミラー作動によるカメラブレを防止するのに有効です。	78
より厳密な露出が要求される撮影条件において有効です。 （露出の設定を変更しても、露出表示が変化しないことがありますが、制御は正しく行われます。）	130
AF補助光の投光を禁止します。 カメラ内蔵AF補助光の投光を禁止します。 ストロボの発光を禁止します。	33

機能番号	項　目	画　面	選択番号	設定・変更内容
06	Avモードでのシャッター速度		0 1	自動設定 1/200秒固定（ストロボ使用時）
07	AEB撮影順序/自動解除		0 1 2 3	0→−→+／自動解除する 0→−→+／自動解除しない −→0→+／自動解除する −→0→+／自動解除しない
08	ストロボのシンクロタイミング		0 1	先幕シンクロ シャッター全開直後に発光 後幕シンクロ シャッターが閉じる直前に発光
09	レンズ・AFストップボタンの機能変更		0 1 2	ボタンを押している間、AF作動停止 ボタンを押している間、AF作動 ボタンを押すと測光タイマー中、AEロック AFストップボタンは、一部の超望遠レンズにのみ装備されています。
10	日中シンクロ・ストロボ露出自動低減制御		0 1	する しない

＊ C.Fn-8-1：内蔵ストロボ、EOS専用スピードライト使用時ともに機能します。ただし、後幕シンクロ機能を持つスピードライトでは、スピードライト側で後幕シンクロを設定してください。

効用・備考	参照ページ
夜や暗い室内などで自動スローシンクロを禁止したストロボ撮影をするときに有効です。	67 87
最初の1コマを標準露出にしたAEB撮影を行います。メインスイッチ〈**OFF**〉、レンズ交換、バッテリーやCFカードの入れ換えを行っても、AEB設定は保持されます。	73
露出量の少ない順にAEB撮影を行います。	73
露出量の少ない順にAEB撮影を行います。メインスイッチ〈**OFF**〉、レンズ交換、バッテリーやCFカードの入れ換えを行っても、AEB設定は保持されます。	73
低速シャッター速度撮影で光源の軌跡などを写し込むときに有効です。	82
押している間は、カメラ側操作によるAF作動は行いません。 ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。	–
自然な日中シンクロ描写がオートで得られます。 夕日など強い逆光下での人物撮影で、人物が露出アンダーになるのを防ぎます。	85

機能番号	項　目	画　面	選択番号	設定・変更内容	
11	MENUボタンによるメニュー表示位置		0 1 2	常に一番最初のメニュー項目を表示。 前回設定したメニュー項目を表示。（メインスイッチOFFで解除、ONで一番最初のメニュー項目を表示） 前回設定したメニュー項目を表示。（メインスイッチOFFでも記憶保持）	
12	撮影時のSETボタン機能		0 1 2 3	割り当てない 画像サイズ・圧縮率の変更 ISO感度の切り換え 現像パラメーターの選択	
13	センサークリーニング		0 1	しない する	
14	スーパーインポーズの表示		0 1	する しない	
15	CFカード未装填時のレリーズ		0 1	する しない	

＊ C.Fn-11で設定した内容は、簡単撮影ゾーンでも機能します。

効用・備考	参照ページ
変更を頻繁に行う項目の場合、即座にメニュー内容の選択ができます。 変更を頻繁に行う項目の場合、即座にメニュー内容の選択ができます。 電源のON/OFFに係わらず本機能を保持したいときに便利です。	–
撮影時に、記録画素/圧縮率の変更がすぐにできます。	44
撮影時に、ISO感度の変更がすぐにできます。	45
撮影時に、現像パラメーターの変更がすぐにできます。	46
撮像素子を清掃するときに行います。撮影画像に、ゴミやほこりなどの小さな点が写り込むときに有効です。	111
合焦AFフレームの点灯を禁止します。	49
CFカードの入れ忘れを防止します。	–

資料

デジタルカメラ・写真の基本用語解説

AE
Auto Exposureの略でカメラが自動的に露出を調節する機能です。カメラに内蔵された露出計で自動的に最適な露出（シャッター速度と絞り数値の組み合わせ）が決まります。

AF
Auto Focusの略でカメラが自動的に焦点（ピント）を合わせる機能です。

CF（コンパクトフラッシュ）カード
小型のフラッシュメモリーカードです。このカメラでは、撮影画像を記録するのに使用します。

DCF規格
DCFは、Design rule for Camera File systemの略です。
デジタルカメラなどで撮影した画像ファイルなどをメーカーの異なるデジタルカメラや関連機器間で手軽に利用し合える環境を整えることを目的に、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）によって標準化された規格です。本カメラはDCF規格に準拠しています。

DPOF
DPOFは、Digital Print Order Formatの略です。
デジタルカメラで撮影した画像をラボプリントサービスや家庭用ダイレクトプリンターで簡単にプリントするための規格です。このカメラはDPOFに対応しています。このカメラでプリント指定すると、その指定情報がCFカードに書き込まれます。DPOFに対応したラボプリントサービスや家庭用ダイレクトプリンターを使用すれば、その情報を元に簡単にプリントすることができます。

ISO感度
銀塩写真のフィルムの光に対する感光度（感度）の強さを示すデータです。通常「ISO 100」のように表記します。ISO感度は数値が大きくなるほど光に対する感光度が強くなります。デジタルカメラでも、銀塩写真に準じてISO感度が使われます。

JPEG
Joint Photographic Experts Group形式の略です。カラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率が選択できますが、圧縮率が高くなるほど伸張（画像の復元）したときの画像は劣化します。

RAW（ロウ）
撮像素子の生（RAW）データを保存する、コンピューター画像処理を前提としたファイル形式です。画像劣化のない方式で圧縮・保存・解凍されますので、付属のソフトウェアの画像処理機能によって、使用目的に最適な画像を創ることができます。

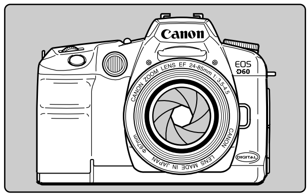
赤目現象

目の瞳孔が開いているような暗い部屋でストロボ撮影すると、瞳孔を通して網膜に反射した光で瞳孔が赤く写る現象のことを言います。レンズの光軸とストロボの距離が短い場合、特に多く発生します。赤目現象を起こりにくくするには次のようにします。

① 赤目緩和機能を「入」にして撮影する（撮影前に赤目緩和ランプを点灯させ、瞳孔を小さくすることで赤目現象を緩和する）
② EXシリーズスピードライトを使って撮影する（瞳孔から反射してきた光とレンズの光軸をずらして赤目現象を緩和する）
③ できるだけ近づいて撮影する（②と同じ）

絞り数値

レンズに組み込まれている絞りは開口部を開けたり閉じたりして、撮像素子に当たる光の量を調整します。この開口部の大きさを表した数字（焦点距離÷開口径）を絞り数値といいます。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示される絞り数値は、カメラに取り付けたレンズの種類によって異なりますが、1.0〜91となっています。



シャッター速度

カメラ本体に組み込まれているシャッターは撮像素子に当たる光の量をシャッターが開いている時間の長さで調整します。このシャッターの開いている時間の長さをシャッター速度といいます。

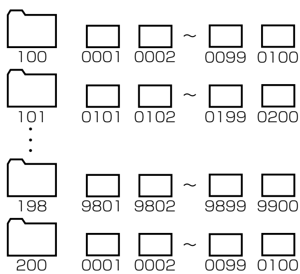
初期化

CFカードの初期化とは、CFカードの内部を画像データの書き込みできるように整えることです。初期化を行なうとCFカードに記録されている全てのデータが消去されますので、初期化を行なう際は十分注意してください。

ファイル番号とフォルダについて

撮影した画像は、自動的に0001〜9900までのファイル番号が付けられて、ひとつのフォルダに100コマずつ保存されます。各フォルダには100〜998までの番号が付けられ、CFカードに記録されます。

ただし、連続撮影を行うと、1つのフォルダに101画像以上保存される場合があります。 また、下二桁が99のフォルダは作成されません。



また、RAW以外で撮影した画像のファイル名はImg_、拡張子はjpgとなり、RAWで撮影した画像のファイル名はCRW_、拡張子はcrwとなります。thmの拡張子が付いた画像は、インデックス表示用のサムネイル画像ファイルです。

例） Img_0001.jpg

ファイル名（Img_）　ファイル番号（0001）　拡張子（jpg）

ファームウェア

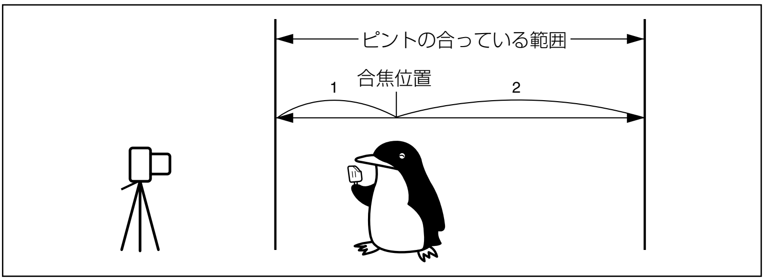
ファームウェアとは、機器を制御するために組み込まれたソフトウェアのことで、EOS D60では、このファームウェアによって撮影、画像処理などが行われます。ファームウェアはあらかじめカメラに組み込まれていますが、弊社ホームページなどでバージョンアップがアナウンスされたときは、お客様自身で更新することができます。

被写界深度

ピントを合わせた被写体を中心にして前後にもピントが合っている範囲があります。この範囲のことを被写界深度といい、絞り数値を大きくする（絞りを閉じる／小口径絞り）ほどピントの合っている範囲が前後に広くなります。これを被写界深度が深くなるといいます。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く／大口径絞り）とピントが合う範囲が狭くなります。これを被写界深度が浅くなるといいます。

被写界深度には次のような性質があります。

① 絞り数値が大きくなるほど被写界深度は深くなる。
…絞り込むほど被写界深度は深くなる。
② 同じ絞り数値ならレンズの焦点距離が短いレンズほど被写界深度は深くなる。
…望遠レンズよりも広角レンズのほうが被写界深度は深くなる。
③ 同じ絞り数値なら遠方の被写体にピントを合わせるほど被写界深度は深くなる。
④ 被写界深度はピントを合わせたところを中心にして手前側に浅く奥側に深い。ピントの合う範囲は一般的に手前側1に対して奥側が2になる。（下図参照）





絞り数値F22



絞り数値F2

露出

撮影するために撮像素子に光を当てることを露出（または露光）といいます。また、ISO感度に応じた適切な光を当てることを適正露出といいます。適正露出は、「シャッター」と「絞り」の組み合わせで調整します。

撮影機能の組み合わせ一覧

●：自動設定　○：選択可能

モードダイヤル	AF			AFフレーム選択		ドライブ		測光方式		
	ONE SHOT	AI SERVO	AI FOCUS	自動	任意	1コマ撮影	連続撮影	評価測光	部分測光	中央部重点測光
			●	●		●		●		
	●			●			●	●		
	●			●		●		●		
	●			●		●		●		
		●		●			●	●		
	●			●		●		●		
P	○	○		○	○	○	○	○	○	○
Tv	○	○		○	○	○	○	○	○	○
Av	○	○		○	○	○	○	○	○	○
M	○	○		○	○	○	○	○	○	○
A-DEP	●			●		○	○	○	○	○

モードダイヤル	内蔵ストロボ			ホワイトバランス		記録画素／圧縮率						
	自動	手動	赤目緩和	自動	手動	Large ◢	Large ▟	Middle ◢	Middle ▟	Small ◢	Small ▟	RAW
	●		○	●		○	○	○	○	○	○	○
	●		○	●		○	○	○	○	○	○	○
				●		○	○	○	○	○	○	○
	●		○	●		○	○	○	○	○	○	○
				●		○	○	○	○	○	○	○
	●		○	●		○	○	○	○	○	○	○
P		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Tv		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Av		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
M		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
A-DEP		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

AFモードとドライブモードの関係

ドライブモード	ONE SHOT AF	AI SERVO AF	AI FOCUS AF
1コマ撮影	ピント合わせが終わるまでは撮影できません。ピントが合うと同時にピントを固定します。評価測光の場合は、露出を固定します。（撮影前に露出の値を記憶）	被写体の動きに合わせてピント合わせを続けます。露出は撮影する瞬間に決定されます。	被写体の状態によってONE SHOT AFからAI SERVO AFに自動的に切り換わります。
連続撮影	上と同じ条件で連続撮影となります。（1秒間に約3コマ、最大約8コマまで）	上と同じ条件で連続撮影となります。ピント合わせは連続撮影中も作動します。（1秒間に約2.5コマ、最大約8コマまで）	

露出警告表示一覧

撮影モード	表示警告例（点滅）	意　味	備　考
P	30" 3.5	被写体が暗すぎます。	1）ISO感度を上げてください。 2）ストロボを使用してください。
	4000 22	被写体が明るすぎます。	1）ISO感度を下げてください。 2）減光用のNDフィルターを使用してください。
Tv	500 3.5	露出アンダーになります。	1）〈 〉を回してシャッター速度を遅くしてください。 2）ISO感度を上げてください。
	60 22	露出オーバーになります。	1）〈 〉を回してシャッター速度を速くしてください。 2）ISO感度を下げてください。
Av	30" 22	露出アンダーになります。	1）〈 〉を回して絞り数値を小さくしてください。 2）ISO感度を上げてください。
	4000 3.5	露出オーバーになります。	1）〈 〉を回して絞り数値を大きくしてください。 2）ISO感度を下げてください。
A-DEP	60 22	希望する被写界深度が得られません。	1）被写体からできるだけ離れて再度操作してください。 2）ズームレンズを使用している場合は、広角側にセットしてください。
	30" 3.5	被写体が暗すぎます。	1）ISO感度を上げてください。 2）ストロボを使用してください。撮影結果は〈**P**〉によるストロボ撮影と同じです。
	4000 22	被写体が明るすぎます。	1）ISO感度を下げてください。 2）減光用のNDフィルターを使用してください。

警告表示例は、使用するレンズの最小絞り数値がF3.5、最大絞り数値がF22のときの表示例です。使用するレンズによって、最小絞り数値、最大絞り数値が異なります。

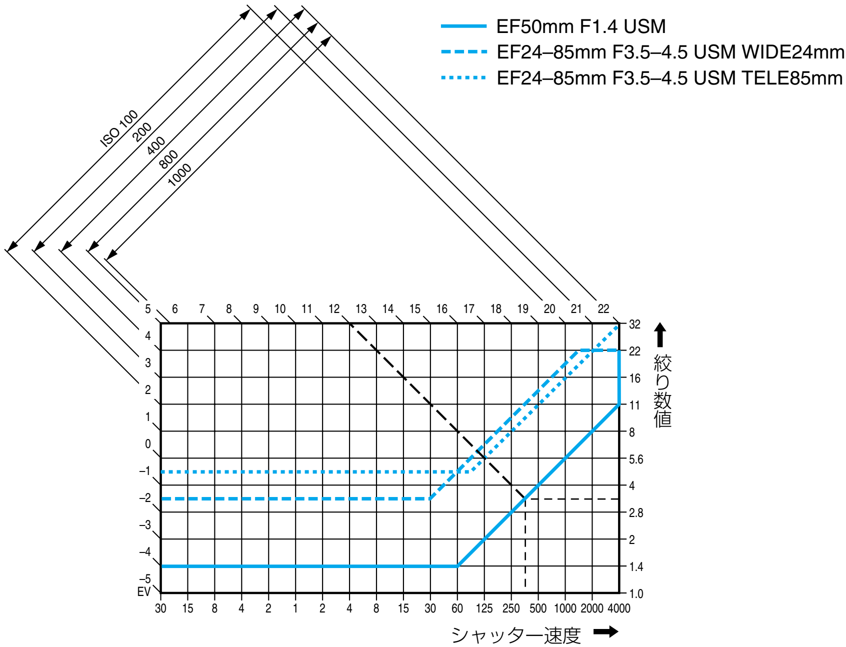
AFフレームの選択と測光方式の組み合わせによるAEロックの効果

（撮影モードが応用撮影ゾーンのとき）

AFフレームの選択 / 測光方式	自動選択AF	任意選択AF
評価測光	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。
部分測光	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。	
中央部重点平均測光	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックする。	

プログラム線図

〈 P 〉プログラムAEに設定したときのプログラム線図を示します。



図の見かた

図の横軸はシャッター速度、縦軸は絞り数値を表しています。
図の左端と上端に目盛られている被写体輝度（EV数値）の変化に対し、プログラムAEで自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせが色の線で示されています。

例：EF50mm F1.4 USMのレンズを使用したとき、被写体輝度がEV12の場合は、上端の12の点から右下45°の方向にのばした線とプログラム線図の交点を見るとシャッター速度1/350、絞り数値F3.5が自動的に設定されることがわかります。
左上の斜めに引かれた矢印が示す範囲は、ISO感度に対する測光輝度範囲です。

7 資料

シャッター速度と絞り数値の表示

シャッター速度の表示

シャッター速度は1/2段ステップで変わります。4000 から 4 までは分数の分母を表しています。例えば 125 は1/125秒を表しています。また 0"3 は0.3秒、 15" は15秒を表しています。

絞り数値の表示

絞り数値は1/2段ステップで変わります。数字が大きくなるほどレンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値の範囲はレンズによって異なります。

1/2段ステップ				1/3段ステップ			
シャッター速度		絞り数値		シャッター速度		絞り数値	
4000	2"	1.0	91	4000	10	1.0	20
3000	3"	1.2		3200	8	1.1	22
2000	4"	1.4		2500	6	1.2	25
1500	6"	1.8		2000	5	1.4	29
1000	8"	2.0		1600	4	1.6	32
750	10"	2.5		1250	0"3	1.8	36
500	15"	2.8		1000	0"4	2.0	40
350	20"	3.5		800	0"5	2.2	45
250	30"	4.0		640	0"6	2.5	51
180		4.5		500	0"8	2.8	57
125		5.6		400	1"	3.2	64
90		6.7		320	1"3	3.5	72
60		8.0		250	1"6	4.0	81
45		9.5		200	2"	4.5	91
30		11		160	2"5	5.0	
20		13		125	3"2	5.6	
15		16		100	4"	6.3	
10		19		80	5"	7.1	
8		22		60	6"	8.0	
6		27		50	8"	9.0	
4		32		40	10"	10	
0"3		38		30	13"	11	
0"5		45		25	15"	13	
0"7		54		20	20"	14	
1"		64		15	25"	16	
1"5		76		13	30"	18	

C.Fn シャッター速度と絞り数値の設定を1/3段ステップに変更することができます。（C.Fn-4→118）

メッセージ一覧

液晶モニターに表示されるメッセージには以下のものがあります。

処理中...	カメラがデータを処理しています。 撮影した画像をCFカードに記録しています。 記録画像を読み込んでいます。
CFカードがありません。	CFカードがカメラにセットされていないときに、撮影や再生をしようとしました。
CFカードが異常です。	CFカードに異常があります。
CFカードがいっぱいです。	これ以上プリント指定を保存できません。
ファイル名が作成できません。	カメラが作成しようとするファイル名と同じ名前のファイルが存在する、もしくは、すでにファイル番号が最大値になってしまったために、ファイル名を作成できません。必要な画像をコンピューターに取り込んだ後、コンピューターでCFカードを初期化してください。なお、初期化すると、CFカード内の画像およびデータはすべて消去されます。
画像がありません。	CFカードに画像が記録されていません。
画像が大きすぎます。	3200×2400画素より大きなサイズの画像を再生しようとしました。
互換性のないJPEGです。	互換性のないJPEGフォーマットの画像を再生しようとしました。
データが壊れています。	データが破壊されている画像を再生しようとしました。
回転できない画像です。	別のカメラもしくは異なるフォーマットで撮影した画像、または、いったんコンピューターに取り込んで加工した画像を回転させようとしました。
認識できない画像です。	特殊なフォーマット（他社のカメラ特有の記録フォーマットなど）で撮影した画像を再生しようとしました。
プロテクトされています。	プロテクトされている画像を削除しようとしました。
指定が多すぎます。	プリント指定が多すぎます。これ以上指定できません。
指定完了できませんでした。	プリント指定の画像指定を保存できませんでした。
CCDRAW	他機種で撮影されたCCDRAWの画像を再生しようとしました。

エラーコード表示

カメラに異常が発生すると、表示パネルに「Err xx」が表示されます。エラーコードに応じて、以下の対応を行ってください。
頻繁にこのエラーコードが表示されるときは、故障ですので「xx」の数値を控えて最寄りのキヤノンサービスセンター（別紙）にお持ちください。
また、撮影直後にこのエラーコードが表示されたときは、撮影されていない場合がありますので、再生ボタンを押して画像の確認をしてください。

Err 01	レンズの接点を清掃してください。（→7）
Err 02	CFカードに問題があります。次のいずれかの対応を行ってください。 CFカードの抜き差しを行う。CFカードをフォーマットする。別のCFカードに交換する。
Err 04	CFカードの容量がいっぱいです。不要な画像を消去するか、十分な空き容量のあるCFカードに交換してください。
Err 05	内蔵ストロボの自動ポップアップを阻害しました。 メインスイッチ〈OFF〉→〈ON〉を行ってください。
Err 99	次のいずれかの対応を行ってください。 メインスイッチ〈OFF〉→〈ON〉。バッテリーパックの抜き差し。

「故障かな？」とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、この表を参考にしてカメラをチェックしてください。

電源

バッテリーパックが充電できない	専用のバッテリーパックを使用していますか？ ➡ バッテリーパックBP-511を使用してください。（→3） パワーアダプターに正しくセットしましたか？ ➡ バッテリーパックを正しくセットしてください。（→18） コンパクトパワーアダプターにDCカプラーが接続されていませんか？ ➡ コンパクトパワーアダプターからDCカプラーのプラグを抜いてください。（→19）
メインスイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない	バッテリーパックが消耗していませんか？ ➡ バッテリーパックを充電してください。（→18） バッテリーパックを正しく入れましたか？ ➡ バッテリーパックを正しく入れてください。（→20） バッテリー室ふたが開いていませんか？ ➡ バッテリー室ふたをしっかりと閉じてください。（→20） CFカードスロットカバーが開いていませんか？ ➡ CFカード取り出しボタンが飛び出すまでしっかりと差し込み、CFカードスロットカバーをしっかりと閉じてください。（→24）
メインスイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する	撮影後、すぐにメインスイッチを〈OFF〉にしても、CFカードへの画像記録を行なうため、数秒間はアクセスランプが点滅します。 ➡ CFカードへの画像書き込みが終了すれば、アクセスランプは消え、自動的に電源が切れます。
バッテリーの消耗が早い	バッテリーパックが十分に充電されていますか？ ➡ 十分に充電してください。（→18） バッテリーパックの寿命ではありませんか？ ➡ 新しいバッテリーパックをお買い求めください。（→134）
電源が勝手に切れる	オートパワーオフ機能が働いていませんか？ ➡ もう一度メインスイッチを〈ON〉にするか、オートパワーオフ機能を［切］にしてください。（→116）
表示パネルに〈 〉のみが点滅している	バッテリーパックの容量が極端に少なくなっています。 ➡ バッテリーパックを充電してください。（→18） なんらかの理由でカメラが誤動作していると考えられます。 ➡ シャッターボタンを半押しして、カメラが撮影準備状態に戻れば、正常に撮影できます。（→25） ＊〈 〉の表示がそのままの場合はカメラの故障です。カメラを最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください。（→別紙）

撮影

撮影・記録ができない	CFカードが正しくセットされていますか？ ➡ CFカードを正しく入れてください。（→24） CFカードがいっぱいになっていませんか？ ➡ 新しいCFカードに入れ換えるか、不要な画像を消去してください。（→24、37、98） バッテリーパックが消耗していませんか？ ➡ バッテリーパックを充電してください。（→18） ピントは合っていますか？（ファインダー内の合焦マークが点滅していませんか？） ➡ もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせなおしてください。それでもピントが合わないときは、手動でピントを合わせてください。（→25、53）
液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる	ゴミやほこりがついていませんか？ ➡ 眼鏡ふきややわらかい布などでふいてください。 液晶が消耗していませんか？ ➡ お買い上げの販売店またはキヤノンサービスセンターにご相談ください。（→6、別紙）
画像がボケて写っている	レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（または〈**M**〉）になっていませんか？ ➡ レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください。（→23） シャッターボタンを押すときに手ブレを起こしていませんか？ ➡ 手ブレを起こさないようにシャッターボタンを静かに押してください。（→25、30）
CFカードが使えない	CFカードのデータが壊れていませんか？ ➡ CFカードを初期化してください。（→99） ➡ 指定されたCFカードを使用してください。（→2、135）
表示パネルに「C bC」が表示される	日付／時計機能用電池が消耗していませんか？ ➡ 新しい日付／時計機能用電池に交換してください。（→109）

撮影画像の確認・操作

画像を消去できない	画像にプロテクトをかけていませんか？ ➡ プロテクトを解除してください。（→97）
撮影年月日・時刻が正しく表示されない	日付・時刻が正しく設定されていますか？ ➡ 日付・時刻を正しく設定してください。（→107）
テレビに画像が出ない	ビデオケーブルのプラグを根元まで差し込んでいますか？ ➡ ビデオケーブルのプラグを、根元までしっかりと差し込んでください。（→106） テレビ方式（NTSC/PAL）が正しく設定されていますか？ ➡ 接続する機器と同じテレビ方式に設定ください。（→106）

主なアクセサリー（別売）



バッテリーパック　BP-511

EOS D60の強力なリチウムイオン二次電池パックです。電源の定格は7.4V。充電は、コンパクトパワーアダプターCA-PS400で行い、フル充電で約490コマ（常温・ストロボ50%使用）の撮影ができます。なお、充電所要時間は約90分です。



バッテリーグリップ　BG-ED3

バッテリーパックBP-511を2本取り付け可能なバッテリーグリップで、縦位置用シャッターボタン、電子ダイヤル、AEロック／FEロックボタン、AFフレーム選択ボタンが装備されています。（DCカプラーも使用可能）



視度補正レンズ　E

内蔵の視度調整機能との組み合わせでさらに調整範囲が広がるアイカップ付き視度補正レンズEが10種類（－4dpt～＋3dpt）用意されています。



クリップオンタイプストロボ

アクセサリーシューに取り付けて使用する、クリップオンタイプストロボとして、EXシリーズスピードライトがあります。通常のAE撮影と同じ操作感覚で、E-TTL自動調光、ハイスピードシンクロ（FP発光）、FEロック撮影などのストロボ撮影を行うことができます。なお、550EXでは、簡単な操作で、E-TTL 自動調光対応のワイヤレス多灯撮影ができます。





マクロストロボ

近接撮影用ストロボとして、EXシリーズマクロストロボがあります。
片側発光から、光量比制御まで、高度なライティングをE-TTL自動調光で簡単に行うことができます。また、ハイスピードシンクロ（FP発光）、FEロック撮影のほか、550EX、420EXをスレーブにしたワイヤレス増灯機能など、多様なマクロストロボ撮影に対応しています。



タイマーリモートコントローラー TC-80N3

①セルフタイマー ②インターバルタイマー ③長時間露光タイマー ④撮影回数設定機能を内蔵した、コード長80cmのリモートスイッチです。時間は、1秒から99時間59分59秒まで1秒単位で設定できます。ワンタッチロック式接続プラグをEOS D60のリモコン端子に接続して使用します。



リモートスイッチ　RS-80N3

超望遠撮影、マクロ撮影、長時間露光（バルブ）撮影などにおけるカメラブレ防止に有効なリモートスイッチです。コード長は80cm。スイッチはシャッターボタン半押し、全押しと同じ機能、およびレリーズロック機能を備えています。ワンタッチロック式接続プラグをEOS D60のリモコン端子に接続して使用します。



CFカード

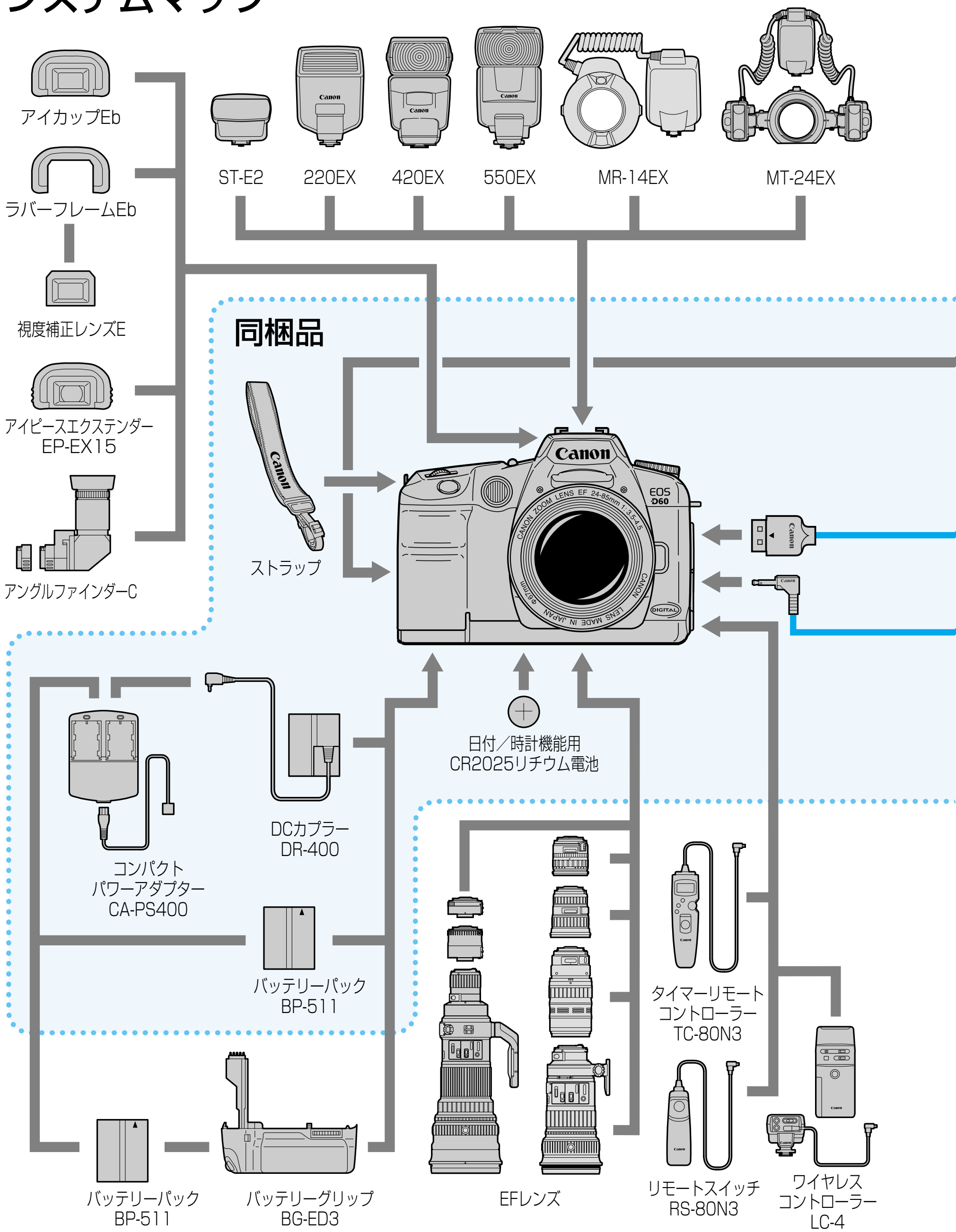
撮影した画像を記録するためのメモリーカードです。
CFカードは、キヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。



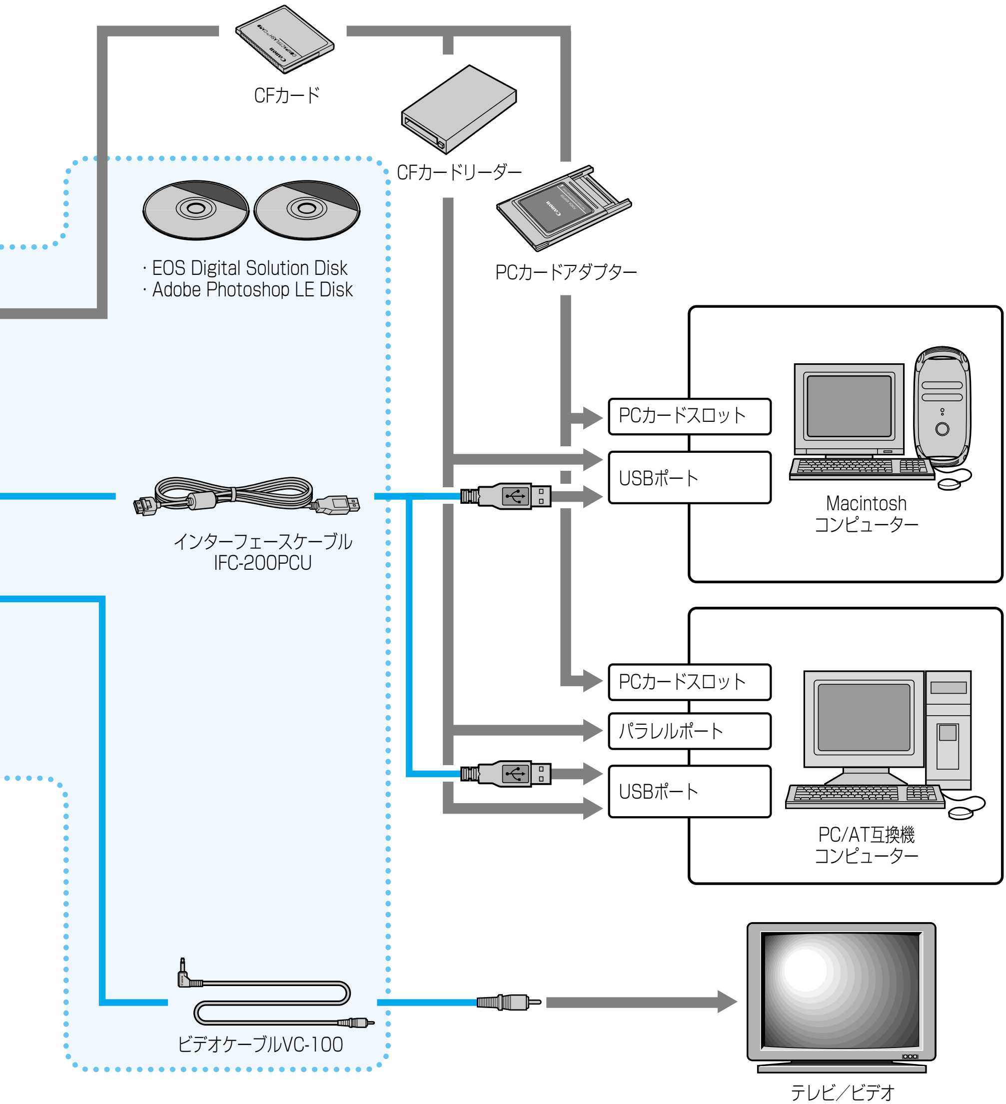
PCカードアダプター

CFカードをコンピューターのPCカードスロットや、カードリーダーへ差し込むためのアダプターです。

システムマップ



アイカップEb
ラバーフレームEb
視度補正レンズE
アイピースエクステンダー
EP-EX15
アングルファインダーC
ST-E2
220EX
420EX
550EX
MR-14EX
MT-24EX
同梱品
ストラップ
日付／時計機能用
CR2025リチウム電池
コンパクト
パワーアダプター
CA-PS400
DCカプラー
DR-400
バッテリーパック
BP-511
バッテリーパック
BP-511
バッテリーグリップ
BG-ED3
EFレンズ
タイマーリモート
コントローラー
TC-80N3
リモートスイッチ
RS-80N3
ワイヤレス
コントローラー
LC-4


CFカード
CFカードリーダー
PCカードアダプター
· EOS Digital Solution Disk
· Adobe Photoshop LE Disk
PCカードスロット
USBポート
Macintosh
コンピューター
インターフェースケーブル
IFC-200PCU
PCカードスロット
パラレルポート
USBポート
PC/AT互換機
コンピューター
ビデオケーブルVC-100
テレビ／ビデオ

主な仕様

■型式

型式 ……………………………ストロボ内蔵、デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体 ………………………CFカード（Type Ⅰ，Ⅱ準拠）
撮像画面サイズ ……………22.7×15.1mm
使用レンズ …………………キヤノンEFレンズ群
(有効撮影画角は、表記焦点距離の約1.6倍に相当)
レンズマウント ……………キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式 ……………………………高感度・高解像度大型単板CMOSセンサー
画素数 …………………………カメラ部有効画素：約630万画素
総画素：約652万画素（3152×2068）
アスペクト比 ………………3：2
カラーフィルター方式 ……原色フィルター
ローパスフィルター ………撮像素子前面に配置、取り外し不可

■記録形式

記録フォーマット形式 ……DCF（sRGB準拠）
記録画像形式 ………………JPEG、RAW（12bit）
ファイルサイズ ……………(1)Large/Fine：約2.5MB（3072×2048画素）
(2)Large/Normal：約1.3MB（3072×2048画素）
(3)Middle/Fine：約1.4MB（2048×1360画素）
(4)Middle/Normal：約0.7MB（2048×1360画素）
(5)Small/Fine：約0.9MB（1536×1024画素）
(6)Small/Normal：約0.5MB（1536×1024画素）
(7)RAW：約7.4MB（3072×2048画素）
＊撮影条件、ISO感度により異なる
ファイル番号 ………………(1)通し番号 (2)オートリセット
現像パラメーター …………標準のほか、任意設定した現像パラメーターを3種類登録可能
インターフェース …………USB Ver.1.1（専用ケーブル使用）

■ホワイトバランス

方式 ……………………………撮像素子による
種類 ……………………………(1)オート (2)太陽光 (3)くもり (4)電球 (5)蛍光灯 (6)ストロボ
(7)マニュアル

■ファインダー

方式 ……………………………ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率 …………………………上下／左右とも95%（対有効画素・視野率）
倍率 ……………………………0.88倍（50mmレンズ・∞・－1dpt）
アイポイント ………………20mm
視度調整範囲 ………………－3～+1dpt
フォーカシングスクリーン…固定式、全面ニューレーザーマットスクリーン
ミラー …………………………クイックリターン式全面ハーフミラー
（透過：反射=40：60、ミラー切れ：600mm F4までなし）

ファインダー情報 …………AF情報：AFフレーム、合焦マーク
露出情報：シャッター速度、絞り数値、マニュアル露出、AEロック、部分測光範囲、露出レベル、露出補正量、AEBレベル
ストロボ情報：充電完了、ハイスピードシンクロ、FEロック、調光補正量、調光補正表示、赤目緩和ランプ点灯表示
警告表示：露出警告、FEロック連動範囲外警告、CFフル警告、CFエラー警告、CF未装填警告、データ処理中
その他：連続撮影時の最大撮影可能コマ数、撮影可能コマ残数
被写界深度確認 ……………絞り込みボタンによる

■オートフォーカス

方式 …………………………マルチBASISによるTTL-CT-SIR方式
（TTL二次結像位相差検出方式）
測距点 ………………………3点（｜+｜）
測距輝度範囲 ………………EV0.5〜18（常温・ISO100相当）
フォーカスモード …………(1)ONE SHOT AF (2)AI SERVO AF (3)AI FOCUS AF (4)手動（MF）
AFフレーム選択……………(1)自動選択 (2)任意選択
AFフレーム選択表示………ファインダー内スーパーインポーズと表示パネルによる
AF補助光……………………ランプ照射式、自動投光
有効距離：約3.8m（中央部）

■露出制御

測光方式 ……………………35分割SPC使用TTL開放測光
(1)評価測光（全てのAFフレームに連動）
(2)部分測光（中央部・ファインダー画面の約9.5%）
(3)中央部重点平均測光
測光範囲 ……………………EV2〜20（常温・50mm F1.4使用・ISO100相当）
露出制御方式 ………………(1)プログラムAE（全自動・ポートレート・風景・クローズアップ・スポーツ・夜景ポートレート・プログラム）(2)シャッター優先AE (3)絞り優先AE (4)自動深度優先AE (5)マニュアル露出 (6)E-TTLプログラムストロボAE
ISO感度 ……………………100, 200, 400, 800, 1000相当
露出補正 ……………………AEB：1/2, 1/3段ステップ±2段
標準露出→マイナス補正→プラス補正の順で撮影
手動：1/2, 1/3段ステップ±2段（AEB併用可能）
AEロック …………………自動：ONE SHOT AF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタン押しによる

■シャッター

形式 …………………………電子制御式フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度 ……………1/4000〜30秒（1/2, 1/3段ステップ）、bulb、X=1/200
レリーズ方式 ………………ソフトタッチ電磁レリーズ
セルフタイマー ……………10秒後撮影
リモコン ……………………リモートスイッチRS-80N3対応

7
資料

■内蔵ストロボ

形式 ……………………………リトラクタブル式、E-TTL自動調光オートポップアップストロボ
ガイドナンバー ……………12（ISO100相当・m）
充電時間 ……………………約3秒
充電完了表示 ………………ファインダー内ストロボ充電完了マーク点灯
照射角 ………………………レンズ表記焦点距離18mm相当の画角に対応
調光方式 ……………………E-TTL自動調光（全てのAFフレームに連動）
ストロボ調光補正 …………1/2, 1/3段ステップ±2段

■外部ストロボ

対応ストロボ ………………スピードライトEXシリーズ対応（E-TTL自動調光）
シンクロ端子 ………………あり

■ドライブ関係

ドライブモード ……………(1)1コマ撮影 (2)連続撮影 (3)セルフタイマー
連続撮影速度 ………………最高約3コマ/秒（ONE SHOT AF・1/250以上）
連続撮影時の最大撮影可能コマ数…8コマ

■表示パネル

表示パネル照明 ……………あり

■液晶モニター

形式 ……………………………TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ …………………1.8型
画素数 ………………………約11.4万画素
視野率 ………………………約100%（対有効画素・視野率）
輝度調整 ……………………2段階（標準/明るく）

■再生機能

画像表示形式 ………………(1)1コマ (2)1コマ(info.) (3)9コマインデックス (4)拡大
(5)オートプレイ
ハイライト表示 ……………画像表示形式(1), (2)のとき、画像情報のない白域部分を点滅表示

■記録画像のプロテクト／消去

プロテクト …………………1コマ単位でプロテクト・解除
消去 ……………………………1コマ／カード内全画像の単位で消去（プロテクト画像を除く）

■メニュー機能

メニュー内容 ………………(1)撮影系：赤 (2)再生系：青 (3)セットアップ系：黄
表示言語 ……………………(1)日本語 (2)英語 (3)フランス語 (4)ドイツ語
カスタム機能 ………………14種38項目

■電源

使用電池 ……………………バッテリーパックBP-511、1個使用
＊DCカプラー併用により、AC駆動可能
撮影可能コマ数 ……………

	常温	低温
ストロボ撮影なし	620コマ	480コマ
50%ストロボ使用	490コマ	400コマ

＊フル充電のバッテリーパックBP-511使用時

バッテリーチェック ………自動、3段階残量表示
節電機能 ……………………あり、設定時間（1／2／4／8／15／30分）経過で電源OFF
日付／時計機能用電池 ……CR2025リチウム電池　1個

■大きさ・質量

大きさ ………………………149.5（幅）×106.5（高さ）×75（奥行）mm
質量 …………………………780g（電池・CFカード別）

■動作環境

使用可能温度 ………………0℃～+40℃
使用可能湿度 ………………85%以下

■コンパクトパワーアダプター　CA-PS400

対応バッテリー ……………バッテリーパックBP-511
対応カプラー ………………DCカプラー DR-400
バッテリー取り付け部 ……2箇所（DCカプラー取り付け時は充電不可）
電源コード長 ………………約1.8m
充電時間 ……………………約90分（1個あたり）
定格入力 ……………………AC100～240V（50/60Hz）
定格出力 ……………………バッテリー充電時：DC8.4V
カプラー接続時：DC8.1V
使用可能温度 ………………0℃～+40℃
使用可能湿度 ………………85%以下
大きさ ………………………100（幅）×51（高さ）×133（奥行）mm
質量 …………………………285g（電源コードなし）

■DCカプラー　DR-400

対応アダプター ……………コンパクトパワーアダプター CA-PS400
対応カメラ …………………EOS D60、EOS D30
定格入力 ……………………DC6.3～10.5V
定格出力 ……………………DC6.3～10.5V
コード長 ……………………約1.8m
使用可能温度 ………………0℃～+40℃
使用可能湿度 ………………85%以下
大きさ ………………………38.4（幅）×21（高さ）55.3（奥行）mm
質量 …………………………110g

- 記載データは全て当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

索引

英数字

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社　カメラ販売事業部
〒108-8011 東京都港区三田3-12-15（東急三田ビル）　http://canon.jp/

お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理サービスのご相談は、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店または、別紙のサービス窓口にご相談ください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンデジタルカメラホームページのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用のかたは、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社／キヤノン販売株式会社
http://www.canon.co.jp/Imaging/
http://www.canon-sales.co.jp/camera/eosd/index-j.html

この使用説明書は、2002年1月に作成したものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。

CTI - 5136 - 001

PRINTED IN JAPAN